

文部科学省平成19年度委託事業「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

民間団体に取り組む「学びあい、支えあい」  
地域活性化推進事業に関する成果調査

全国子どもNPO運営協議会



## 調査報告書発行に際して

「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業について文部科学省は、この事業から得ようとする効果と目標を次のように定めている。

「本事業は、ボランティア活動をはじめ、地域住民が主体的に地域課題等の解決に取り組む事業などを通して、地域住民のきずなを深め、学びあい、支えあう地域づくりの推進を目指す。」その結果として、「地域住民が身近な地域に関心を持ち、主体的に地域の課題解決等に関わろうとする気運が全国的に広がりを見せることで、地域住民が共に学び、支えあう地域づくりが推進され、ひいては、住民の連帯感、地域のきずなによる地域の教育力の向上に結びつくものと考えられる。」と目論まれている。

本調査もこのシナリオに沿い、現実の地域活動がどのように展開されたのか、どのような行動によって地域の現状にアプローチし、どのような困難を克服しながら、どのような成果を得たのか、これらの把握に努めたつもりである。

なお、我々のネットワークは3年前に遡る「2005年度地域子ども教室」(文部科学省委託事業)の実施に際し、全国各地域で多様な経緯とアプローチで活動を続けてきた子どもにかかわる民間グループやNPOに呼びかけて結成された、ジャンルや手法を越えた草の根のニューウェーブとして連携を育み着実な成果を残してきた。

本事業においては59の実行委員会、257の事業がネットワークされているが、特に「地域の学びあい支え合い」をテーマとすることから、子どもの居場所づくり事業以上に多様なテーマと新たなネットワークを包括することとなっている。こうした状況は単にネットワークの状況に留まらず、各地域における事業の実施に際しても、これまでになかった広い対象への呼びかけや、新たな活動スタイルを生み出し、その可能性と課題が捉えられている。

この調査の冒頭においては、そもそも「地域教育力」とは誰に対する教育力なのか？ 何をもって教育力とするのか？ 「地域とは、どれほどのエリアが妥当なのか」といった根本的な問いも発せられているが、これらの精度については今後の課題とし、本調査においては、微力ではあるがリアルな現状把握に努めたところである。というのも、先に記した事業の「効果と目標」について、たとえば某テレビ番組「ご近所の底力」をイメージするのは容易ではあるが、実際に継続的にこの活動を運営し成果に繋げていくことは、コミュニティが崩壊した地域社会にあって困難を極めることは想像に難くなかったからである。まずは、等身大の自身を見切ることからスタートする必要がある。ほとんど定期的に報道される衝撃的な事件について我々市民は、諦めるわけにはいかないし、こうした現状であるからこそ私たちの活動に期待とさらなる継続的な展開が求められるわけであり、私たち大人と社会は、その責において、新たな知恵と力を身につけていく必要がある。

この事業の本質は、市民主体の地域づくりを国が後方支援をする取組であり、そのコンセプトにおいて文部科学省が的確な種を播いたことに、深く敬意を表したい。

そして今、そのコンセプトの元、257の地域において「学びあい、支えあう」グループが小さな芽を出し、目には見えない人々のつながりの中に、力強い根を張ろうとしていることをこの報告書に読み取っていただけたら幸いである。共通する課題も見えてくるだろうし、それを克服した知恵も見いだせるかもしれない。葛藤を抱えているグループもあるに違いない。しかし、最大の成果はこの事業によってこれまでになかったチャンネルが地域と人々の間に拓かれたことを随所に見いだせることだと感じる。もとより短兵急な成果は望めないテーマである。国も、社会も、地域の人々も、息の長い活動に、諦めない、途切れることのない力強い支援を願いたい。

2008年3月

調査責任者 稲垣秀一  
(子どもNPO・子ども劇場全国センター理事)

## 文部科学省平成19年度委託事業「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

### 民間団体が取り組む「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業に関する成果調査

#### ■調査の目的

- ① どのような意識を持った立場の人・団体が
- ② どのような目的と方法で
- ③ 50万程度の資金をどのように使い
- ④ どのような成果を上げられたか

以上4つのポイントで民間団体が実施した「学びあい、支えあい」事業の客観的なデータと、事業実施者による自己評価という2つの視点から把握し、今後の課題に資するものとして、地域でこの事業を担う団体がそれぞれどのようなテーマを持った活動体で、どのようなニーズと方向性をもっているのか、事業を展開しようとする方たち、またこれから事業を行おうとする人々の相互理解を深めるための資料提供とすることを目的とした。

なお、NPO本来の趣旨から民間活動の公益性やコンプライアンスの確保を全国協議会として自律的に把握していくことが重要であり、この調査を通じ、委託事業に対する適正な成果・結果を各実施団体が自己検証するための手立てのひとつと位置づけた。

■調査対象 全国子どもNPO運営協議会に加盟する59実行委員会257事業

■調査方法 郵送留置法。全国子どもNPO運営協議会に参加する実行委員会及び地域実施団体に調査協力を依頼。3種類の調査票を実行委員会に配布し、回答返送を求めた。

調査期間 2月1日（金）～2月20日（水） 回収〆切 2月29日

調査票は Aタイプ調査票 …… 地域実施事業実績  
Bタイプ調査票 …… 実行委員会事業実績（複数事業実施の場合の総括）  
Cタイプ調査票 …… 実行委員会における代表的事業の紹介

複数事業を実施している実行委員会は、自グループの実施団体が記入した「Aタイプ調査用紙」を回収し、その回答を参照・集約し、B・Cタイプの調査用紙に記入。そのすべてを全国子どもNPO運営協議会に返送。

（事業を2月以降も実施している場合は、1月末時点での実績に基づく事業終了時の予測値を回答）

■回収率 B・Cタイプ回答46実行委員会79.6%（実行委員会比）

Aタイプ回答160事業（うち有効回答156/257事業）60.7%（実施事業比）

## 新規・拡充事業評価票

### ①事業名 【4】「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

②主管課及び関係課（課長名）（主管課）生涯学習政策局社会教育課

③施策目標及び達成目標

施策目標 1-2 「地域の教育力の向上」

達成目標 1-2-4 「ボランティア活動をはじめとした、地域のきずなを深める取組を推進する。」

④事業の概要

住民がボランティア活動や家族参加の体験活動など通じて、地域の様々な課題に取り組みながら解決するなど、地域の人々が「ふれあい、支え合う」地域のきずなづくりを推進し、地域の教育力の再生を図る。

⑤予算額及び事業開始年度

平成19年度概算要求額： 1,502百万円（新規）

事業開始年度： 平成19年度

⑥広報計画

【ターゲット】本事業は、住民自身による地域課題等の解決に資する活動に取り組む都道府県や市町村等を主なターゲットに広報活動を進めていく。

【メッセージ】本事業は、ボランティア活動をはじめ、地域住民が主体的に地域課題等の解決に取り組む事業などを通して、地域住民のきずなを深め、学びあい、支えあう地域づくりの推進を目指す。

### ⑨得ようとする効果及び上位目標との関係

#### 【得ようとする効果】

本事業を契機として、地域の課題等に関心を持ち、地域独自の活動として定着した地域数の増加を目指し、その成果を全国的に普及する。また、フォーラムなどの広報啓発活動を行うことで、地域づくりへの住民参加の気運を醸成し、社会参加活動を促進する。

#### 【上位基本目標・達成目標との関係】

地域住民が身近な地域に関心を持ち、主体的に地域の課題解決等に関わろうとする気運が全国的に広がりを見せることで、地域住民が共に学び、支えあう地域づくりが推進され、ひいては、住民の連帯感、地域のきずなによる地域の教育力の向上に結びつくものと考えられる。

⑩達成年度 平成21年度

⑪必要性

中央教育審議会「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」（平成16年3月）において、生涯学習の振興のために重点的に取り組むべき分野として、「地域の教育力の向上」、「地域課題の解決」が挙げられており、各地域において、切実な地域課題に適切に対応していくことにより、個性豊かな活力ある地域社会を築いていく必要があると提言されている。

また、文部科学省が行った「地域の教育力に関する実態調査」（平成18年2月）によると、「地域教育力が低下している」と認識している人が過半数を占めており、その要因として、「個人主義が浸透し、他人の関与を歓迎しないため」と考える人が最も多い。

さらに、「近隣の人々との親交を深める機会の不足」や「地域の安全性に対する不安から、他人との交流に対する抵抗感が増している」ことが、地域教育力の低下の要因として挙げられている。

#### ⑫効率性

##### 【事業に投入されるインプット（資源量）】

平成19年度の本事業における予算規模は、1,502百万円である。

##### 【事業から得られるアウトプット（活動量）】

国（文部科学省）の委託事業により行うことで、地域や家族のきずなを深める様々な活動や、地域課題等を解決する取組の機会の提供を全国的に行うことが可能となる。

また、各地域の取組結果や先進事例、課題等を短期間に効率的（効果的）に把握することが可能である。

さらに、取組事例集の作成・普及することにより、取組が進んでいない地域でも参考とすることができる。

#### ⑬想定できる代替手段との比較考量

地域独自の事業として行うよりも、国（文部科学省）からの委託事業として行うことにより、短期間かつ効率的に事業の成果や課題を把握し、その結果を波及できる点が効果的であると考えられる。

#### ⑭有効性

**【指標】** ・本事業実施をきっかけとして地域独自の取組に移行した地域数

**【参考指標】** ・全国の公立小学校区数22,856校（平成17年度学校基本調査）

#### ■効果の把握の仕方

本事業の効果は、各地域の実施主体が、事業実施前に適切な達成目標を設定し、事業終了後にその検証を行う。文部科学省では、その検証結果をもとに効果の分析を行う。

また、事業終了後に住民への意識調査や地域に定着した取組等に関するアンケート調査を行うことにより効果を把握する。

#### ■得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠

地域住民が主体的に地域課題等の解決に取り組んだり、地域全体が参加する事業を実施することにより、活動の中で住民同士の交流が深まり、さらに問題意識を共有し、一丸となってその課題解決に取り組むようになるなど、地域のきずなを深め、住民が共に学びあい、支えあう地域づくりの全国展開が図られたことを以て、想定された効果が得られるものと判断する。

#### ⑯評価に用いたデータ・情報・外部評価等

- ・中央教育審議会「今後の生涯学習の振興方策について（審議経過の報告）」（平成16年3月）
- ・文部科学省「地域の教育力に関する実態調査」（平成18年2月）

各地域事業実施団体からの調査結果

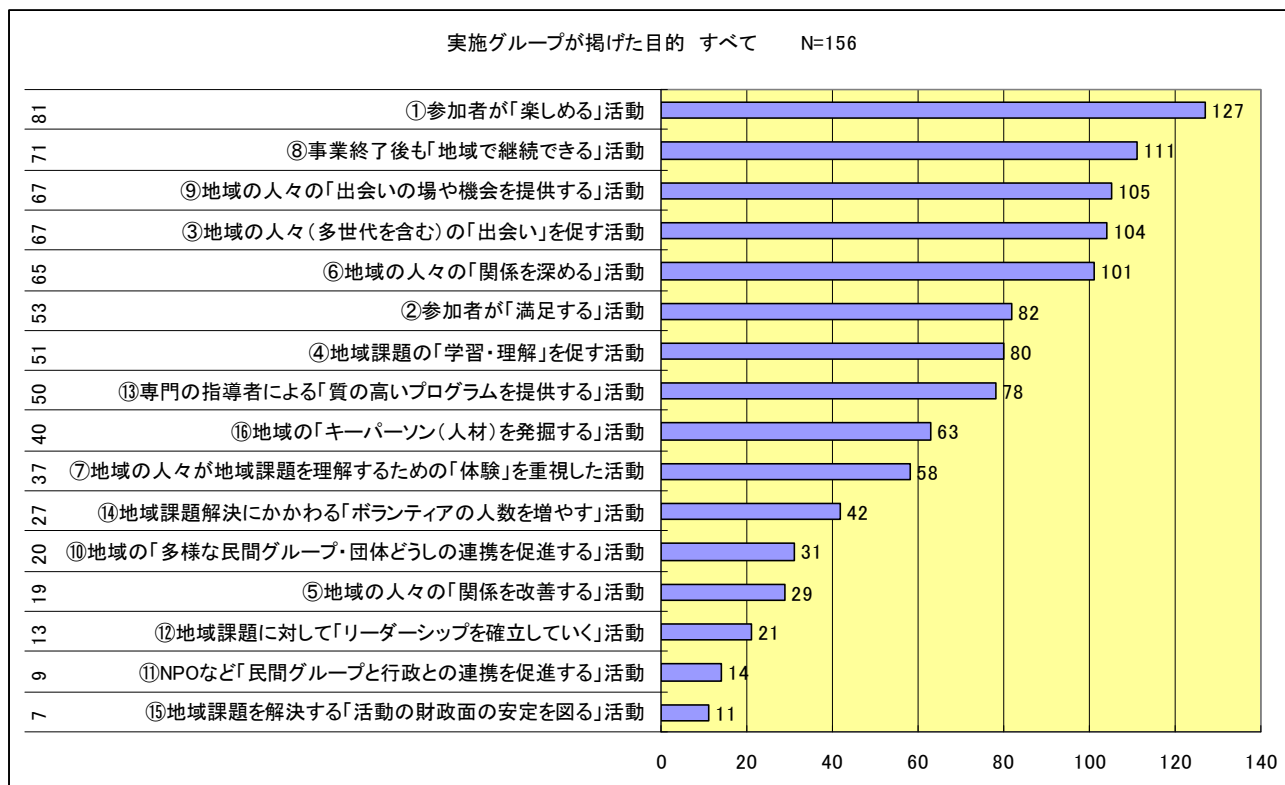
156 グループ

## (1) 今年度事業の目的と優先順位

■あなたが今年度、実際に地域で実施した事業を振り返り、事業の目的として意識したキーワードを以下の選択肢から選択してください。

もし、選択肢にキーワードが無い場合には、17～21の空欄に自由に記入してください。

■次に、選択したキーワード(1～21)の中から、上位5つの目的に優先順位をつけ、その項目番号を記入してください。



・各地域のグループは、「学びあい、支えあい」を実現するために多様な取組をしているが、その目的を実現するためのステップとして、どのような目的意識を持っているをたずねた。結果は160のグループから回答を得、有効回答は156だった。

・最も多かった項目は、①参加者が「楽しめる」活動で1位単独、3位単独、及び1位～5位積算でも110グループと最多となっている。一方、同様の傾向を示すと思われた②参加者が「満足する」活動については、1位～5位積算で60グループと約半分になる。

・次に1位～5位積算80グループ前後で並ぶのが、「出会い」の機会提供と促進となっている。

③地域の人々(多世代を含む)の「出会い」を促す活動、⑨地域の人々の「出会いの場や機会を提供する」活動合わせると、162グループが目的の上位に掲げている。

・この「出会い」に並ぶのが、⑧事業終了後も「地域で継続できる」活動を目的として、四位・五位に掲げるグループが多くあり1位～5位積算でも3番目にランクしている。



・30グループが一位としたのが、⑬専門の指導者による「質の高いプログラムを提供する」活動であった。

・また、⑥地域の人々の「関係を深める」は75グループあるが、⑤人々の「関係を改善する」活動は12グループと大きな差がみられる。

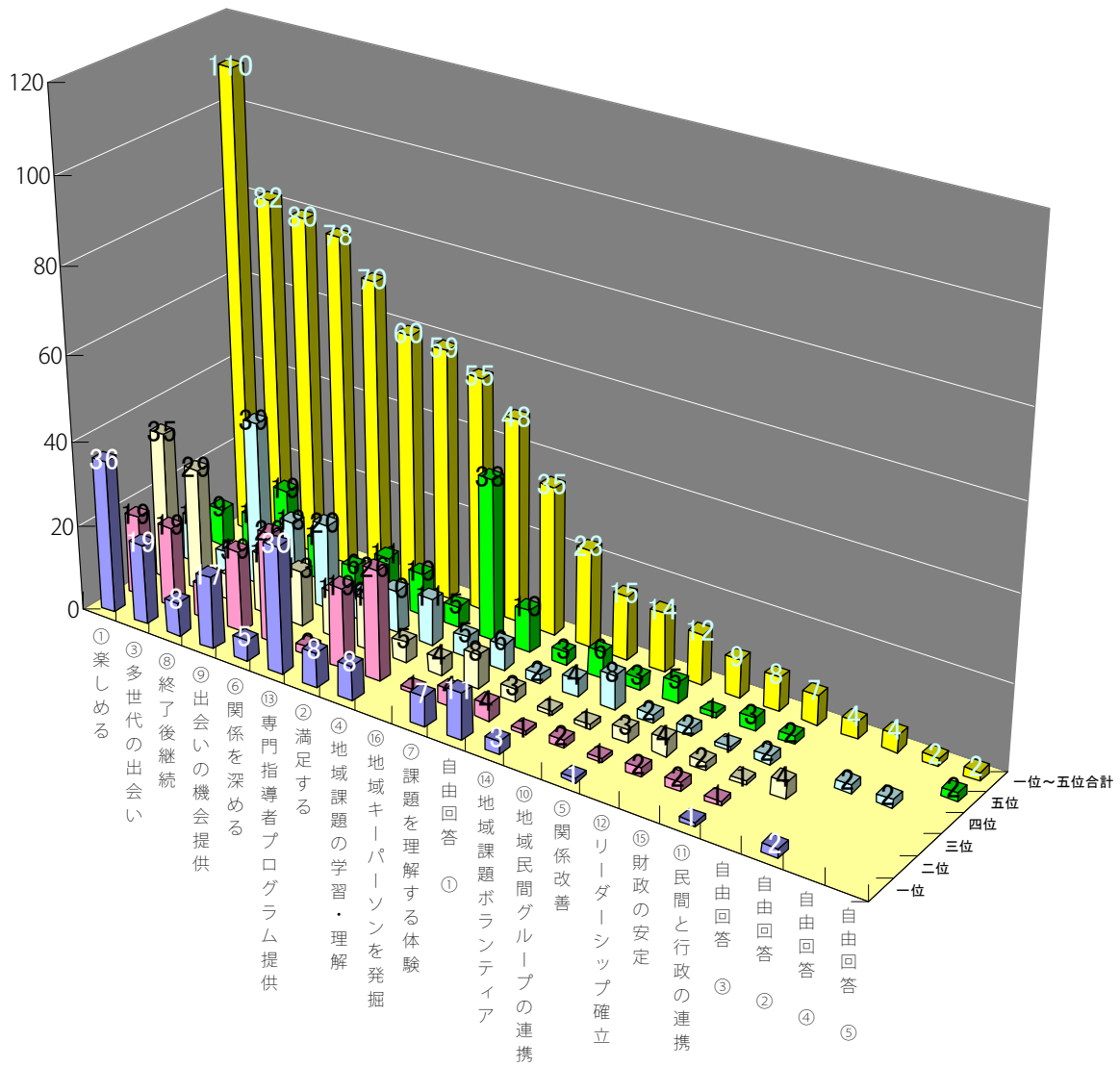
・他に特徴的なことは、目的の第五位に多くのグループ掲げている「事業の継続」と同数の、⑯地域の「キーパーソン（人材）を発掘する」活動の38グループ（1位～5位積算48G）で、事業の継続と人材の確保が運営の課題であることがうかがえる。

各地域実施グループの回答 N=156

	「目的の項目」プリコード選択肢①～⑯	一位	二位	三位	四位	五位
1	①参加者が「楽しめる」活動	36	19	35	11	9
2	②参加者が「満足する」活動	8	19	12	10	10
3	③地域の人々（多世代を含む）の「出会い」を促す活動	19	19	29	5	10
4	④地域課題の「学習・理解」を促す活動	8	26	5	11	5
5	⑤地域の人々の「関係を改善する」活動	1	1	3	2	5
6	⑥地域の人々の「関係を深める」活動	5	26	13	20	6
7	⑦地域の人々が地域課題を理解するための「体験」を重視した活動	7	4	8	6	10
8	⑧事業終了後も「地域で継続できる」活動	8	8	6	39	19
9	⑨地域の人々の「出会いの場や機会を提供する」活動	17	19	14	18	10
10	⑩地域の「多様な民間グループ・団体どうしの連携を促進する」活動		2	1	8	3
11	⑪NPOなど「民間グループと行政との連携を促進する」活動	1	1	1	2	2
12	⑫地域課題に対して「リーダーシップを確立していく」活動		2	4	2	1
13	⑬専門の指導者による「質の高いプログラムを提供する」活動	30	2	11	6	11
14	⑭地域課題解決にかかわる「ボランティアの人数を増やす」活動	3	1	1	4	6
15	⑮地域課題を解決する「活動の財政面の安定を図る」活動		2	2	1	3
16	⑯地域の「キーパーソン（人材）を発掘する」活動		1	4	5	38
17	自由回答 ①	11	4	3	2	3
18	自由回答 ②	2			2	
19	自由回答 ③			4		
20	自由回答 ④				2	
21	自由回答 ⑤					2

実施地域が目的とした項目の順位 一位～五位

N = 156



「学びあい、支えあい」事業実施による、各地域の  
「対象・活動前の状況・苦勞、障害」そして、  
「成果・成果につながったポイント」

NO.	地域名	効果	得点	① 対象	② 活動前の状況	③ 苦労・障害
1	木町通地域	5	9	活動参加者	個人主義で自分勝手な行動が多かった。	なかなか大人の参加者が集まらず、苦労した。
2	【富谷地区】	5	8	地域住民の大人と子どもの関係を改善	近年のコミュニティの希薄化により、地域でのあいさつや基本的なマナーを守ることができない人が増えている、子育てに悩む大人達、その大人自身が自己改革の必要に迫られている。(子は親の背を見て育つ)・(親がなくても子は育つ)最近前者知らずして後者のみは知っている大人が増えている。	①親子連れでの参加は日時的に難しい、学校の冬休みを利用する数日に集中した。 ②通常公民館は土日休日は閉館である。
3	青葉区八幡地域	1	6	八幡小学校児童、父兄、学校関係者、地域関係者、地域行政関係者、参加ボランティア全員、参加者全員	子どもと保護者との関係、教師との関係、地域の大人との関係が余り行われていなく、子ども達も含めて地域の連携が、あまりみられず、関わりも浅いものであった。	参加者を募集するに当たって、八幡小学校児童、父兄、学校関係者、地域関係者、地域行政関係者広告や募集に苦労した。私達が行っている事業や団体がどういったものなのか理解していただくための説明も難しく、あまり本質を伝えることができずにいた。
4	太白秋保地区	17	7	仙台市の都市住民	2軒の農家が農業体験のイベントを散発的に行っていた。	参加者の募集・広報に苦労した。
5	宮城県刈田郡蔵王町	8	7	地域の老人と子どもたち	老人会と子ども会が別々の活動だった。	コミュニケーションが平日頃取れていないので話題を作るのにちょっと苦労した。
6	泉ヶ岳地区	1	8	泉ヶ岳周辺の地域と学生ボランティアと非日常生活を味わってみたい地域	プログラム内容を実際に体験する前で不安が多かった。	学校の協力が得られない地域があり、広報に苦労した。
7	仙台市青葉区地域	6	9	仙台市青葉区の住民	活動場所の地域的に地域住民同士の交流が少ない地域である	参加者がなかなか集まらなかった。地域の情報誌や新聞の情報欄への投稿を行った。
8	将監地区	3	5	町内会	閉鎖的	地域の協力が少ない
9	宮城県七ヶ浜地域	9	7	地域住民	地域の特色でチラシの配布の協力が得られないこと。	スケジュールどおりに場所がとれなかった事があった。
10	宇都宮市	6	9	地域の子どもから大人まで	家族単位で行動する場合が多く、自主的に地域の方と共同で何かをする環境ではなかった。	事前の準備がたいへんだつたこと、天候によっては順延になって、参加者への連絡がたいへんでした。
11	東久方町、境野町、わたらせ渓谷鐵道沿線	1	10	近代化産業遺産群の利活用	桐生市内のノコギリ屋根工場が老朽化と固定資産税を理由につぎつぎに壊されていた。	片付けの規模が現場によってははっきりしないために活動の予定がたちにくい。
12	東京都新宿区	16	9	地域で子育てをしている現役世代	講師がいなければ活動の継続はできないと思っていた。	地域に伝わるわらべうたあそび、伝承あそびの発掘をプログラムに含めていたが、実際はあそびを実体験として記憶している高齢者の方を探すこと自体が難しく、スムーズにネットワークを持つ団体との連携が、スムーズに進まなかった。双方が同じ地域で何を発信したいのか、連携することで何を共有できるのか、というビジョンもあい
13	東京都東久留米市	9	7	子育て世代の一般市民、地域で活動している子育て団体の関係者	個人や団体がゆるくつながっているが、子育ての当事者が新たな活動を生み出したり、自ら人間関係を構築する、といったような発想はあまりなかった。	子育ての当事者を主体とした多世代の参加者を期待していたが、実際は子育てを終えた世代の参加者が多かった。
14	東京都東村山市	18	9	地域で図書館ボランティア活動をしている方々への周知。子育て支援関係	ボランティアで育児支援や地域活動に関わる人たちのスキルアップや交流の場がなかった。	ワークショップ実践のための子どもの募集。今回は学校現場に入ることができたが、なかなか子どもが集まらない現状があった。
15	埼玉県所沢市宮本町	13	10	所沢市を中心に、子どもの表現活動の支援・指導にあたる大人の方々	より活動を充実させるための方法論・視野の広がりをも求めている。	世代によって参加への意欲がまちまちで、参加者同士が警戒し合っているという雰囲気を取り除くまでに時間がかかった
16	入間市宮寺・扇町屋	6	7	子育て現役世代の母親を中心に、子どもの健全育成に関わる活動をしている	「子ども」というキーワードはあるものの、繋がりを持つまでの関係に至らなかった	企画立案から実施に関わるスタッフ数が少なく、計画に沿って事業をすすめる負担感が大きかった。広報周知の方法をなかなか広げられず、コンサートの参加者が少なかった
17	松戸市矢切地区	9	9	十代の子どもの成長、発達を理解し見守る大人を増やす	継続的に働きかけていたが、ジャンク広場の開催を中心に行っていた	内容が豊富でパワーあふれ、編集時の選択が困難であった。
18	松戸市新松戸南地区	16	10	子育て当事者の若い世代	子育てを経験した団塊の世代と子育て当事者の接点が多かった。	参加募集や広報活動に苦労したが、町会、学校、地域ボランティアが協力的であった。夜の街探検では予想以上に青少年の参加があり、反射灯などの防犯グッズが不足
19	松戸市松飛台・五香地区	7	10	安心安全なまちづくりをテーマとした、地域住民の交流とネットワーク	ボランティアを中心とした町会や学校保護者による登下校や週末・夜間のパトロール体制が確立されていて、防犯意識が非常に高い地域であった。	子どもを温かく見守る大人という女性の活動というイメージがあるようで、なかなか男性の参加を促す事が難しかった。
20	八千代市村上地区	3	9	子どもとかかわり、子どもを温かく見守る地域住民を増やし、地域のきずなを築くこと	同じ地域に住んでいながら、お互いに出会い、知り合う機会が少ないため、親以外の地域住民が子どもとかかわり、子どもを見守る役割を十分に果たせていなかった。	子どもを温かく見守る大人という女性の活動というイメージがあるようで、なかなか男性の参加を促す事が難しかった。
21	八千代市上高野地区	1	9	さまざまな年代と、個性を持った人が共に楽しむことを通して、互いに理解し合い、地域の人々の関係を	自然と接する機会が少ない人や、障害者と接したことのない人、多くの年代の人たちと一緒に関わったことのない人が多かった。	予定した時間どおりに歩けず、かなり遅れてロープウェイの駅に着き、駅員さんに到着まで待っていただき、ロープウェイを動かしていただいたことがあった。
22	千葉市稲毛区	8	9	子どもの地域文化環境をよくしようと思っている大人たちの、研修や学習する機会を、身近なところで	子どもが地域文化環境をよくしようと思っている大人たちの、研修や学習する機会を、身近なところであまりもてななかった。	参加者募集にあたり、テーマが伝わりにくく、申し込み者の出足が遅かったため始めはヒヤヒヤした。
23	袖ヶ浦市内	18	8	市内に住む家族	おもいほりや、おもつきなど単発の企画はあったが、一年を通して継続的に行われる自然体験活動ではなく、農作業と触れ合う機会がなかった。	天候や自然条件に左右される事業のため、直前まで日程が確定されず、思うように参加者が集まらなかった。また、農作業は畑の管理者の都合により平日に実施されることが多く、お父さんが参加しづらく家族間の交流になりにくかった。
24	千葉市緑区大権町地区	4	8	子育て中の保護者	マスコミによる子どもの事件や報道によって不安が大きくなり、個々がバラバラに対応していた。	働いている親も多く、日程調節が難しかった。
25	千葉市緑区あすみが丘地区	2	9	小学生ぐらいを中心とした子どもとその家族	これまでの家族の過ごし方は、レジャーランドなどでお金の対価として楽しさを得たり、それぞれの家族がバラバラに受身的な過ごし方が多かった。	スタッフやボランティアの人数に限りがあったので、安全上の理由であまり多くの参加者を募集できなかった。
26	千葉市花見川区	9	8	以前からこの地域にいる住民と新しいマンション群の若い子育て世代の住民	それぞれが住み限られた区域の偏った年齢層の住民(親も子どもも同年代、同世代)だけの交流が主であった	新しいマンションは参加者の募集活動(チラシ配布)が難しい。活動の対象者への広報活動は口コミがたよりである
27	大室台小学校地区	1	9	若い世代の親子	このような機会はなかったと思う	主に学校の体育館を使用させてもらったため、変更になることもあった。

④ 成果	⑤ 成果ポイント
協力し、どうすれば楽しい活動ができるか自分達で考えるようになった。	地域のために、皆さんのためにという主催者の思いを、じっくりと時間をかけて伝えていく。
地域住民の大人と子どもの関係改善は「親子でパソコン教室」のイベントを通して行った参加者、親子わけあいあい受講に取り組んでいたその成果はあたると思う。地域の大人は育ての親である地域の影響をうけ立派な社会人に育ち活躍する事は、地域の誇りとしてよいと思う。以上の事柄は受講者には理解出来たと思います、少数の人達では、あるがこの輪を広げたいと思っています。	パソコン教室はサークルとして富ヶ丘公民館に登録完了し、地域に根ざした活動として継続の基盤となった。又団塊世代の参加者が多く見受けられた、第二の雇用創出のきっかけとなれば幸いです。
同じ活動と一緒にすることで、学年や性別を問わずに関係ができ始め、友達と協力して準備や片付け、活動を行うことができるようになり、子どもの協調性や思いやりが身についたと思われる。また、活動に参加している子どもの口コミで、参加していない子ども達や保護者が興味を示しだし、地域との関わりが兆しが見え始めている。	子どもが家の外で活動できる場所が少ないことから、小学校の体育館を利用することで、そこに通う小学生の遊べる拠点となり、八幡小学校児童、父兄、学校関係者、地域関係者、地域行政関係者の方も学校という場で行うことの安心感があつたと思われる事で、すこしづつ関心を持ち始めてもらえた。
集中的に11回の食農体験を行い、延べ参加者が約100人となり、参加者の感想からみると、農業に対する理解が深まったと考えられる。	参加人数は多くないと考えるが、企画内容は的確だったと思う。
ボードゲーム「マンカラ」を通して一つの目的ができ、子ども達の施設に老人クラブの方々が来るようになった。	幼児から老人まで遊べるゲームを通し意志の疎通がとれ今後にも繋がる活動だったと思う。
多世代間の交流の場となり、また、参加者にそれぞれ活動している方が多く、他団体との交流ができ、今後の活動の連携がとれた。	自分達が楽しめる企画を経ることで、参加者にも楽しんでもらえたと思います。
教室内で小さな交流が学校や地域での交流につながっている	教室内で活動以外にも談話を設ける
活動することで理解していただけた。	一部の協力者のお陰で町内会・地域住民の理解を得られた。
地域の方の口コミで少しずつひろまった。	七ヶ浜周辺に住む学生ボランティアの協力
屋外で、ともに汗をかきながら仕事をすることで協力しあい、自然に仲がよくなって地域のまとまりができた。	丁寧に準備し、参加者への声かけをすることで、途中でやめてしまう人がすくなくつた。
活動後、商業施設として活用への道を開ききっかけを作ることができた。	ポイントは、片付けがおこなれた後に炊き出しや差し入れ、そしてミニレクチャーによってコミュニケーションと歴史的な理解を深める時間を作ることができたこと。
講師の役割、市民の役割、地域での継続の意味、などが理論と実践の連続講座により共通認識となった。実際に講師の力を借りずに実践を試み、そのフィードバックも講座の中でやったことにより、改善策も見え、自信につながった。	リサーチを試みたことで、伝承わらべうたの実態が見え、関心を持つ協力者とも出会うことができた。
同じ地域にいる複数の仲間と出会い、今回取り組んだ活動を通じて今後もつながってきたい、という意志確認ができた。	託児体制を整えたことで、子育て世代の参加が非常に増えた。
地域の大人が地域の子どもたちにあそびを手渡すための人材が、ある程度養成された。	参加者層の実際から地域ボランティア活動の実態をつかむことができ、講座内容は参加者が実際に接している子どもたちの成長段階に極力合わせたものをメインとし、具体的に役立つ内容で構成した。
日常の活動で行われている「読み聞かせ」「劇あそび」に対して、その活用方法の幅が広がった。	テーマを絞ったことと、参加者のニーズに柔軟に応えた講座内容であったこと。
地域の大人同士のネットワーク構築への一歩となった	体験講座ということで、理論をその場で体験・体感し、より理解度を高めることができた
広場の開催と、自然体験プログラムなどの企画を組み合わせた働きかけを行ったことで幅広く関心を持ってもらえた 事業を通して参加者が賛助会員になってくれた	竹の観察やものづくりの専門家、野鳥観察、スポーツなど地域の人材を活用でき、子どもも参加できるプログラムにした。 講師自身のスキルアップにつながり、参加者にも質の高いプログラムを提供でき、満足感を持ってもらえた 10代から20代のボランティアスタッフの活躍が地域の異世代交流を促進し、理解を深める役割りを果たした
子育て当事者の意見、想い、発想、団塊の世代の知恵が生かされた、その名前どおりの生きた「ガイドブック」になった。	子育て当事者が地域で自分たちの力を発揮できるようにと、団塊の世代が時には子守を引き受けたりと、サポートを心がけた。
防犯会議や夜の街探検などの活動を通して、幅広い年齢層で昼夜のパトロールをすることができ、学校や警察など公的機関との防犯ネットワークが強力になった。	町会の回覧や学校を通じて広報活動ができ、参加者が増加し、地域の住民の防犯意識が更に高まり、昨年度まで頻繁に出ていた不審者情報が激減した。
年間をとおして、世代を超えた地域住民の交流が図れた。お互いに出会い、知り合うことで地域の子ども達への温かいまなざしができ、気軽に声を掛け合える関係ができた、地域の連携が図れた。	子どもと一緒に楽しめる企画を年間を通して組み込んだことが良かった。特に、三世代まつりや幕張の浜遊びなどは、予想を越えて父親をはじめとする男性の参加者がたくさん集まった。また、着付け教室や竹細工講習会、お茶席体験やもちつきなどは、大人も子どもも共にスキルを学びながら交流する場となり好評だった。
登山やハイキングを通して、自然と接し自然の豊かさを実感すると共に、障害者、健常者とも健康の増進にもつながった。障害者と接する経験を持つことができ、障害者に対する理解が深まった。子どもや若い人たち、そして高齢者まで多くの世代と交流することで、互いに思いやりと感謝の心を持つことができた。	あれこれと細かい指示をせず、各自の自主性を大切にし、無理のない範囲で協力してもらったこと。また、サポートをする人も、まず自分自身が楽しむことを大切にもらったことと、無理なく障害を持つ人との登山やハイキングを楽しむことができた。
エネルギー充電、互いの交流、学習の場となり、これからも現場で元気にやっていくという力になった。	駅に近い会場にしたことは、参加者が行きやすい条件でよかった。企画内容がタイムリーだった。
同じ畑や竹林を意年を通じて借りられたことにより、農作物の種まき・草取り・収穫までを体験できた。また一緒に作業することで家族同塩連帯感も生まれ、絆が深まった。農作物の成長の過程を見ることができ、その大変さそして食べ物へのありがたみも実感できた。	農作業だけでなく、小枝のアートやリース作りなど自然の素材を生かした企画や、そうめん流しやおもちつきなど季節感あふれる食に関わる企画を盛り込んだことにより、多くの参加者が集まった。
活動を通して、地域の子どもの状況を話し合い、問題解決をさぐることができた。	年間を通して、地域住民交流会意外にもスタッフが集まり子どものはなしや地域の話し合いをした。
いろいろな家族がともに活動を体験することで、大人や若者・学年の違う友達と交流することができた。親子の中でも新しい発見があったり、協力し合う姿が見られ、同じ地域の大人に対する信頼や安心感にも繋がったと思う。	専門家の外部指導者を講師に迎えることができたので、家族だけではできない貴重な体験をすることができ、次回への期待に繋がった。
参加者は自分、我が子、我が家の意識から、異世代、異年齢、他の区域住民も仲間として(仲間になりうる)と認識できるようになってきた。	パーベキューとゲームの企画で普段出会って話す事もない年齢の子どもや大人と一緒に一日を過ごした。ゲームでは子どもの力、奔放さ、青年の発想、若い世代の純粋さとパワー、大人の実力、大胆さが発揮され、互いの年代の特徴を認識し楽しめた。
子どもが楽しみに参加できるから親もつながり、親子のきずな、親同士のきずなが深まった。	ちいさい子どもの関心に合わせて企画したこと。

NO.	地域名	効果	得点	① 対象	② 活動前の状況	③ 苦労・障害
28	千葉市中央区	9	8	子どもたちの健全な成長を促す文化的な働きかけの出来る地域の大人のつながりをつくる。	千葉市も少子化・都会化で、核家族化でもあり、子どもの成長を見守る地域の大人のつながりは薄い。	高齢者の方々に 子ども達にやってあげるのではなく、子ども達自身がやれるようにしていくことを 手助けしてもらいたいということを理解してもらうこと
29	酒々井小学校地区	9	8	同じ考えを持つ町内の団体	それぞれが独自に活動することが多かった。	自分たちの活動をよく理解してもらうことは難しい。
30	四街道四街道地区	7	8	さまざまな年代と、個性を持った人が共に楽しむことを通じて、互いに理解し合い、地域の人々の関係を	自然と接する機会が少ない人や、障害者と接したことがない人、多くの年代の人たちと一緒に関わったことがない人が多かった。	予定した時間どおりに歩けず、かなり遅れてロープウェイの駅に着き、駅員さんに到着まで待っていただき、ロープウェイを動かしていただいたことがあった。
31	松戸市相模台地区	13	10	子育て応援者と若い子育て世帯	子育てを希望する人々と特に小さい子どもを持つ若い世帯が交流する広場がなかった。	良い条件の会場おさえをキープするのが大変であった。
32	松戸市新松戸地区	9	8	子どもが地域の公園で安心して遊ぶことに理解を示す大人	マンション内や公園で子どもたちが遊んでいると「うるさい」と怒鳴ったり子どもの育ちを地域全体で見守る空気が希薄である。	天候に左右されること。
33	松戸市五香六実地区	1	10	先輩住民のシニア世代と子育て中の新住民の親子	転入が急速に進行したので、地域での知り合い作りは新住民で固まる傾向があり、シニア世代が地域のよさを伝えたりする機会が乏しかった。	当初予定していた会場が境内保護など、やむを得ぬ事情で変更となり、当初の予定会場に近く、集まりやすい会場の確保が大変であった。
34	船橋市内	3	9	三世交代	高齢者と親世代、子どもとの三世交代の出会いとふれあいの場が少ない。	自然相手なので天候が一番気になった。
35	松戸市常盤平地区	4	8	地域で日常の食生活について考える。	高齢者や子どもたちの孤食や個食など、食生活を軽視する傾向があった。	高齢者の参加を容易に考えていた。
36	松戸市松戸地区	13	9	団塊の世代を中心に、地域の学校のPTAなど	転入が多くかつ、繁華街なので、地域のつながりができにくく、思春期の子どもと関わる正確な子育ての情報が必要とされていた。	当初予定していた講師と会場がとれず、プログラムと会場の変更を余儀なくされ、予定の参加者を見込めなかった。
37	松戸市横須賀地区	1	10	男性への呼びかけが主ですが、地域活動に関心がある人すべて。	学校での子どものつながりがなくなると大人のつながりも途絶えがちであった。	集まりが休日の夜になってしまい、日程をやりくりするのが難しかった。
38	浦安市内	9	6	市内の住民。(特に子育て中、子育て経験者や支援者。)	核家族化が進み、また、転入者が多いため地域交流が希薄だと思われる。地区ごとの意識や行動パターンの違いが大きく交流しづらい。	参加募集の内容がわかりにくかった為か、参加者が少なかった。
39	市川市大柏地域	9	10	地域の三世交代の人々の定期的な交流を図り、関わり合う関係を築くことで、安心かつ安全に暮らせる地域を作る	シニア世代の旧住民と子育て世代の新住民が触れ合う機会や場所はほとんどなく、孤立し不安な子育てをしている若い世代と、子育てを終え生きがいを失いつつあるシニア世代は、触れ合うこともなく地域でそれぞれに暮らしていた。	毎回参加者がどんどん増えていったことで、支える常任スタッフの責任が重圧となってしまったこともあった。ボランティアでささえてもらうことの限界も感じている。
40	鎌ヶ谷市初富地区	7	8	地域の成人	駅前開発による地域の変化を「農業と環境」の視点で考える機会がなかった。	特に親子対象の事業では事業実施日が学校や地域の日程と度々重なって募集に苦労した。
41	習志野市内 谷津、鷺沼、津田沼地区	7	9	地域における乳幼児を持つ親子と高齢者を含む子育て支援者	乳幼児を持つ親が「孤立した子育て」、あるいは「同年齢の仲間しかいない」など限られたつながりしかもてない状況が多く見られ他の子と比べて悩みを抱えたり、子育てをつらく思う人がいた。	初対面同士だとなかなか打ち解けるようになるまで時間がかかり、和やかな雰囲気作りで苦労した
42	佐倉市稲荷台地区	9	9	昨今交流が不足している住民どうしがふれあい、コミュニケーションをはかる。	世代で断絶していて交流が少なかった。	地域住民への参加募集、広報に苦労した。募集チラシを個別配布するなど工夫した。
43	成田ニュータウン地区	9	8	いろいろな大人が事業の運営に関わる事	それぞれの人の持っている情報を得ていたりしたが、連絡をとるまではしていなかった。	日程の調整などの事務的な部分と実際に事業をやる際に、目的を共有することが難しかった。
44	八千代市高津・緑が丘地域	9	10	子どもや環境にかかわる団体とのネットワーク	自分の団体だけの活動では参加者にも限りがあり、なかなか課題解決につながらなかった。	自然環境教室としただけではあまり参加に興味を持ってもらえなかった。
45	東京都新宿区	17	9	高齢者と子どもたち	高齢者も孫が大きくなって、触れ合う機会が減っていたようであった。	体調不良などで参加できない体力的に弱い人への対応に苦慮した。
47	神宮前	1	8	子育て中のお母さん	家事で忙しく、片時も離れない小さな子の世話は大変で、心に余裕がない	参加者の募集と方法、知名度の問題
48	西東京市内全域	3	7	二つの市が合併してできた街での、各地域間の住民同士の交流。	同じ市内に五つの駅があり、住民は、最寄の駅から都心に出ることはあっても、同市内の他地域への関心は薄かった。	広報・参加募集に苦労した。市の事業ではないからということで市役所掲示スペースにも掲示してもらえず、市報掲載も断られた。もっと行政の縦のつながりがあれば良い
49	鶴牧・落合・貝取・山王下	8	8	地域施設・団体とのネットワーク形成	同じ市内で共通の目的に取り組む団体が、施設を定期的に利用するための競合相手となっていた。	施設利用における市のシステム。
50	町田市			地域での活動実績を通し、団体の認知をあげ、今後も継続的に活動できる事業の確立	町田地域での団体の認知が低かった。	参加申し込みが当初予定より見込めなく、急遽予定や内容を変化せざるおえなかった。
51	和泉地区	3	8	地域住民が情報を得る事ができる機関との連携(学校・各センター・公民館・商店街など)	地域子ども教室の運営の経緯から、児童参加型の活動は少しずつ根付いていた。しかし、同事業の終了により地域活動が停滞してしまう懸念を我々だけでなく地域の方も抱いていたと考えられる。	参加を呼びかける広報活動と幅広い年齢層をまとめていく事(プログラム作成やスタッフ配置など)
52	世田谷区大原	1	8	スタッフボランティア地域住民のすべての参加者	スタッフボランティアは顔見知りでも、地域住民の方とはいまままで交流がなかった。	参加者募集の告知と方法。
53	杉並区阿佐ヶ谷	15	9	演劇ワークショップを通して地域住民の親睦を深め、文化力を向上させる。	演劇ワークショップの構想はあったが、講師謝礼、会場費、宣伝費等予算がなかった。かといって参加者から高額な参加費を取ることは抵抗があった。	今年度からの事業だったため、効果的な宣伝方法を模索したが、初期は参加者を募るのに苦労した。宣伝費を効果的に使えていなかったきらいがある。今年度も継続できるなら、リピーターに加えて新規参加者を集め、地域の輪を事業の開始月の決定がずれた為、募集や開始案内がスタート遅れ遅れになってしまった。体育館屋上に有る会場の為、天候により参加者数に影響が出てしまう事。ほとんどの参加者が初体験のスポーツの為、指導者へ負担が日によって掛かってしまった。
54	足立区総合スポーツセンター	17	9	地域に暮らす小学生～高齢者	子どもは大人と一緒にスポーツする事で社会勉強の場を、中高齢者は生涯スポーツで健康維持の場が求められていた。	体育館屋上に有る会場の為、天候により参加者数に影響が出てしまう事。ほとんどの参加者が初体験のスポーツの為、指導者へ負担が日によって掛かってしまった。
55	青葉区梅が丘	3	10	地域に住む三世代の住人。	少子高齢化核家族化の地域。	会場の自治会館が町内会の行事と重なり別の会場を探さなければならない時があった。
56	旭区白根地域	13	10	地域に住む三世代の人たち。	地域での交流が少なかった。	参加者の呼びかけが難しかった。

④ 成果	⑤ 成果ポイント
僅かではあるが地域の高齢者の方と接点が出来た。	時間をかけて話したり一緒にやったこと。
共通の目的をもって一緒に活動することにより、お互いをより理解することができた。	地道な活動を続けること。
登山やハイキングを通して、自然と接し自然の豊かさを実感すると共に、障害者、健常者とも健康の増進にもつながった。障害者と接する経験を持つことができ、障害者に対する理解が深まった。子どもや若い人たち、そして高齢者まで多くの世代と交流することで、互いに思いやりと感謝の心を持つことができた。	あれこれと細かい指示をせず、各自の自主性を大切にし、無理のない範囲で協力してもらったこと。また、サポートをする人も、まず自分自身が楽しむことを大切にしてもらったことで、無理なく障害を持つ人との登山やハイキングを楽しむことができた。
経験からくる知恵と技のあふれている質の高いプログラムの評判を聞いて、参加者と共にサポートしてくれる応援者も増え、次年度の継続が子育て世帯から出た。	毎回スタッフ会議で丁寧にプログラムを検討し、参加者の体験を通した満足度を心がけたこと。学習したことを資料として作成し、振り返りの参考に
スタッフが定期的な活動を支えることで継続性が図られ、1回、1回の参加者が不定で、出入り自由でも、ふれあいの場としての可能性を期待できる。	都市型地域の実情に合わせ、出入り自由の無理のない参加の仕方が継続を図るポイントだと思う。
夏休みプログラムは来年の地域の学校行事の参加につながり、交流の輪を広げる事ができた。	季節の行事を取り入れたり、夕涼み会ですいか割りや、新年会でお汁粉会など、親子で楽しめるようなプログラムもポイント的に入れたので、おおむね参加が好評であった。
船橋市の中で自然体験を共有することで、先人の知恵や話を素直に聞くの体験ができた。	自然体験をしたい、させたいと思っている人が多くることを発見できた。
学習し、次に実習のサイクルで理解が深まった。子ども講座の開催希望の声につながった。	分かりやすい資料を用意して進めたこと、実習は食の基本を見直す視点から、伝統的で身近な材料を使ったこと、現在の食生活の偏りを実感
前半の講座で、問題点や抱えている課題を出し合い、それをもとに、今日的な課題「有害情報から子どもを守る」を学習テーマに専門家を招いてじっくり学習でき、課題提案力をつけた。	小規模になったが、じっくりと取り組むプログラムになったので学校でも取り上げたいという声につながった。
「笑い」をテーマにした活動だったので、入り口が参加しやすかった。	講座や交流会では、ひとりひとりが日ごろの社会生活でのノウハウを生かせるように組み立て、それが有機的に働く仕組みにしたので満足度、達成度は高かった。
日頃、交流する機会の少ない人との出会いの場を作り、地域について考えるきっかけとなった。今後も継続して取り組んで行きたい。	講師によるワークショップをしたことで関係が深まった。
若い子育て世代は、不安な時に助けてもらえる人のつながりができ、地域で安心して子育てができるようになった。シニア世代は、若いお母さんや子どもたちに自分の持っている知恵を伝授したり、必要とされているという実感を持つようになり、生きがいとなっている様子が伺えた。地域で支え合う関係作りのきっかけとなった。	地域の様々な人が関わり合う事が地域を再生していく力になっていく、という事をスタッフが共有していたことが、成功のポイントになっていったと思う。指導したり押し付けになったりしないように気をつけ、第一にこの場所が地域の交流の基地となることをめざすことで、安心して集える場所にしていくことができた。
企画の内容を住んでいる地域の農業と環境についての学習会とフィールドワーク、畑での交流会等の体験をメインにしたことでより理解が深まり、住民が地域に愛着をもてるようになった。	講師を地域で活動している人に依頼したこと、参加者に体験を通して地域の農業と環境について考えてもらったこと。
子育て経験者と交流することでヒントやアドバイスをもらい安心する様子が見られた。また、子どもも親もたくさんの人に声をかけてもらうことで表情が明るくなった。	企画がそれぞれ親子で楽しく参加できるものだったので、心が開放され楽しさを共有でき、困っていることを気軽に話せる関係づくりができた
世代を超えて知り合いがふえた。青少年とと団塊世代、高齢者との対話が生まれた。	さまざまなプログラムを用意したこと。予約をしなくても参加可能なプログラムも用意したこと。
事業に向けて、地域で活躍する人、プロの講師を招いたことによって、事業の内容が広がり、事業に参加する人の幅が増え出会いの場や機会を提供することができた。	会場を身近な場所(小学校や、よく知られている公園)を使ったことによって、地域の人とつながる事ができ、協力を得ることができた。
環境教室では、地域でたくさんの親子参加があり身近な川について知ることで環境への意識が高まった。環境団体からは是非次年度も共に活動したいとの申し入れがあった。	対象を親子にし、川遊びから環境を学ぶプログラムにしたところ、参加者が増え親子で楽しみながら自然について学ぶことができた。
子どもたちと舞台を踏む体験は、ある意味本人たちも懸念で、子どもたちとも賑やかに稽古していた	舞台はともに一つのものを作り上げる貴重な体験で、次回への意欲と期待をもたせた。
和歌を作る事により、思いを見つめ生活が豊かになった、子育て相談で安心を得ることができた、等の感想あった	ボランティアのまとまりが良くなり、楽しく参加者に喜んでもらえるよう、自主的に取り組んだ
各地域の街歩きにより、お互いの地域が一つの街として繋がっていることを認識し、自分が住んでいる街に対する愛着が湧いたようだ。また共同創作活動によって住民同士の交流も深くなった。	野外での活動を予定よりも少し増やし、参加者が普段行き合えない地域を訪ね合い、創作のための情報交換をすることで、街への愛着が湧き、また道行く人や地域住民の興味を誘っていた。
地域団体が協力することによって、施設確保がスムーズに行え、参加者の方に定期的に教室を開くことができ、会員数の増加に繋がった。	多くの若年層が事業へ参加したことで、今までにはなかった新規のアイデアへ地域施設・団体との連携が図れた。
イベントや教室を通し、多くの地域住民と接し当団体の事業を理解していただき会員増加へと繋がった。	各種イベントや教室に地域の高校生をボランティアとして採用したこと。
児童だけでなく、大人が主体的に活動する地域活動の展開によって、異年齢間の交流が広がった。また企画段階からの参加が可能になった事で、活動の幅も広がり、共に活性化を目指す雰囲気が出てきた。	活動内容が地域性に合っていた。安定したペースで実施できたことも大きい。参加者・運営者・ボランティアの方皆それぞれが意欲的に活動に取り組んだ。
赤の他人同士の地域住民の方々が集まり、飼育方法やマナーについて一つになれたこと。	スタッフボランティア地域住民の参加者全員が、動物に対して愛情を持っていたため方向性が逸れることなく話がまとまったこと。
委託事業として予算が下りたことにより、赤字を出すことなく目的に対して活動することができた。	行政や企業が民間団体に、社会に対して有意な事業委託を行っているか、助成金を出しているかをアンテナを高めてチェックする。NPO法人は常に予算に苦しんでいます。
小中学生・青年・成人・中高齢者、など参加者同一に初めて体験するスポーツで、同じ初心を持って楽しみ、回数を重ねる中で自然に新しいコミュニティが生まれ、自然な形で人間関係(三世代のきずな)の芽が出始めた。	事業開催にあたり、会場の足立区立総合体育館より、射場の優先利用などの支援をいただき、安定した開催が出来た事、さらに区広報での募集協力をいただいた事が大きい。
参加者の家族間の会話がぐんぐん深まった。地域参加者同士の交流と繋がりが生まれた。	実行委員、スタッフ、講師が調和し、役割を果たしたことが成果に繋がった。
地域住民同士の交流が増えた。	参加者が満足して友人を誘ってくれ、広がった。

NO.	地域名	効果	得点	① 対象	② 活動前の状況	③ 苦労・障害
57	神奈川県横浜市鶴見区向井町地域	13	10	保存会会員及び地域住民	伝承という面で苦労していた	会員が多忙な為、事業の為に時間をつくる事に苦労した
58	新潟県西蒲原郡弥彦村	3	5	世代を越えた子育てネットワークの構築	子育て世代による子育てサークルは多数市内に存在するが、そこにベテラン母・お年寄りが不在	ベテラン母・お年寄りが説教調になり若手が感情的に受け入れがたい。
59	新潟県三条市	13	8	地場産業である農業を軸にした地域の協力・協働のネットワーク	新潟のベッドタウンとなり新興住民がふえ地域の絆が崩壊しつつある状況	日常の畑の管理
60	新潟県柏崎市	1	8	若者・青年世代	事業の対象範囲が合併前の旧亀田町、高齢化が進み公民館等に若者の姿が見えない	若者の理屈より体を動かすことが好きで、集まったところを学習機会にしたかったのだが、趣旨が理解されず抵
61	新潟県新潟市西区(旧黒埼町)	9	6	地域の教育力を高めるべくこれから地域でコーディネーター活動していこうとする人	ベッドタウンである旧黒埼町地区は引越して間もない住人が多く、人と人のつながりが希薄	美術や工作は活動が地味なので、継続的に活動していることが浸透しにくかった。
62	新潟県上越市	14	9	若者	若者が地域の課題(子育て・地域づくり)と遊離して存在している状況	学生・若者との意思疎通
63	新潟県十日町市	1	8	おとなと子どもを含む地域で暮らす住民ネットワーク	寂れた商店街がつながる十日町の中心街で、少子化が相次ぎ、子どもを軸にするおとなのつながりが崩壊しつつある。	参加者が楽しむことが中心となり、地域のつながりの学習というステップアップにつなげにくくなってしまった。
64	新潟県長岡市	14	8	地域でボランティア的に活躍したいと考えている人	長岡旧市街地が少子化・郊外へ引越し・不景気等で人口減、元気がない雰囲気となっている。	継続的に学習を成立させること。
65	新潟県新潟市東区	3	2	若い母親のネットワーク	新興住宅街に浮遊・孤立する子育て世代、特に母親の存在	担当や講師の求めるものと参加者の意識・要求とのギャップ。
66	新潟県新潟市西区	3	9	三世代のネットワーク	新潟市で最も人口が急増した地域なので、新規住民が多く、地域のネットワークが途切れがち	会場の確保と指導者の養成。
67	新潟県新潟市中央区	14	4	ボランティアをこれからしてみたい人たちのネットワーク	新潟市の都市部での福祉施設等が多い地域。	参加者から「視覚障害者ボランティア」の実践講座とみなされてしまったこと
68	不登校の子どもと共に考える地域ボランティア講座	14	10	若者や学生のボランティア	地元には大学等が存在せず、ボランティアが盛んでない地域であった。	学生たちの時間確保と移動手段
69	今井丸井邸と共に歩む地域の会	16	8	街づくりのリーダーと目される人々のネットワーク	大型スーパーマーケットが撤退し沈滞化した商店街を含む旧市街地の抱える諸問題。	駐車場の確保。
70	新潟県柏崎市	10	8	地域づくり・復興を支える地域住民たちのリーダー・団体のネットワーク	シャッター通りと呼ばれた寂れた商店街と人口減。	中越沖地震によるさまざまな被害。
71	小諸市内	3	9	小諸市内全域	地域住民同士の協力、連帯感の向上と言う目的はあったが、交流を深めるまでにはいたらなかった。	時期的な遅れや天候等に左右され、日程の変更などで苦労した。
72	小諸・佐久広域	11	9	県内	県内には、当会のような形での行政機関との連携が取れる組織は無かった。	① 子供教室の中断が市教委の改革を後退させてしまった。 ② 広域連携による体制作りと、地域活性化の具体的な数
73	岩田教室	17	9	教育機関に属していない外国人児童生徒の居場所づくり	外に出る機会もなく家に引きこもっていたり、学習できる場がないことからアルバイトに時間を費やして生活していた。	ボランティアの参加が少なかったのでスタッフの仕事が多くなってしまったので事業との両立が難しかった。
74	江南市古南校下地域	4	5	学齢期の子どもを持つ親、学童指導員、地域住民	学齢期の子どもが、放課後異年齢の子どもと関われ、安心できる場所がどのようなものか理解が出来ていなかった。学童の状況も、市や県で違いがあることを知らなかった。	講師を招き学習会を企画したが、参加人数が思うように集まらなかった。放課後の子どもの居場所などについての関心の薄さを感じた。
75	愛知県江南市愛栄通り地域	9	6	子ども、子育てをキーワードに世代間交流を深める	古い商店街の町が、シャッター街へ変貌していった。マンション建築が始まり、若い世帯の流入が増えてきている。	高齢者の方へのアプローチのかけ方がうまくすまなかった。地元町内会との関係ができていないことが、もう一つ広がりかけた一因だったと感じる。
76	愛知県江南市古知野町	6	9	地域の多文化共生に関心を持つ人及びグループ	市の国際交流協会が中心になって会員や講師を募集していたが、単発的であり継続していなかった。	会員が希望する活動時間がバラバラで調整が難しい。
77	天白区植田東地区	9	8	同じ地域の高齢者と若い世代	各団体の集まりはそれぞれに活動していた。	新しい事をする事に慎重で、様子伺いをしている参加者が少なかった。
78	北名古屋市	3	9	地域に住む全世代	若い核家族が多く、地域の上の世代との交流が希薄	年齢が上に行くほど、呼びかけに対してすぐに答えてもらえないことも多かった。
79	愛知県、名古屋市中区	6	8	一般成人	芸どころ名古屋と言われているので伝統芸能に興味を持つ人が多いと地域ではないかと思っていた。がやはり他地域と同じく伝統芸能は取っ付きにくいと思われていた。	上述のとうり「芸どころ名古屋」と言う土地柄なのでもう少し人が集まっても良かったと思いますが、無料の講座と言う事で講座の質、講師の技量等が疑われたのかと懸念しております、広報の課題が残ります。
80	愛知県名古屋市中区笠寺	13	10	保存会会員及び地域住民	口伝のみの伝承で苦労していた	新しいことを覚える為に必要な時間と労力
81	京都市左京区下鴨地区	7	8	地域の見守りボランティア(少年補導のメンバーおよびPTA)と小学生児童	児童の下校時の見守り活動は、2年前の年末の連続連れ去り事件をきっかけにはじめられ、2年目に入っているが、担い手は少年補導のメンバー(退職者や高齢者)に依存しており、長期的に活動を継続するには課題がある。	ローテーション制においては、多くのPTAを巻き込むことができた一方で、その負担感への不満の声も聞かれる。活動のメリットを理解してもらうことが、忙しいPTAメンバーにとっては難しい現実もある。一大イベントとして企画したことも110番の家オリエンテーリング当日、稀に企大雪のため欠席者が相次ぎ、歩くこともままならない積雪の道を雪降る中歩くことになり、忘れられない思い出と「親子」「家族」での参加となると、親の忙しい日には、子どもが参加したくても出来ないことにより、参加率が悪くなった。家族単位には良さも多いが、難しさや、子どもの自主性・独立性を妨げる部分もある。
82	山科区	4	9	子どもにかかわる地域の人々全般	少しずつ、地域の人による、地域理解・地域を愛する気持ちを育てることへの働きかけがはじまりかけていた。	
83	京都府八幡市男山	9	7	男山地域の三世代の交流、学習会なので、おじいちゃん、おばあちゃんから赤ちゃんまで	シニア層と赤ちゃん家族、また小中学生とシニア層と声を掛け合ったりすることが少なかった。	自治会、PTA、などの協力を得たが、地域に事業の周知がなかなかで、また日程の関係で広めることの難しさを感じた。
84	大阪府和泉市	3	9	地域住民全般	地域活性化の方策に尽力しつつある当地域だが、その中心は中高齢者であった。	地域住民への広報を大々的に図ったが、コンサート当日、見込み人数の入場が見込めなかった。(クリスマス時期に重なり、興味はあっても、他の行事で来れないもの



④ 成果	⑤ 成果ポイント
共通書式の譜面を作成する事の意義・大切さを知った	講習プログラムの充実
世代を越えて地域で子育てをしていこう基盤が生まれた。	異年齢・異世代・異文化のぶつかり合い
農業従事者に対する尊敬の念が芽生えたこと。	若者・青年層の活躍
ダンスにひかれて多数の若者が参加した。	実は若者は機会と場があれば健全に集まりたいと考えていること。ダンスを入り口にしたことはその敷居を下げた。
人と人に出会いを促進して、その人たちに仕える技術を学んでもらうことができた。	学びやすいプログラムであったこと。
学生・若者をボランティアということで非常に多数継続的に巻き込むことができた。	遊びの伝承から始まったが、「伝承者より上手になって自信をどんどんつけていく」という演出に若者たちが自主的に乗ってくれたこと
本の読み聞かせや店舗のお手伝いなど参加者が楽しんで継続的に参加した。	参加者自身が楽しめる内容だったこと。
ボランティアをしたい人、特に若手の活躍の場を生み出した。	「子どもの笑顔がある街づくり」というテーマ
子育てをともに地域でしていこうとする母親グループの形成。	同じ悩みを持つ横のつながりの強い集団が生まれたこと。
地域の三世代間の関係復活、特に、お年寄り子どもたちのネットワークを新たに構築した。	誰でもすぐに演奏でき、合奏が楽しめる楽器を軸に活動したこと。
ボランティア志願者に対し一定の心構えの学習の機会を提供した。	現場との接点があったこと
学生を中心とするボランティア集団が生まれた。	不登校に関わると言うことで、問題意識の高い学生に声をかけやすく、また、学生も積極的に集団をつくって応えてくれたこと。
地域の誇りを取り戻すべくリーダーが生まれつつある	伝統的な建築物を守るつつ以下に利用するかという理解しやすい学習から入ったこと。
震災をバネに再び街を再考させようとするリーダーが見えるようになった。	震災の被害に対して、ここでやっぱり生きていくのだという強い決意。
誰でもが参加でき楽しめる活動で、異世代を超えた参加者が望め、ふれあい交流、協力連携につなげることができた。	誰もが参加しやすく、楽しい活動であった。
県との強い連携を基に、包括的なシュミレーションを市の幹部に示し、政策立案に対応する体制作りへ寄与できた。	「地域行政職員との信頼関係の醸成」と、「真摯な活動及び強力且つ迅速な実行力」
本事業をきっかけに外に出たり、友人と時間を過ごしたり、夢を持ち自分の将来のことを考えるチャンスとなった。また、相談先のない保護者の不安も解消することができた。	活動費が少ないながらも問題意識を共有できるスタッフで乗り切ることができた。スタッフ間、および対象者とスタッフとのコミュニケーションを図れたことが成果につながったポイントである。
学習会により他地域の子どもたちが、放課後をどのように過しているか、どのような人が協力しているかなどを知ることが出来た。また、学童保育の状況、親の思い、指導員の思い等知ることが出来た。	自分の住んでいる市と、他地域の状況の違いを知ることにより問題意識を持つことが出来たこと。
若い世代は子連れで出かけられる場を求めていることがわかり、若い住民からは歓迎され、多くの参加が得られた。少し先輩の世代との交流は活発に実施できた。	若い世代には、興味が持てるプログラムを組んだこと、また、子連れでも気楽に参加できるようしたことが、若い参加者には受け入れられたと思う。
地域に住む外国人も講師にし、月4回程度定期的を実施することにより、色々な企画が生まれてきて積極的な活動ができ、人の輪が広がった。	参加した人が楽しかったと思い、友達も誘ってくる事で輪が広がる。
小学生や若い世代が高齢者と話をする機会をもてた。	老人会の協力を得て身近な人が講師になってコミュニケーションをとることができた。
様々な世代と関わることによって、地域の良いところ、抱えた疑問・心配ごと等を話す機会が増え、各々に住みやすさという想いがあることがわかった。	定期的に顔を合わせることでつながりが深まった。
歌舞伎、三味線に興味があるから申しこんだ人達ですが、伝統芸能の難しさと楽しさを学んでくれたと思います。	主な教室場所となった場所がJR、地下鉄の駅から近く、又和室や舞台のある稽古場で伝統芸能を学ぶにふさわしい場所だった。
口伝を譜面化することの大切さを知った。	講習プログラムの充実
PTA活動との連携のなかで、見守り活動を地域のメンバーと小学校のPTAとが連携しての実施が実現し、PTAもローテーション制により全員が関わる体制ができた。イベント的な活動を通して、地域の方とPTAや児童との交流も深まり、活動によって地域や校内の美化活動も推進できた。さらには、こども110番の家マップを刷新できたことは大きな成果である。	地域団体である少年補導とPTAそして、本事業の実施母体となるにこニコクラブの連携が非常にスムーズに運んだこと。また、時流のなかで、小学校に学校運営評議会が結成され、小学校もまた同じ狙いで話し合いの場を設けてくれたことも幸いであった。
参加した人たちは勿論のこと、その人たちと専門的な知識を持つ講師の力により、多くの学びを、印刷物として広報することで、地域の人に伝えることが出来た。また、その際、参加者の主体性を生かしたので、参加者の主体性・独創性を育てることも出来た。	毎回、活動に相応しい講師に恵まれ、かつ、その講師の方々が、子どもや子どものいる家庭に、こちらの望む意図を理解して、伝えようとして下さったこと。
学校からの帰宅時間に立っていると「おばちゃん」と声を掛けてくれるようになった。	日程の関係からだと夏休みの事業は定員オーバーになり断る場面もあったので、夏休みの家族で行動しない日が狙い目かもしれない。また、赤ちゃんを中心にした事業を企画したところ、いろいろな悩みなどもだされ、若い親はコミュニケーションを求めてくれたことがわかった。
特に若年成人層に対し、「青少年、おとな参画ワークショップ」を開催、その若年成人層が自由な発想、手法で表現できる「何でもありコンサート」を体験することによって、人と人のつながりの楽しさ、重要さを学んだ。	若年成人層は、自分達が手がける事のできる「何でもありコンサート」を体験し達成感が得られた。その他おとなスタッフも、何度も彼らとワークを持ったり、関わったりすることで、新しい考えや、発想を得た。

NO.	地域名	効果	得点	① 対象	② 活動前の状況	③ 苦労・障害
85	鳥取中・ほか	15	7	子どもを持つ大人や、大人社会がもたらす子どもへの影響を考えられる大人	大人の価値観がすぐに及ぶ乳幼児を持つ親は、自分の都合に合わせて子どもをコントロールしようとする。子どもの中からわきあがる問題を、子どもの意見を聞かずに大人が勝手に処理しようとする風潮	子どもに向けてのアンケートではあるが、それを養育する親(大人)に向けて、問題を認識してほしいというねらいもあったが、文章化する中であからさまに大人を批判すると、大人側からの拒絶反応もあるかというスタッフ間での、アンケートの文章化に苦労した
86	淡輪・望海坂・多奈川・深日・下出・尾崎ほか	1	10	親子	少子化や個人主義の中で、核家族化が進み娯楽をてつりばいやい買い物や外食、遊園地といったお金で買う楽しみに流れる傾向がある	比較的伝えやすいキャンプやスキーといった内容なので、広報的には苦労はなかったが、参加者負担となる実費(宿泊費やスキーの備品・リフト代)などの参加費を、参加しやすい価格に設定するため、行き先の吟味などに苦労した
87	神戸市須磨区、長田区	3	10	地域の幼児親子、小学生、大人、団塊の世代、高齢者など地域住民	同じ地域に住み、子どもの見守りの重要性をいわれているが、少子高齢化の中で、高齢者と子育て世代の接点がなく、声かけたりできない。	参加募集、広報に苦労した。内容が伝わりにくかったと思われる。また、講演会は、小学校を中心に多数チラシを配布したが、小学生の保護者の参加が少なく、残念であった。
88	明石市西明石南地区	1	9	全世代	小学生対象	クラフトの指導においては、スタッフの指導力のバラツキが見られた。
89	猪名野神社境内・あじさいセンター	1	10	地域の住民	コミュニケーション能力が劣っているので「表現遊び」を取り入れた活動を計画しました。	活動を支えてもらうスタッフの人数の確保が難しかった。
90	西宮市宝塚市	3	8	本を媒体に子どもから高齢者までの他世代の交流、表現する楽しさを共有する。	古い住宅地に長く住む子育ての終わった世代、震災後に移ってきた若い世代が混ざって生活する地域だが、あまり接点がない。古くから住民同士も深く付き合わない地域。	講座受講生募集、広報。チラシを知人を通して、施設等においてもらったが、限られた範囲にとどまった。
91	姫路市岩瀬地区	8	7	植物の世話をする中で、継続的に事業に参加す	単発的なイベントで終わってしまい、後の活動につながっていなかった。	猛暑の影響もあり、植物が思うように生育しなかった。平日の活動であり、担当できるものが限られていた。
92	神戸市兵庫区菊水町	1	6	マンモスマンションに在住者の異世代交流	顔は知っていても、住民同士の交流は少ない。	大人の参加者の確保。広報の方法に苦慮した。
93	新教育者連盟 大阪支部	21	6	成人・青年・シルバー	あまり地域へ活動ができていなかった。	人集め。
94	和歌山市河西地域	7	8	対象地域に住む若い世代の親(大人)	同じ地域に住みながら、遊び場の活動を知らない人が多かった。また、知っているもどこで活動しているのか知らない人も多かった。	悪天候の際の避難場所がないので、急に雨が降ってきたときなどの活動が大変だった。
95	本町地区	3	8	地域の乳幼児から高齢者まで	あまり世代を超えた活動をしていなかった。同年代、同世代でイベントをつくりあげていることが多かった。	ボランティアの人数が多く、事前の打ち合わせなどの日程の調整が大変だった。
96	岡山市中央・岡北・京山・石井中学校区	7	8	地域住民全般(中学生～大人)を対象とした。幅の広い年齢の人が集うことが大切と考えている。	地域の人を巻き込むことがなかなか困難だった。	日程が限られているので参加者募集に苦労した。
97	岡山市中心部、西大寺地区	2	8	子育てに関する住民	定期に開催はしていたが、テーマ性を持たせて意識的な開催までには及んでいなかった。	学習のテーマや内容の選定に苦労した。
98	岡山県笠岡市大井地区	13	9	自然体験に興味をもつ地域住民	新興住宅地ということもあり、農業、自然体験の少ない人が多い	事業開始が6月と遅れたため、内容が一部変更となった。野外活動のため天候に左右された。
99	笠岡市中央地域・浅口市	3	9	子育て支援や地域のふれあいに興味をもつ地域住民	地域の中で、子育て支援やふれあいを求めている人たちは多くいるであろうが、実際にどうしたらいいのかわからない人が多いのが現状です。	講師の都合、地域の行事等で日程を決めるのに苦労した。
100	岡山市西大寺地域	3	8	公民館を利用している中高年世代、子育て世代、子ども	中高年と子育て世代が出会う機会がほとんどなかった。	中高年世代と子育て世代の時間の使い方が違うため、学習会の日程設定が難しく、参加者を集めるのに苦労した。
101	旧 赤磐郡	16	7	地域の住民。特に団塊世代と女性	子どもの教育や、地域の改善について思いは持っているが、個人での活動にとどまっていた。	様々な人を介したり、直接お会いしたり時間を要する企画になった。
102	津山	8	10	アウトドアに興味を持つ地域の人々	自然に触れる機会が少なかった人やかたよった体験しかしていなかった人	99
103	東部地区	3	6	地域の人々と子育て団体のネットワークを図る	子育て支援活動は活発であるが、それぞれ団体がバラバラに活動している。	団体の協働は進んだが、研修講座の参加者が思うように集まらなかった。地域の人に趣旨が伝わり難かった。
104	川中校区、山の田校区中心	17	8	子育て中の親、または、親育ちをサポートする人たち	単に親子が楽しく活動するが多かった。知識、体験に裏づけされた親育ち、子育て支援の欠如。	プログラムを充実させるための二様の吟味と講師依頼
105	山口県岩国市岩国、藤生町、横山	1	8	子育て世代と孫育て世代	乳幼児の子どもがいると、託児付きの講座でも、参加に二の足を踏む人が多かった。多世代が集う場が少ない。	子育て世代には幼稚園や学校を通じて広報できたが、熟年層へのダイレクトな広報ができなかった。
106	十日市地区	6	8	0～3歳 子育てママ 高齢者	子育てを考えるいろいろな団体がバラバラに活動していたが、連携しやすくなった。	幼児が多いので、危険といつも隣り合わせで、企画のたびに、安全確保のため細心の注意をはらった。
107	湯田・吉敷地区	6	10	子どもを持つ母親、及び文化活動に従事するもの	以前、文科省助成の子どもの居場所づくりに参加してくれたメンバーが継続的に学習会を開いていた	稽古時間の確保、送迎の難しさ、ボランティアスタッフとの定期的な打合せ、スケジュール(発表日のすり合わせ)立案の難しさ。子どもは忙しすぎる。
108	(神石高原町)	12	8	和楽器ワークショップ	和楽器ということで敷居が高かったと思われる。	何回か参加しても、こちらから呼びかけと声をかけないと来ない人の対応に苦労した。
109	上下町	19	9	和楽器ワークショップ	和楽器ということで敷居が高かった。	地域性というか、昔学校の先生とか、町の有志の呼びかけは人が集まる。
110	大内、大蔵、小郡、大殿、ほか	6	9	市内の子どもの環境改善を願うおとな・子ども	子どもをとりまく状況の改善を願うおとなが集い、語る場がなかった。また、異年齢の子どもが学校や塾・スポーツ少年団などと無関係のところでの、集団の仲間づくりの場がなかった。	一番の苦労は、おとなも子どもも忙しく、参加者を増やすことが大変だった。

④ 成果	⑤ 成果ポイント
広く「親育ち」「学習会」を行った中の共通のテーマは「子どもの権利」について、大人が理解することになったが、様々な手法により、今まで思考の中に存在しなかった「子どもの権利」について、文章化や学習を積み重ねる中で、大人の認識となりつつある。	目的に沿った計画と、計画通りの実施が出来たのは、今回の助成事業のおかげであり、問題意識を持つ人が動ける体制をとり続けるには、やはり安定した助成事業の継続実施が必要である
核家族で行っても楽しくない自然体験を、多くの人たちと体験することでお金では買えない満足感・人間本来が持つ自然との対話などを提供できた	最初は知らない人たちであり、普段から核家族で行動しているのであれば、大人の交流力もないかもしれないということで、いかにしてみんなが交流できるかという点を工夫して計画化したところ
プロによる質の高いプログラムを提供することで、子どもと大人が時間と空間と共にし、笑い合い、楽しい時間を共有することで、普段なかなか接点のない子どもと大人に暖かい関係性がつくれた。また、講演会は子育てがテーマだったが、関心の高い団塊の世代や子どもと関わる高齢者の参加が予想外に多く、地域の教育力の向	子ども、大人、団塊の世代、高齢者などの住民の現状を把握し、参加者の関心、興味に応じて、気軽に参加できる楽しいことを企画したこと。
幼児から高齢者まで3世代の交流が持てた	プログラムの充実。活動を遊びに絞ったこと。定期的な開催。
「表現遊び」を通して大人も子どもも連携が密になり仲良くなれたのではないかと思います。	「忍者遊び」をテーマで呼びかけたら、思ったより参加者が集まりました。参加者の関心が深かった。
生活の中で声を出す機会が少なくなっている人達にとっては、音読は新鮮。テキストの内容から話題が豊かになった。接する事のない子ども達からパワーをもらっていた。	子どもと大人が集まる地域文庫が核となった事で、テキスト材料や子どもたちの参加が得やすい。身近な講師に恵まれた。
自分達で育てているという意識が芽生え、主体的にかかわれるようになった。	事業の最後には、ヘチマ水やたわしなどの作成があり、目的が明確であったこと。
何度か出会い、時間を共有し、共に過す事で新密度もまし、コミュニケーションが高まった。	地域の防犯に関して、「地域安全マップ」作りを実施。地域住民が親密になる事が、防犯につながると認識できた。
地域へ積極的に働きかけをできるようになった。	良い講師にめぐまれた。
学校や自治会を通じて活動案内チラシを配布したため、地元の若い世代の参加者が多かった。自然の中であそぶ楽しさを大人も子どもも感じることができ、遊び場の必要性が伝わった。	地域住民に活動の広報がいきわたった。新たな講師を招くことができ、参加を促せる内容となった。
たくさんのボランティアたちが参加してくれ、リーダーとして活躍してくれた。今後もイベントでのリーダーとしての活躍が期待できる。	幅広い世代が参加できるイベントを企画した。そのおかげでさまざまな形でのボランティアの参加があった。ことぶき忍君に関しては、事前に研修講座をしたために、共通の意識をもつことができた。
回数を増やして、具体的な実践の場を設けることで参加しやすい状況をつくることができたので、少しずつ地域のひとが関わるようになってきた。	夏休みに継続的に実施したので、学生が参加しやすかった。また、具体的にわかりやすい内容で実践したので参加しやすかった。
地域住民参加と学習を目的に掲げたので、意識的に計画を立て、実践することができた。このために講師を招いて学習できた。	参加者のニーズと満足度を検討したことが成果に繋がったと思う。
気軽に参加できる農業体験やエコライフ体験、また自然を体感できるネイチャーゲームを継続的に実施することにより、自然・環境に興味がわくだけでなく、世代を超えた楽しい交流の場となった。	種まき、収穫祭や草木染など成果物のある体験などを通じて、自然のすばらしさを感じ、また世代を超えた人の輪が広がり、楽しく交流につながった。
今回の講座には団塊の世代以上の参加も多かったが、ボランティア希望の若者の参加も多くなりに多世代の参加となった。	講師の人選が良かったため講座が充実したものとなり、参加者同士のふれあいにもつながった。
中高年から子育て世代が遊びを習い、技を磨くなど遊びの楽しさを体験する中で積極的にレトロあそびを広げるきっかけをつくることが出来た。	子育て世代が、中高年と子どもの間にうまく入り、難しい遊びも子どもが楽しめるように工夫でき、地域における出会いの楽しい場になった。
活動に参加し、人と人のつながりができ、連携が生まれた。今後の活動への協力も約束され、何より関った皆さんが生きていく喜びを感じていただけた。アウトドアの基礎知識を学び、初めての体験や自然の不思議に触れ、継続してアウトドアの活動を希望する人が多かった	単発の事業でなく、4ヶ月近く継続する企画で、成果物としてのマップ制作も有り、事業に関った人たちの関係を深めた。
この活動を通して、「子ども」をキーワードに呼びかけ出会う機会がつくれたことにより、お互いの活動を知り合うことができ連携の糸口が芽生えた。手始めに「チャイルドライン夢メッセージ展応援隊」(10団体)をつくって、期間中一週間の会場スタッフとして協力しあうことができ、また、それぞれの活動の紹介ブースをつくって「子ども」をアピールすると共に、広く市民に活動の内容を伝えることができた。	1度でも体験し、自然の奥深さを知ることが参加者の関心を引いた。
地域教育力の再生のために、子育て支援とは実は親が親として育てていくこと、自立していくための支援という意識付けができた。	講座の途中で「団体交流会」を持ち話し合いができた。情報交換等ができ、お互い知り合う機会となった。「子ども」をキーワードに手をつなごうという気持ちが高まった。
学習会で学んだことを「かえっこパズル」というイベントで実践する形をとったので、「子どもの力を借りて地域づくりをしよう」という長谷川幸介先生の講演会の言葉がよく理解できた。自分にできることはやりたい、手伝いたい、という声が出て、地域で活動する新しいグループができそうな気配。	学習会は平日午前実施し対象者を絞った。参加者の関心のあるテーマを設定し、一部、子どもといっしょに活動できる時間も作り、安心して楽しみながら参加してもらうことをだいにした。今回は、熟年層の学習会参加者は少なかったが、イベントに参加することで、若い親子と接する機械駅前商店街の空き店舗活用チャレンジショップということで、関心があつまった。利用者もオーナーと考えており、参加者といっしょに企画立案したことが成果につながった。
企画事業以外は、漠然としていたフリースペースのプログラムを、参加者といっしょに企画立案したので、参加者がふえた。	人間が育つ原点は、安心感、信頼感を親子関係の中で抱けたか否か。心を暖めあう大切さに気づけた。受講生、更に企画したスタッフの心が暖まった。
子どもとの関係は上からではなく対等になりつつある。対話が蓄積されてきた。音楽、ダンス等技術の習得。	学習会が平日午前実施し対象者を絞った。参加者の関心のあるテーマを設定し、一部、子どもといっしょに活動できる時間も作り、安心して楽しみながら参加してもらうことをだいにした。今回は、熟年層の学習会参加者は少なかったが、イベントに参加することで、若い親子と接する機械駅前商店街の空き店舗活用チャレンジショップということで、関心があつまった。利用者もオーナーと考えており、参加者といっしょに企画立案したことが成果につながった。
地域の子供や公民館への働きかけで、より身近に感じられ、参加者が増えた。	参加者ができることを発見すること、さらに発表というハードルがあることで目的がはっきりし、すっきりとビジョンをたてることができた。
地域の子供や公民館への働きかけで、お稽古事という枠からはずれ、参加者が増えた。	ミニコンサートで発表することで、とても意欲的に練習できる様になった。
様々な世代のおとなが顔を合わせて、子どもといっしょに活動することで、おとなの仲間づくりができ、子どもとおとなもよくなれた。	ミニコンサートで発表することで、とても意欲的に練習できる様になった。
	公演がおとなも子どもも楽しめるものであり、ワークショップも魅力的だったために、様々な世代が集まった。

NO.	地域名	効果	得点	① 対象	② 活動前の状況	③ 苦労・障害
111	香崎市	13	10	カブラの専任インストラクターを招いて、ダイナミックな造形遊び(ワークショップ)を体験	カブラはあるが、遊びがなかなか広がらないでいた。	講師の旅費とカブラのレンタル料(離島のため送料が割高)が高く、プロのワークショップを体験するのは、財政的になかなか厳しい。
112	福岡市早良区	9	9	地域の母親を中心としたおとなのネットワーク	母親同士のつながりが希薄だった	活動場所の設定に苦労した
113	熊本市、御船町、八代市、	18	9	地域住民および地域で活動しているNPO	近くにいなから、地域の人々とNPO,またはNPO同士の連携が十分ではなかった。	計画が具体化してからの印刷物の作成が遅くなりがちで、広報活動に苦労した。事業開始当初のボランティアの確保が難しかった。
114	田川市・田川郡	16	10	地域の高齢者、乳幼児からの読みかきかせグループなど	幼児や学童への「よみかきかせ」活動のグループや実践者は多いが、高齢者対象の活動を考えている人はとても少ない。中学生・高校生、高齢者への「よみかきかせ」への関心は薄かった	受け入れ側の時間帯が平日昼間なので、その時間にスタッフを配置することに、多少努力を要した。
115	福岡市東区東箱崎	16	9	講演会参加者、フィールドワーク参加者、各種団体役員	各団体、個人は学習する側ではあっても、みづからの体験をまとめ、整理して、問題提起をする立ち場とは考えられなかった	初めての取り組みとなったことで本人たちの準備も多岐に渡り、また知名度の点があったのか若干参加者が減り申し訳なく感じた
116	福岡市博多区板付	2	9	広範な地域住民	環境問題に関しては特別な活動が無かった。	演奏会の日程の調整と練習日の調整。
117	福岡市東区箱崎	9	9	不登校の子どもを持つ保護者の方の連携	不登校の子どもを持つ保護者がどこに相談してよいのか、どんな話しあう場所があるのかわからない人が多かった。	参加者の募集方法・広報に苦労した。新聞等に取り上げていただけた時ろそうでない時との参加者の人数の差が大きかった。
118	福岡市南区松原	2	10	親子三世代参加の地域やその近辺の登山及び自然体験	個別には親子登山などあるが地域集団としての取り組みはなかった	広報活動と参加募集に苦労した、スタッフの知り合いなどに声をかけず説明会の参加をよびかけた
119	福岡市東区名島	7	10	地域の環境調査とその歴史の勉強	地域の諸活動は大人を中心に環境問題や故郷の歴史研究などを展開していた。	地域に関心が薄い中学生に参加してもらうため、中学校当局に働きかけ生徒会に理解を得る事が出来た。
120	福岡市東区筥松	17	9	地域の多世代と外国人との交流	日本人は外国人に対して壁を作っていた。	私自身外国語が話せないため、外国の方への依頼がたいへんでした。参加募集。
121	福岡県田川市地区	1	10	環境保全	生ゴミが土になることを知らない人がいた	参加してもらえるまでのやり方が一苦労です
122	福岡県北九州市南区	1	10	環境保全	竹林の延伸による里山の荒廃	竹林へのチップ製造機の搬入
123	福岡県香春町及びみみやこ町地区	1	10	環境保全	竹林の延伸による里山の荒廃	約300本の竹切と更に炉に入れるための寸切に手間がかかった
124	けやき台、小倉、園部ほか	1	8	基山町在住の住民・市民活動団体	行政への依存が高かった	都市部で仕事をしている人が多く、中々参加者が集まらなかった
125	佐賀市川原町ほか	1	8	中心市街地に居住する市民	地域資源は豊富にあるが、知る機会などがほとんどなく、佐賀には何もないという意見が多い	参加者が集まりやすいキーワードが中々決まらなかった
126	西川登町小田志、ほか	1	8	武雄市在住の住民・市民活動団体	行政への依存が高かった	関心が低く、電話などで呼びかけをしても中々参加してもらえなかった
127	宮崎県児湯郡木城町	3	8	地域の三世代の子どもと大人	顔を合わせても挨拶する程度だった。	小さな集落の中では高齢者が多く、参加募集に苦労した。
128	都城市横市町	7	10	地域の人たち	農業体験できる機会も場もなかった。	広く広報活動をしたが、なかなか興味が無いのか目に止まらず、最初は人が集まらなかった。
129	宮崎市大塚台、東大宮、ほか	9	6	若い子育て中の親世代とお年より世代(グランパ・グランマ)	それぞれの世代の交流の場は、地域や行政であるけど、子育ての場が地域にあるべきだと思う。しかし、異世代の交流の場や機会がなかなかないようである。	限られた地域の中ではあるが、異世代の問題に関心をもってもらうための広報が不十分で参加者が少なかった。まだまだお互いの理解には届いていない。必要としている人に情報が届かなかった。
130	田野町甲2823-3	3	6	児童センターに来る児童、保護者、地域の人々	児童の迎えに来る保護者以外の一般の人の利用が少ない。	参加を呼びかけても、反応が芳しくなかった企画があり、企画内容により工夫が必要。準備期間が短かく十分ではなかった。
131	清武町加納、池田台、船引ほか	3	9	清武町近隣に居住するあらゆる世代	住民同士が世代が同じでもなかなか知り合う機会がなく、顔見知りになり、助け合える環境ではなかった。	参加者募集や広報に苦労した。告知方法については今度の課題だと思う。ただやはり参加者の興味のあることと今やらねばならないことは違い、それをどう結びつけていくかは今度の課題である。
132	与次郎・天保山地区	9	8	地域住民	大人だけ、子どもだけが参加できる教室はあったが、多世代が参加できる教室はなかった。	永続的、安定的な活動場所の確保。活動場所が公共施設であるが故、他のイベント、団体と同じ条件で使用しないといけない。定期的な活動に対して、参加者を増やす場合、安定的な活動場所の確保が必要。
133	都城市	2	8	市役所文化財課、地区公民館等	地域の歴史を、地域に居ながら知らないことが多く、また、社会的資源もあまり知らない。	多くの参加者を想定したが、実際はそれほどでも集まらない結果に苦労した。
	鹿児島市	1	9	活動に参加していただいた利用者全員	運営資金の関係で、クラブの活動に行き詰まりが気づかない間にかもし出されていた。	回数が限られているので、利用者の希望に添えなかったり、曜日によって利用者が多すぎて入りきらないという事

④ 成果	⑤ 成果ポイント
遊びに集中し見事な作品を作り上げ、みな満足していた。島のあちこちでカブラの楽しさ、素晴らしさが浸透しつつある。	今回の事業の目玉として、予算をつけていただいたので日本の第一人者のワークショップが実施でき、多くの大人と子どもが夢中になって活動できた。
子どもを通して、多くの母親、お年寄りなどの一体化した活動をいくつも体験できた	スタッフの身近な人への呼びかけと環境や食育など子どもと母親の興味ある事業を続けたこと
活動で協力したことで、地域の人々とNPOに更なる連携意識が育った。	全体を通して、自然や環境の問題を意識しながらの生き生きとした生活体験活動を目指したことで、リピーターの参加者が新しい人を誘い輪が大きくなった。
この企画が進んでいく中で、スタッフから「おじいちゃん、おばあちゃんて何か可愛いね」の声が出て、高齢者への理解や関心が深まっていった。受入側の施設でもこの活動をきっかけに、職員教育を見直したり、設備を点検したりしている。	幼児・小学生への「よみきかせ」だけでなく、子育てグループや中学校での活動が、人のつながりを作り、今回的高齢者を中心とした活動まで広がった。そのつながりの中で、新しいスタッフも少しずつ得たことでさらにつながりが広がった。
地域教育力の再生のためには核となる人材が数多く、多彩に必要であるが、そうした人材を育成し発掘するために3人の講師に短く問題提起してもらいグループ討議を深める中で、4人の地域講師と次年度の候補者が生まれた。	個人の経験が問題提起として十分に価値を持つことと、各自が作成した「遊び場の記憶」の見取り図が参加者の理解を大いに助け、他の参加者の次の講師・活動への自信につながった。
自分の身の回りからも、直接環境改善に役立つ活動がある事が分かった。	それぞれの世代に対応する、多様なプログラムで広範な世代を対象に出来たこと。
同じ悩みをもった保護者達が定期的集まって話す場所ができることで、自分の悩みを素直に外に出せるようになり、親自身のストレスが少し発散できるようになった。。また、保護者同士がお互いの悩みを相談できるようになった。	広報についての障害はまだ解決はできていない。しかし、少ない人数でも本音で話せる機会を待てることで、保護者同士の濃い関係が出来築けた。パネラーに不登校経験者や現在悩んでいる保護者に来ていただいたので、参加者が自然に本音を出せたようです。
専門化との学習会などにより、より地域の自然のすばらしさを認識、それをもってより楽しむことができたとともに子どもから高齢者のふれあひも増えました	単なる登山や自然探索でなく事前学習により自然景観、文化景観などを認識しての参加になったので自然に対する意識も変わり楽しめた
上記活動に小・中学生を巻き込み、多世代間の交流と共に故郷を愛する心を共有することが出来た。	中学生の反応が以外に大きく、次年度以降の活動にも続けていく自信が持てた。
ことばの違いがあっても遊びや食事などの交流を通してうちとけた。74名の参加で子ども達から高齢者まで楽しく交流ができた。	外国人への壁がなくなり、大変よかった。来年度もまた続けていきたい。
エコと人間関係作りが一緒になって、少しずつ地域の人たちとつながりが出来て来ているのではと思っています。	生ゴミの減量化が実感できたことおよびいろいろな人と知り合えたことが地域活性化につながった
竹チップ化による里山の美化の一助となった	優秀な講師の確保と参加者一体となった活動
1シーズンの竹炭製造に必要な竹を約300本ほど切ることができ、里山の美化の一助となった	優秀な講師の確保と参加者一体となった活動
地域住民と市民活動団体が連携する事ができた	市民活動団体と住民がお互い知ることができ、お互いが信頼して活動できるよう、中間支援組織が繋ぎ役を行ってもらった
地域資源は豊富にあり、それを次の世代や地域の人々に伝え合う仕組みができた	歴史探訪など、団塊の世代の方々の関心を高めた企画にしたことにより、特に団塊の世代の参加者が多かった。
不要なもの(竹など)を資源として活用していく	竹といふ不要なものを資源として活用するために、加工する技能を持った人と一般の方々をつなぐために、お世話が出来る団体が名乗りをあげたこと
企画協力の呼びかけに積極的に参加してくれるようになった。	地域のお年寄りの技を発揮できる内容と自然豊かな郷ならではの企画であったこと。
活動を通して食の大切さを学べた。地域の人たちと交流も出来て親子のコミュニケーションも図れた。	ボランティアスタッフによる予定にない企画を毎回計画して頂き人が集まるようになった。
今どきの子育ての事情を知るきっかけになったし、世代の違う人がいろいろな講座を通して交流ができて楽しんでおられた。	世代の違う人が、初めて出会っても、育児に関するミニ育児講座とそれぞれが楽しめる講座やコンサートを組み合わせることで、楽しんでもらった。
地域の人に講師をお願いすることで、児童と地域の人々の交流の場が広がった。日曜の事業では普段見掛けない父親の参加もあった。	お祭りなど楽しさを前面に出した企画は多くの参加者があった。楽しさプラス参加者の興味や好奇心を強く引き付ける企画が良い
今回の事業を通して、世代を超えても色んな住民が顔見知りになるきっかけ作りができたと思う。まだまだ今度の活動でより一層の関係作りをして、お互いが困ったことがあったときや災害時などに気軽に助け合えるような地域を目指したい。	環境や災害など、今の時代を生きている私たちにできることは何か考え、事業に繋がれたと思う。この事業の活動を少しでも地域の方々に知ってもらい、今度の生活に活かしていつてもらえると期待している。
多世代が参加できる教室を行うことで、地域の人々に対して、世代、性別、障害の有無を越えたたくさんの出会いの場を提供し、また、その中でお互いのきずなを深め、支えあうことで、地域全体のきずなを深めることが出来た。	誰でも(多世代)参加できるスポーツ教室ということで、小さな子どもでも大人の初心者でも障害を持った人でも気軽に参加することが出来た。よって参加者の増大につながり、地域の課題解決につながった。
結構、近い位置にも、史跡があり、また、その一つ一つに、由来があることを知り、自分たちの町を大切にしようという気持ちが芽生える。予算ができた事で、目先のお金にとらわれず、スタッフが余裕を持って指導できた事で、和気藹々とした感じができてきた。	郷土愛もだが、地域の人との交流が会を重ねることで、密着してい、事業を満足し、楽しんでくれた。楽しいと感じる活動ができた事で、利用者が利用者を勧誘してくれるようになった。



各地域 実行委員会からの代表的事業

都道府県名		北海道		市区町村名		帯広市					
実行委員会名		北海道実行委員会									
事業名		食文化から地域おこしを考える									
対象地域名		明和地区									
地域の特徴		住宅街開発から20年。地域の活動は高齢者が目立つ。									
実施回数	5回	各月の実施回数	7月 0	8月 0	9月 1	10月 1	11月 2	12月 0	1月 0	2月 1	3月 0
参加総数	189人	各月の参加者数	7月 0	8月 0	9月 48	10月 65	11月 32	12月 0	1月 0	2月 44	3月 0
参加者内訳	幼児・小学生とその親		184人		年間参加者数	料理が得意な主婦		5人			
	青年ボランティア		5人					人			
			人					人			
			人					人			
			人					人			
			人					人			
		合計		189人		講師・指導者		合計		5人	
事業目的	<p>地元で昔から伝わる手作りのおやつや、漬け物作りなどを通して、若い世代に地場の食材の豊かさや郷土の食文化を継承する。地域文化への理解を深めることで、地域を活性化する大人のネットワークを築く。</p>										
事業概要	<p>①郷土に昔から伝わるおやつや漬け物の達人を発掘する。          ②若い母親たちの集まる場所で料理の紹介や講習をする。          ③子どもたちも一緒に参加して楽しめるような準備をし、和やかに進められるように配慮する。</p>										
実際の活動	<p>9月：大袖振大豆のおからを使ったドーナツづくり。10月：豆腐を使ったお月見団子づくり。11月：昔ながらのニンジン漬、白菜漬。2月：北海道産米とケンボローポーク(芽室産)の豚丼の試食会</p>										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	若い母親や子どもたちは「ばあちゃんのおやつ」や「家のお漬物」の味を知らない。					こんなにおいしく、また、簡単に作れることに驚き。「家でも初めてお漬物を漬けました」と喜んでくれた。また、地場のものの安心、安全にも理解を示してくれた。					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	かたぐるしい雰囲気ではなく、子どもも一緒に参加したり、遊んだりしながら、隣のおばあちゃんに教わっているような場づくりができたので、若い母親もゆったりと参加できた。					異世代での交流の参加者をどう増やしていくのか。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		実行委員会のメンバー		28人		事業総経費		170,120円		
					人				人		
				人				人			
		その他(		人				人			
				合計		28人		 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▨ 旅費</li> <li>▩ 消耗品費</li> <li>□ 印刷製本費</li> <li>▨ 通信運搬費</li> <li>▩ 借料及び損料</li> <li>□ 会議費</li> <li>▨ 賃金</li> <li>▩ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>			
				合計		28人					
<p>主な経費バランスから見える事業特徴</p> <p>諸謝金～地域の人材を発掘でき、また、その人からもやりがいを感じてもらえた。補助講師料は、この活動を継続していくうえで支えとなった。</p>											



都道府県名		北海道		市区町村名		中札内村					
実行委員会名		すてきな村、すてきなあなた									
事業名		H19年度文部科学省「学びあい、支えあい」地域活性化事業									
対象地域名		中札内村全域									
地域の特徴		中札内村は酪農業を中心に乳製品、大豆加工品生産も盛んな村である。人口約4000人のうち、およそ1/5が60才以上であり、共働き家庭が多いという特徴がある。									
実施回数	3回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	75人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	40代男性		9人		内訳別参加者数	講師		心理カウンセラー		1人	
	40代女性		9人			指導者人数				人	
	30代男性		3人							人	
	30代女性		30人							人	
	20代女性		9人							人	
	50～60代女性		15人							人	
		合計		75人				合計		1人	
事業目的	村という狭い地域において、夫婦、親子、職場などにおける人と人の関わりについて考え、心理学的な側面からその関わりを考察し、改善していく手だてを見いだす。										
事業概要	「幸せに生きる、支えあう」カウンセリング講座―選択理論シリーズ全3回―と題し、1回目～実践のきっかけをつかむ。2回目～メンタルヘルス・栄養と心について学ぶ。3回目～選択理論を生活に(自分から発生する人間関係に)生かす(ロールプレイを体験する)										
実際の活動	定員20名を越える参加があり、1回目～この講座に何を求めるか、自己紹介、選択理論とは。帰ってから何か一つ取り組む。2回目～心と体のマネジメントについて考える。帰ってからどのようなことを実践してみたか。3回目～選択理論に生きる生き方とは。ロールプレイを体験して。帰ってからの実践について。以上について、隣の人とあるいは全体に向けて発表したり話し合ったりと楽しく、時には真剣に、世代や職業が様々な人たちが知り合い、話し合い、聞き入る。3回とも出席率はほぼ100%で、講座の内容も聞き逃すともったいないと言わんばかりに集中していた。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	村という狭い地域においては人と人の関わりも狭くなりがちで、それらが教育や職場、家庭などにおける人間関係にまで及んで来ている。					自分の関わりエリアから、まずは変化していけるように、自分自身の発信の仕方を変えてみよう、変えてみることで相手も変わっていくという自信がうかがえる。3回とも、活発な意見、楽しげな笑い声、講師の話への集中度が変化への切望を表しているように思えた。					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3回シリーズで継続的に少しずつ学んでいったこと。</li> <li>・狭い空間でお互いが密着して座り、人を感じる事ができたこと。</li> <li>・お茶とお菓子でほっと一息できる時間を設定したこと。</li> </ul>					できれば、月1程度でずっと継続するといいい。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通した企画運営者	3人		事業総経費		97,200円				
		その他( )	人				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▨ 消耗品費</li> <li>▧ 印刷製本費</li> <li>▩ 通信運搬費</li> <li>▦ 借料及び損料</li> <li>▤ 会議費</li> <li>▥ 賃金</li> <li>▧ 保険料</li> <li>▨ 雑務費</li> </ul>				
合計		3人									
右図の経費バランスから見える事業特徴											
・3回シリーズとういこともあり、講師謝金が過半数を占めているが、内容としては十分価値ある内容であった。											

都道府県名	宮城県	市区町村名	富谷町									
実行委員会名	アクティブルーム伊達っ子実行委員会											
事業名	パソコン教室（親子でパソコン教室）											
対象地域名	【富谷地区】 富谷町富ヶ丘公民館（第2研修室）											
地域の特徴	南は商業用地・住宅団地・仙台市・利府町、北は大和町・大企業進出計画の大衡に接し郊外型商工業施設が建ち仙台市のベッタタウン地域です。											
実施回数	10回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	親子でパソコン(秋の公園探索デジカメで写真) 11月18日日吉台公園(母と子とホール)
参加総数	87人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	地域の青少年		21人		講師指導者の内訳	デジカメの指導者(写真クラブ顧問)		1人				
	地域の就職前の成人一般人		3人			野外活動(山岳会指導者)		1人				
	地域の団塊世代		25人			活動マナー指導のおばさん		1人				
	地域の高齢者70歳代		33人			パソコン講師(富谷ネット代表)		1人				
	地域の就業休日者		5人			パソコン指導者(パソコンクラブ員)		2人				
その他( )		0人		その他( )		0人						
		合計		87人		合計		6人				
事業目的	1、親子の絆と地域の絆で、地域子供の育成をはかる。 2、団塊世代の第二の雇用創出のきっかけを与える。 3、ニートに対して、Web作成の後継者育成をはかり、雇用創出の一助となる。											
事業概要	1、秋の公園を探索しデジカメで写真撮影会を実施し、地域の人達の交流と、親子の絆をはかる。 2、年末に年賀状印刷等により、情報機器に対しての嫌悪感を取り除く。 3、Wordの基礎講習で基礎から応用までと、文書記述を習得させる。											
実際の活動	1、第1回目は、この地域でのイベントは実績もなく、実施場所となる会館確保に日数を要した事で、募集期間が短かった、参加人員が少なかったが、参加者には大好評でした。 2、第2回目以降は、予定の参加人員を得て講習を行うことが出来た、地域の10数名の希望により、パソコンクラブ、サークルとして富ヶ丘公民館に登録申請した、以降逐次会員を募り地域に根づく活動にしたいと考えています。 3、12月の年賀状印刷のイベントは時期的に上旬と考えていたが、場所の確保の調整に手間取り遅くなった、このイベント主体の富谷ネットは、パソコンクラブとして公民館に登録された事により、参加申込みが、逐次増加し地域に根付いた活動となると考えています。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	1、参加人員平均5名と計画したが、この地域でのイベントは最初である事と、会館確保に日数を要した事で募集期間が短かったので地域の認識が薄かった。 2、団塊世代、及びニートに対しての参加を促す事は、行政では難しい、その1つは、講師は若年の女の子が多く団塊世代及びニートの人に馴染まない。					1、野外での活動も取り入れ参加を促した、参加者は親子及び地域の人達と、わけあいあいでも多少なりとも絆が出来た。 2、パソコン教室は、サークルとして富ヶ丘公民館に登録完了した、以降逐次会員を募る事により、地域に根づく活動になると考えます。 3、回を重ねることに団塊世代の人達が予想より多く講習に参加された。						
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
1、パソコン教室は、サークルとして公民館に登録した事と地域の人達に親しみを感じさせた。 2、講師及びスタッフは、年配の人達を当てた事により参加者、特に団塊世代の人は、自分のプライドを捨て講習に望めた。 3、わけあいあいの講習で、地域住民の絆をはかる事に重視した結果、継続的参加者が多く見受けられた。					1、登録されたサークルは継続運営をする事の条件でもあり、20年度も、このイベントを継続したいと考えています、その間は、会費制とし会員限定と成りますが継続実施する。							
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間連続参加でき、専門的知識の	1人		事業総経費		457,840円					
		ボランティア	3人									
富谷ネットクラブ会員	9人											
諸事務、参加者サポート女性	1人											
その他( )	3人											
		合計		17人								
右図の経費バランスから見える事業特徴												
①「諸謝金」・野外でのイベントは、現地偵察、資料收拾を数日かけ綿密に行い安全と、実施の効果等を考慮した設定をする事が出来たが、経費が突出した。機器の技術的なインターネット接続構成等は、専門知識の有するボランティアに依頼、支払いは謝金に含めた事で、経費を抑えた。 ②「旅費」・屋内のイベントで、借用機器の搬入、搬出はワゴン車両を使用した為、旅費をあて28%になった。 ③「消耗品費」・チラシ配布、その他は、全てボランティアで行ったが、チラシ作成経費は、消耗品としての経費で、その部分が17%となる結果になった。												

都道府県名		栃木県		市区町村名	宇都宮市							
実行委員会名		学びあいうつのみや食育体験実行委員会										
事業名		学びあいうつのみや食育体験										
対象地域名		宇都宮市										
地域の特徴		人口50万人を超える中核都市でありながら、合併や転勤で住んでいる人など、ふるさととして認識が薄く地域のまとまりがない。										
実施回数	11回	各月の実施回数	7月 5	8月 2	9月 1	10月 1	11月 2	12月	1月	2月	3月	7月7日 暑い中さつまいもの苗植え間隔を測りながら丁寧に植えていきます。
参加総数	259人	各月の参加者数	7月 116	8月 20	9月 20	10月 10	11月 93	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の家族(パパ・ママ・子ども)		254人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		農家の方		5人		
	定年後の方		1人			調理師		3人				
	地域のおじいさん・おばあさん		4人									
			人									
			人									
			人									
合計			259人			合計			8人			
事業目的	家族で参加する自然体験を通して、互いに学びあいながら親睦を図り、よりよい人間関係を構築していくことを目的とする。											
事業概要計画	一年を通して、種まきから草取り、収穫までの農業体験をする。また、収穫した野菜を使って料理を作り、総合的な食育の学習を行う。											
実際の活動	事業開始が遅れてしまい、農作物の生育に影響があった。しかし、事前の準備を丁寧におこなったために、当日の指導体制はうまくいった。 家族単位での参加が多く、毎回出席する人も多かった。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況						事業によって変化したこと					
	都市化が進み、地域のまとまりが薄く自然体験の場が少ない。						少なくとも、参加者の意識は変化し、自然と食べ物の関係のしっかり学ぶことができた。また参加者間の交流が深まり地域の良さを再確認できた。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント						次年度にむけた諸課題					
	事前の準備をしっかりとやれたので、当日のトラブルもなく参加者に手厚く向き合うことができた。講師の人選が良かったのでたいへん良い学習の場を提供できた。						もっと長いスパンで、自然に合わせてゆっくりと作物を作りたい。参加人数に制限があるので、料理教室をもっと頻繁に開催したい。					
実施体制	年間を通じた事務局担当者		2人		事業総経費				271,210円			
	理事・役員等組織運営関係者		7人						<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▨ 消耗品費</li> <li>▧ 印刷製本費</li> <li>▩ 通信運搬費</li> <li>▪ 借料及び損料</li> <li>▫ 会議費</li> <li>▬ 賃金</li> <li>▭ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>			
一般募集ボランティア		5人										
地域内の協力団体関係者		5人										
その他( )		人										
		合計		19人								
右図の経費バランスから見える事業特徴												
<p>①諸謝金……日常的な関係のある地域の人に、指導者になってもらうことで、参加者も指導者も気持ちがつながり楽しく学ぶことができた。炎天下の中での作業もたいへんだっただけで経費の大半を投入したが謝金としては十分な額ではなかったと思う。</p> <p>②旅費……畑は郊外にあり交通手段も大変なので、当然のことでもあるが、かかる経費は支払うことができてよかった。</p> <p>③その他の経費……ほとんどの経費は持ち出しになってしまったが、今後、それらの経費を捻出できるかどうか課題である。</p>												

都道府県名	群馬県		市区町村名	桐生市										
実行委員会名	「フィールドワーク桐生」実行委員会													
事業名	フィールドワーク桐生													
対象地域名	群馬県桐生市全域（対象人数約10万人）													
地域の特徴	桐生市内の旧織物工場や近代化産業遺産群が点在する地域。													
実施回数	28回	各月の実施回数	7月 2	8月 1	9月 12	10月 8	11月 2	12月 2	1月 1	2月 0	3月 0			
参加総数	822人	各月の参加者数	7月 186	8月 33	9月 391	10月 91	11月 45	12月 35	1月 13	2月 8	3月 20			
年間参加者内訳と延べ数	常任スタッフ関係者		105人		講師指導者の内訳	大学教員		2人						
	ボランティア参加者		282人			高校教諭		4人						
	スタッフ以外の参加者		215人			造形作家		6人						
			人					人						
	フィールドワーク桐生の活動展示鑑賞者		220人					人						
			合計 822人					合計 12人						
事業目的	群馬県桐生市は、かつて近代化を支えた織物産業で栄えていた。街を象徴するようなノコギリ屋根工場の数が十数年前と比較すると400棟以上から200棟以下へ半減している。これは、所有者の高齢化と工場の老朽化のためだが、単なる保存や修復ではなく、『フィールドワーク桐生』というプロジェクトで広く一般市民に再利用（＝保存）について考える機会を設けることにより、所有する苦勞（固定資産税）や、ノコギリ屋根工場が単なる倉庫としてしか使用されていない状況を一般市民のボランティアの清掃活動から、広くこのような状況を認識してもらい、再利用への具体的な指針と表面的なまちづくりにならないように地道な活動をしていく。													
事業概要	桐生市内の近代化遺産としてノコギリ屋根工場に保存修復、再利用に関するレクチャーを6回程度開催する。広く桐生地域の市民へ呼びかけ、6月から「フィールドワーク桐生」と称して、ノコギリ屋根工場の実測や聞き取り調査を行い、報告書類としてまとめる。一般市民の参加によってボランティア清掃活動（所有者が高齢者で一人暮らし等の上、工場の老朽化も激しい）をサポートする。さらに、それらの調査結果等を展示して、記録報告にまとめる。その上で行政関係機関・団体等、そして所有者とのネットワークを構築し、各々の立場から情報交換できる場を設けて、市民に広く実情を知ってもらう活動につなげ、地域住民の関心を高める。													
実際の活動	実際に近代化産業遺産的な工場内を片付けることになると、1回程度では終らず、数日間かかってしまった。きちんと片付けが行なわれることによって、工場の所有者にはかなり感謝したが、実行委員ならびに指導者が想定外の活動をするようになってしまった。一方、わたらせ渓谷鐵道の線路際の木葉掻きプロジェクトの方は、3回行なわれたが、ロコミによってかなり話題になり、テレビ・新聞・ラジオ等のマスコミに取り上げられることになった。わたらせ渓谷鐵道のイベントになりそうでもある。プロジェクトの途中報告展も220人の鑑賞者があった。													
事業の成果	事業によって変化したこと					この活動によって、整理された空間を出現させることによって、あらたに利活用される物件になる予定。休日を利用して参加するボランティアの方々にとっては、ふだん入ることができない場所に入って、作業やミニレクチャーを見聞きできたため好評になり、ロコミでマスコミの取材が来るようになったが、当事者のプライベートな事情を考慮して部分的な発表となった。								
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題								
一日の作業量を半日になるように仕組んだこと。また、適度に休憩を挟み、ミニレクチャーを行ない、建造物の歴史的技術的背景がわかるように仕組んだ。作業終了後は、ボランティアや慈善行為による炊き出しがあったため、作業終了後にコミュニケーションができた。					作業量が一つ一つの物件により異なるので、どのくらいで一つの物件が終るのかわからないので、予めこの活動の趣旨を理解してもらった上で終了しないで継続する分については、他の関係機関と協力して行かなければならない。一般参加者は、チラシの応募ではなかなか参加しないので進んでロコミによるネットワークを作らねばならない。									
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		行政・商工会議所・青年会議所	31人		事業総経費			680,160円					
			地元ボランティアグループ	60人										
		行政関係者、他の地域からの参加	137人											
		その他()	人											
		合計		228人										
右図の経費バランスから見える事業特徴														
予定されていた日数で片付けが終らず、地元ボランティアの方々も継続的に借りていた場所を計画の数倍以上利用した結果、借料料が増加したが、社会的な責任は果たせた。この様子は、新聞・ラジオ・テレビ等で取りあげられた。その分、チラシ費用を抑えることで全体収支を収めることができた。会議費と消耗品の一部にかかる費用等は地元商工会議所や青年会議所に協力していただいたので、抑えられた。通信費は、封書だけでなく、携帯電話での連絡の割合が多いにも関わらず、グラフに反映されていない。桐生市外の人が多いため、旅費の占める割合が増えている。また、事業報告書は、こうした活動を継続的に行うためには、地元の方々の理解が必要であり、説明報告書は必須である。														

都道府県名		埼玉県		市区町村名		入間市						
実行委員会名		ちよっと教えて実行委員会										
事業名		あなたのためをおもって										
対象地域名		入間市										
地域の特徴		人口15万。他市からの流入が多く核家族が多い。										
実施回数		22 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月
参加総数		440 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の母親			370 人		講師指導者の内訳	子どもの問題を扱う講師			3 人		
	小学生			15 人			ファシリテーター			5 人		
	未就園児			15 人						人		
				人						人		
				人						人		
				人						人		
			合計 400 人					合計 8 人				
事業目的		子どもの権利条約の普及・啓発										
事業計画		子どもの問題を専門に扱う講師を迎えての講演会と学習会。権利条約をまなぶワークショップなど。										
実際の活動		講師を招いての講演会と学集会は、予定していた講師の都合が折りあわないなどあり、ファシリテーターを招いて参加者同士で日ごろの子育ての話をする場にしたが、権利条約のワークショップを普段実践しているファシリテーターだったので、参加者には「子どもを1人の人として受け止める」大切が共有された、いい場を重ねることができた。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況				事業によって変化したこと							
	「こどもの権利条約」の認知度は低い				参加者には、「子ども権利条約」が認知された							
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント				次年度にむけた諸課題							
	参加者を一度にたくさん集めることをせず、20人以内に絞ったことで、参加者同志の交流が深められた。				広報戦略が課題。また、おとなだけの学習会以外に、子どもと一緒に活動の場も造りたい。							
実施体制	活動実施の応援スタッフ		保育スタッフ		25 人		事業総経費		893,360 円			
	ボランティアなど		宣伝隊		20 人							
				人								
		その他( )		人								
				合計 45 人								
右図の経費バランスから見える事業特徴												
<p>半分以上が講師の謝金に当てている。これは日ごろ自分たちでお願いしたくても経費の関係で二の足を踏んでいる方たちを、補助金があったからこそ招くことができたと考えている。</p> 												

都道府県名		埼玉県		市区町村名		さいたま市見沼区							
実行委員会名		さいたま子ども劇場											
事業名		畑作業・稲作体験・しめ縄作り・おせち料理・味噌作り・わらべうたあそび											
対象地域名		さいたま市見沼区											
地域の特徴		古来「延喜式」に記載されている武蔵国一宮の氷川・氷川女体神社があり、伝承文化に恵まれていたが、核家族化が進み、20～30代の親世代はその文化を受け継いでいません。											
実施回数	31回	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
		5	8	6	3	2	3	2	2	0			
参加総数	879人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
			129	212	169	89	60	100	70	50	0		
年間参加者内訳と延べ数	未就学児		84人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		地域の農業スペシャリスト		2人			
	小学生		142人			地域子育てコーディネーター		2人					
	子育て中の親		572人			郷土料理研究家		1人					
	おばあちゃん世代		17人			地域コーディネーター		1人					
			人					人					
			人					人					
		合計		815人		合計		6人					
事業目的	さいたま市には古来「延喜式」に記載されている武蔵国一宮の氷川神社・氷川女体神社があり、もともと伝承文化に恵まれた土地でした。しかし、20代から30代の親世代は前世代よりすでにその文化を受け継いでいません。自然体験や世代間交流体験、文化伝承体験とおし親や地域の大人たちが学び、地域に愛着を持つことによってより良い子育てができることを目的とします。												
事業概要	氷川女体神社のある見沼の自然の中での「畑の農作業」・「稲作体験」をし、さらに日本の季節の行事「しめ縄飾り作り」、「どんど焼き」、「お餅つき」、郷土文化の伝承「わらべうたあそび」、「おせち料理」、「味噌作り」講習をします。親の力だけでわが子を育てるのではなく、地域の大人たちが交流する中で子育てをしていきます。身近な生活の中にある地域の伝統を大人たちが受け止め、子どもたちへ伝えていく、ふるさとを学ぶ事業。												
実況	地域の農業エキスパートの指導の下、参加者同士農業体験で汗を流しました。回を重ねるごとに顔なじみが増えていきました。収穫祭では、田んぼで大きな輪になって参加者皆でわらべうたをあそびました。畑活動では今年度収穫後も継続して活動したいという声が上がっています。伝承行事「しめ縄飾り作り」、「おせち料理作り」、「どんど焼き」、「お餅つき」、「味噌作り」は地域のおばあちゃん世代ボランティアが参加。「わらべうたあそび講習会」では、子育てママの中から地域の子どもたちへわらべうたを届けようという話が出てきました。												
事業の成果	事業開始前の地域の様子					事業によって変化したこと							
	親の力だけでわが子を育てる子育て。お友だちは、子どもの幼稚園・小学校関係のみ、という狭い人間関係。子どもには郷土の文化や風土を学ばせたいと思っているが、親自身が学ぼうとは思っていません。					子育てママが地域の人たちとの交流、生活の中にある伝承文化に触れ、地域に興味を持ちました。そして、地域の大人が環境をつくっていくことが大切だと感じ、自分にできることを、やっという動きが出てきました。							
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度に向けた課題							
	①継続的なプログラムにしたことで参加者同士の関わりが深まった ②講師に、地域のスペシャリストを向かえたことでより郷土色の強い内容が提供できたことが面白さにつながった。					①わらべうたあそびを地域の子育てママが地域の子どもたちへ届ける活動をサポートしていきたい。 ②大学生に向け、ボランティア参加の呼びかけをしていきたい。							
実施体制	事務局担当		3人		542,640円								
	活動実施の応援スタッフボランティアなど		運営担当者		6人		ボランティア		15人		その他( )		人
				合計		24人							
右図の経費バランスから見える事業特徴													
<p>諸謝金・・・地域の専門家に指導者として入ってもらうことで、講師料を抑えることができ、地域の特徴を知ることができた。 運営委員会出席謝金が11回目まで出したが、それ以上に仕事量があるので持ち出しになってしまう。 印刷製本費・・・経費の30%を使用したがいさいたま市全域にチラシを配布することで参加者が多数となった。</p>													
 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▨ 旅費</li> <li>▩ 消耗品費</li> <li>▧ 印刷製本費</li> <li>▦ 通信運搬費</li> <li>▥ 借料及び損料</li> <li>▤ 会議費</li> <li>▣ 賃金</li> <li>▢ 保険料</li> <li>□ 雑務費</li> </ul>													

都道府県名		東京都		市区町村名		東村山市						
実行委員会名		地域コミュニケーションプロジェクト										
事業名		子どもたちに伝えるわらべうた講座～伝えること 向き合うこと そして待つこと～大人のための学習会										
対象地域名		東村山市										
地域の特徴		東京近郊のベッドタウン 人口14万人 かつては農村地域。わずかながら右肩上がりの出生率で、市民活動はさかんな方だが、異世代交流はごく一部。										
実施回数	8 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
参加総数	122 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と数	地域活動(特に対、乳幼児親子)に携わっている大人		20 人		内訳別参加者数	講師		表現教育講師		1 人		
	乳幼児		15 人			講師指導者の内訳		土地の高齢者		2 人		
	母親		15 人							人		
			人							人		
			人							人		
			人							人		
		合計		50 人				合計		3 人		
事業目的	①乳幼児親子の育児支援活動等に携わる大人が、わらべうたあそび、伝承あそびに込められた人育ての理論と哲学を体験的に学び、より多くの地域の子どもたちにあそびを手渡すこと。 ②参加者同士の交流を深め、今後市内のネットワーク形成に役立てること。 ③実際の親子とあそびの場を共有体験し、理論と実際の両面を体感すること。 ④地域に伝わるわらべうたの発掘調査をし、それを地域の子どもたちに伝え残すこと。											
事業概要計画	①わらべうたあそびの理論と実践 ②地域の先人に学ぶ～東村山のわらべうた～ ③親子ワークショップ編～わらべうたあそびの実際を体験する～の3本の柱で全8回の連続講座を行う。 ※親子ワークショップの回は、参加者のニーズに合わせ、最も実践に役立つ年齢層に絞って参加者を募り、生のあそびの場を共有する。											
実際の活動状況	①市内の図書館などでよみかかせのボランティアをしている方々など、子育てをほぼ終えた世代の参加者が多かったので、活動現場ですぐに実践できることを念頭に、プログラムを立てた。 ②理論と実践を平行して行ったことで、あそびの背景にある目的や子どもを見る大人のまなざし、一つひとつのあそびが子どもの何を育てるか、といった視点を学習することができた。 ③大人同士が、真剣にあそびの実践をすることで、参加者同士が親しくなり、何より全てのあそびは真剣にやってこそ面白く、子どもの生きる力を育む、ということを実感として共有することができた。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	子育てサークルから高齢者の活動サークルまで、市民活動は割りと活発に行われているが、横断的な人間関係や、世代間の交流、支えあいは、なかなか実現しない。					主に子育て支援に関するボランティア活動に参加している市民の方々が、より具体的に乳幼児の親子と出会う手法を身に付けることができ、活動の内容や意欲の向上、自分たちも得るものがある、という認識が生まれた。わらべうたというツールを通して、世代間の交流と出会いが可能となった。						
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
	講座タイトルを「大人のためのわらべうた講座」としたことで、いい意味で参加者が限定され、目的の共有がしやすかった。地域で拠点を持って活動する団体と連携体制を取れたことで、会場確保や発信力の面で効果的だった。					①今年度、試みたものの想定以上に困難であった、地元わらべうたの発掘調査を引き続き試みたい。 ②調査活動の幅ややり方を広げ、あそびの再現や季節の行事の再現の中でわらべうたあそびにも触れていくような展開を考えている。 ③今回の参加者が継続して地域活動の中で、実践をしていくことができるよう、フォローアップの講座を設けたい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた地域担当者	1 人		事業総経費		580,275 円					
		年間を通じた事務局担当者	1 人		印刷製本費		6%					
		制作窓口及び講師	1 人		賃金		13%					
		その他( )	人		借料及び損料		8%					
		合計	3 人		消耗品費		2%					
		右図の経費バランスから見える事業特徴				旅費		3%				
		謝金の割合が示すように、専門講師による講座が軸となっている。質の高い講座内容を提供することで、結果的には、あそびを地域の子どもたちに手渡すこと、参加者の明日からの市民活動に役立てることを目指した。				諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び損料		8%				
						消耗品費		2%				
						旅費		3%				
						賃金		13%				
						諸謝金		68%				
						印刷製本費		6%				
						借料及び						

都道府県名		埼玉県		市区町村名		鶴ヶ島市					
実行委員会名		健康広場									
事業名		健康広場実行委員会									
対象地域名		埼玉県鶴ヶ島市西地区									
地域の特徴											
実施回数	49 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			11	8	10	10	10				
参加総数	779 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			167	129	158	162	163				
年間参加者内訳と数	地域の高齢者		325 人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		地元体育協会役員		2 人	
	地元スポーツ少年団員		266 人			経験者		3 人			
	団塊の世代		188 人			スポーツ少年団指導者		2 人			
		合計		779 人		合計		7 人			
事業目的	健康維持。参加者間のコミュニケーション										
事業計画	多世代間の屋外・屋内での健康方法、今までの趣味を生かした活動										
実際の活動	公園での健康体操、軽い運動、散歩、子供たちとの遊び・競争そして室内での将棋・囲碁										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	新しい街で、知り合いがいないので、ばらばらに各自で運動をしていた。					新しい公園、公民館に自然に集まるようになった。					
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	情報の方法					新たな参加者の募集					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		運営関係者		7 人		事業総経費		411,055 円		
			役員		8 人				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▤ 消耗品費</li> <li>□ 印刷製本費</li> <li>■ 通信運搬費</li> <li>□ 借料及び損料</li> <li>□ 会議費</li> <li>□ 賃金</li> <li>□ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>		
			地域内団体協力者		4 人						
					人						
			その他(		人						
		合計		19 人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											



都道府県名		埼玉県		市区町村名		和光市		 <p>大根が育つ畑でみんなで作ったかかしと一緒に</p>			
実行委員会名		ケンサッカーファミリー実行委員会									
事業名		学びあい支えあい地域活性化推進事業									
対象地域名		和光市全域									
地域の特徴		東京都に隣接し、ここ20年ベッドタウンとして発展し、人口は増加。転出入も多い。平均年齢は若く(36, 7歳)核家族も多く、少子化の中で、子どもが増えている。一方、自治会の加入率は50%未満、昔ながらの人のつながりは失われ、緑が失われ、自由な遊び場も減っている。									
実施回数	14回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				2	2	2	2	2	2	2	2
参加総数	380人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				50	50	50	50	50	50	50	50
年間参加者内訳と数	未就学児		100人		講師指導者の内訳	冒険遊び場		1人			
	青少年		10人			NPO法人わこう子育てネットワーク		3人			
	成人一般		300人			世代間交流会		4人			
	団塊世代		40人			NPO法人子どもみらいわこう		2人			
	高齢者		120人			和光まちづくりNPOセンター		1人			
			合計 570人					合計 11人			
事業目的		和光市NPO団体や市民団体と連携しつつ、公共施設や文化財、地域の活用されていない農業用地などを利用して和光市の地域住人を対象とする親子、家族での関わりや高齢者と子どものかかわりなどを体験する学習会や研修会を通して住民相互の理解を図り支えあえる地域づくりを目指したい。多様な市民(市民団体)の思いをつなげ、まちを楽しく再生し、人がつながっていくための契機とする。									
事業概要計画		和光市に在住の大人(子育て当事者や高齢者や学生)を募り、親子家族での関わりや高齢者と子どもの関わりなどを体験する学習会や研修会を開催する。大人たちが積極的に子育て支援など子どもや高齢者との関わりあいのあり方を大人たちが学ぶことで、和光市においても子育てネットワーク・高齢者ネットワークが構築され、都心から少し離れた環境の和光市という地域性を利用して、お互いが協働し、助け合うまちづくりについて考える。									
実際の活動		和光市を子育てしやすい、暮らしやすいまちにしようという思いで集まった市民団体の集まりで結成され、「家族で農業体験」や「遊び環境を考えること」などに取り組んでいきました。①農作業体験を通じた地域のつながりづくり②地域の遊び場を考える。									
事業の成果	事業開始前の地域の状況				事業によって変化したこと						
	それぞれの活動は、それぞれ連携することなく(活動参加者は重なっていることもあったのだが)別々に活動していた。しかし、市の会議などで顔をあわせていて、お互いを知らないわけではなかったが、協力関係にはなかった。				この活動を通して、それぞれの活動での大切にしている部分が理解でき、新たな枠組みで和光市を暮らしやすいまちに、という視点の活動に取り組めるようになった。和光市はまだまだNPO団体は少ないが、その中で主だった団体が連携することになって活動に関わる層が世代でも性別でもエリアでも広がり、活動の幅が広がった。和光市を暮らしやすいまちへ、ということで次年度継続も予定している。						
	成果につながった事業運営上のポイント				次年度にむけた諸課題						
プログラムを継続事業とし、一回限りではない連続した流れを意図して組み立てたので、参加者の関係性が育つことにつながった。最終的な目的はこのまちで顔の見える関係性を生み出すことであり、人がつながることを上手にバックアップできれば、地域の教育力が自然に育ってくることを期待していたのだが、大根という目に見える育ちがその部分を思う以上にバックアップしてくれたと思う。また、地域活動に積極的な団体が連携した事業により幅広い人材へのアプローチができ、多くの出会いが生まれ、共に地域での子どもの育ちを感じ考える良い機会になった。				今回は初めてということで、まだまだ地域へのアピール不足であった。そして、今回で生まれた成果を今回限りのものとせず、継続的な取り組みとしていかなければ、地域の教育力のアップにつながっていかない。子育て中の人々と、もうすでに子育てを終えた世代との交流や意見交換がもう少し深まり連携が取れば、さらに地域の教育力につながるが、壁がないわけでもなく意外に簡単ではなさそうだ。							
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	NPO法人わこう子育てネットワーク		3人		事業総経費		428,140円			
		世代間交流会		4人		 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▤ 消耗品費</li> <li>▥ 印刷製本費</li> <li>▦ 通信運搬費</li> <li>▧ 借料及び損料</li> <li>▨ 会議費</li> <li>▩ 賃金</li> <li>▪ 保険料</li> <li>▫ 雑役務費</li> </ul>					
NPO法人子どもみらいわこう		2人									
和光まちづくりNPOセンター		1人									
		その他( )		人							
		合計		10人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											



都道府県名		千葉県		市区町村名		袖ヶ浦市					
実行委員会名		千葉中央実行委員会									
事業名		学びあい支えあい 地域活性化推進事業									
対象地域名		袖ヶ浦市内									
地域の特徴		若い家族・家族間の農業体験と自然の素材でのものづくりを中心にしたきずなづくり									
実施回数	14 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			3	4	1	2	2	0	1	1	0
参加総数	288 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			21	109	10	8	36	34	42	28	
年間参加者内訳と延べ数	未就学児		46 人		内訳別参加者数	講師		小枝のアート 講師		1 人	
	青少年		85 人			講師指導者の内訳		竹の楽器づくり 講師		1 人	
	成人一般		157 人					炭焼き 講師		3 人	
								そばうち 講師		1 人	
										人	
										人	
				合計		288 人		合計		6 人	
事業目的	地域の自然環境を理解し、地域への愛着と互いのふれあいを目的に様々な農業体験を実施する。農家の方の土地をお借りして、農作業を教わりながら親子で一緒に土に親しみ作物を作り・収穫の喜びを共有する。また家族同士だけでなく参加した他の家族の方とも一緒に作業し収穫の喜びを味わうことで、きずなを深めたい。また、そうめん流しや炭焼き、おもちつき、そばうちなど、季節に合わせた体験活動を実施し、失われつつある日本の伝統行事を地域の中で大切に育みたい。										
事業概要	年間14回程度の体験交流会を開催し、じゃがいも・さつまいも・とうもろこし・そばなどの作物の種まき・草取りから収穫までを行う。また、竹の炭焼きやそばうちなど、地域の専門の講師を招いての体験活動や、森の木や木の実などを使ったアート作りや竹の楽器作りなど、自然の素材を使った工作を材料探しから楽しみながら実施する。										
実際の活動	とうもろこしの収穫 小枝のアートづくり そうめん流し用竹の切り出し そばの種まき 畑の草取り お芋ほり そばの実収穫 炭焼き用竹の切り出し リースづくり 炭焼き おもちつき そばの実臼ひき そば打ち と、自然の恵みとあわせて季節の食や、文化伝統行事も組み合わせました。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	親子や家族同士のコミュニケーションづくりができないとか、家族間がつながりたくてもその機会がなかなかなかった。					参加者が土と触れ合いながら作業することで、家族同士が一体感を感じ絆を深めることが出来た。種まき・草取り・収穫という一連の農作業を行うことで、参加者もより充実した達成感を味わうことが出来た。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	①地域の方から畑を年間を通して借りられたことで、同じ場所で参加者も安心して継続的に参加することができた。 ②地域の自然の特性を十分に生かし、竹や木の実、流木といった自然の素材を使った、企画も織り込む音で、たくさんの家族が参加し、親子で楽しむことができた。 ③地域の達人を講師としてお招きすることで、企画内容がより充実した。					①文部科学省の活動開始時期が大幅に遅れ、 ②土いじり隊に登録した家族は多かったが、実際の農作業については、天候に左右されるため、日程が直前まで確定されず、参加者が少なめだった。また、平日に作業することが多く、お父さんの参加が難しかった。					
実施体制	活動実施の応援スタッフ	スタッフ	40 人		事業総経費		163,560 円				
	ボランティアなど	ボランティア	18 人								
	その他( )	人									
		合計		58 人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											
①謝金が50%。その他の経費も全体に経費を大幅に縮小して活動している ②畑の使用料も大変安く貸していただいている。											



都道府県名	千葉県	市区町村名	野田市		
実行委員会名	野田西部地区実行委員会				
事業名	おやじの文化講座(野田の町を知ろう)				
対象地域名	野田市西部地区				
地域の特徴	主に東京方面に通勤している住民(主に男性)が近年定年を迎えて地域に戻ってくるが、地域とのふれあいも無く野田のことが分からない人が大多数なのが現状。				
実施回数	7回	各月の実施回数	7月:0, 8月:0, 9月:1, 10月:1, 11月:2, 12月:1, 1月:1, 2月:1, 3月:0	お父さんの文化講座「街歩き」ガイドさんと共に町の史跡を歩く	
参加総数	227人	各月の参加者数	7月:0, 8月:0, 9月:25, 10月:56, 11月:51, 12月:22, 1月:35, 2月:38, 3月:0		
年間参加者内延べと数	団塊の世代 小学生の親子	内訳別参加者数	219人 8人 人 人 人 人	講師指導者の内訳	地域の街案内人 内訳別指導者人数 7人 人 人 人 人
合計	227人		合計	7人	
事業目的	千葉県野田市の西部地区は、20数年前に東京のベッドタウンとして新住民が急激に増えた地域である。主に東京方面に通勤している住民(主に男性)が近年定年を迎えて地域に戻ってくるが、地域とのふれあいも無く野田のことが分からない人が大多数なのが現状。団塊世代の男性達を中心として事業への参加を呼び掛け、街の歴史を学習したり史跡を訪ね自分達が住んでいる街の再認する機会をもちたい。そして、この事業を通して世代を超えたふれあいを増やし、地域における相互支援のネットワーク作りを推進したい。				
事業概要計画	団塊の世代の住民を対象の中心として、野田の歴史に関する学習会(地区内の公民館を会場とし6回程度)を定期開催する。具体的には、野田を中心に活動しているボランティア団体(むらさきガイド)の協力を得て、市内の史跡を巡る活動を4回行う。そして、年度末には親子など異世代の住民参加による史跡めぐりや年度末の成果報告なども開催することで、継続的な地域づくりの活動へと発展させる。				
実際の活動状況	団塊の世代の男性の人が実行委員会を作り街歩きの企画、参加者募集を行った。街案内人は地域のボランティアガイドさんに依頼した。				
事業の成果	事業開始前の地域の状況		事業によって変化したこと		
	千葉県野田市の西部地区は、20数年前に東京のベッドタウンとして新住民が急激に増えた地域である。主に東京方面に通勤している住民(主に男性)が近年定年を迎えて地域に戻ってくるが、地域とのふれあいも無く野田のことが分からない人が大多数なのが現状。		団塊の世代が街を散策することで地域を知ることができたお互いに交流もできた。		
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント		次年度にむけた諸課題		
	実行委員会の回数を多くして集まって話す機会を作った。		継続することと団塊の世代がこれからの活動のテーマを決めて行うこと。		
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	2人	事業総経費	324,992円
		理事・役員等組織運営関係者	10人		
	地域内の協力団体関係者	5人			
	その他( )	人			
	合計	17人			
右図の経費バランスから見える事業特徴					
①諸謝金……1/4をしめる。講演会や街歩きなどに講師を招くことができた事で内容的に充実した。 ②賃金……経費の1/4位を賃金に当てて多くの人に関わってもらえた。					

都道府県名		千葉県		市区町村名		松戸市					
実行委員会名		千葉西部実行委員会									
事業名		学びあい 支えあい 地域活性化推進事業									
対象地域名		松戸市五香六実地区									
地域の特徴		生活文化の伝えあいを通じ、シニア世代と若い世代とのふれあいと交流をする									
実施回数	30 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			4	4	2	3	3	4	3	5	2
参加総数	840 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			100	115	70	80	90	120	85	100	80
年間参加者内訳と数	青少年		440 人		内訳別参加者数	講師		学習会講師 2人×9回		18 人	
	成人一般		250 人			指導者		交流会指導者4人×21回		81 人	
	団塊世代		150 人							人	
			人							人	
			人							人	
			人			合計		840 人		合計	
事業目的	<p>新住民も鎮守の森に集い、旧住民から子育ての知恵をもらったり、地域の歴史や行事について学習したり、神社の境内で定期的にシニア世代が若い親子に生活文化を伝える体験交流などをすることで、旧住民と新住民が協力して地域の文化や子育てについて学び支えあい、お互いの理解を図り、新しい地域のつながりを築く。</p>										
事業概要	<p>地域の鎮守の森の神社に月1回程度定期的に集まり、子育ての知恵を学んだり、地域の歴史、行事を学習する。また、月2,3回、地域の境内でシニア世代の指導で季節の特徴を持った生活文化などについて親子を中心に異世代での交流体験をする。</p>										
実際の活動	<p>①神社の管理人さん夫婦に、この神社の歴史やしきたり、子育ての知恵などの話をさせていただき、親子で学習した。          ②奇術を研究しているシニアの方の小品を親子で楽しんだ。 ③元幼稚園教諭で定年退職されたシニアの方に、わらべ歌や手まり、羽根突きなどを指導していただき、親子で楽しんだ。 ④夏休みに小学校の校庭で行われた松戸市青少年健全育成連盟主催の「夏季お楽しみ会」に協力し、3世代約750名の参加があった。 ⑤地域の旧住民との関係づくりができ、近所の農家の方から竹を分けていただいて、七夕飾りを作って楽しめた。 ⑥市民講座(地元のシニアの会主催)で活動の発表を行い、シニアの方がボランティア指導者として参加して下さるようになった。</p>										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	<p>転入が急速に進行したので、地域での知り合い作りは新住民で固まる傾向があり、シニア世代が地域のよさを伝えたりする機会が乏しかった。</p>					<p>①定期的に数多く開催したので交流が進み、知り合いが増えた。          ②シニア世代の素朴な遊びの指導などを通して核家族の子どもたちとふれあうことが出来た。          ③夏休みプログラムは地域の学校行事と連携が出来た。</p>					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	<p>①30回もの活動を定期的に行なったこと。          ②シニア世代の「何か役に立ちたい」と気持が生きされ、意識高く指導をしてくれたこと。          ③シニア世代と若い世代をつなぐスタッフのコーディネート力があつた。</p>					<p>①変更や移動しない恒常的な会場確保。 学校等での開催をしていきたい。</p>					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	スタッフ	60 人		事業総経費		493,227 円				
		ボランティア	180 人								
			人								
			人								
		その他(	人								
		合計		240 人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>①講師・指導者謝金。旅費が90%を超え、その他必要経費は団体拠出金で賅っている。</p>											
											

都道府県名		千葉県		市区町村名		成田市					
実行委員会名		千葉北部実行委員会									
事業名		学びあい支えあい 地域活性化推進事業									
対象地域名		成田市ニュータウン地区									
地域の特徴		空港勤務者が多く、3年～5年で転居する住民が多いため、地域住民の地域への関心が薄く、自治体等も衰退している。									
実施回数	10 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	1022 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数		未就学児		215 人		講師指導者の内訳		ワークショップ講師6人×2回		12 人	
		青少年		418 人				体験講座指導者2人×7回		14 人	
		成人一般		386 人						人	
		高齢者		3 人						人	
				人						人	
				人						人	
				合計 1022 人						合計 26 人	
事業目的	成田市ニュータウン地区は、成田空港と共に開発され、空港勤務者が多く、3年から5年程度で転居する住民が多いため、住民の地域への関心が薄く自治会や子ども会の活動が衰退しているところが多い。この事業を通じて地域の三世代が出会う場をつくり、多様な価値観をもった大人たちをネットワークし、この地域への転入者が短い期間でも地域にかかわっていくことができるよう、人と人をつないでいく環境を作りたい。										
事業概要計画	成田市ニュータウン地区に住んでいる人を中心に、異世代・異年齢の人が一緒に遊びながら交流できる場を月1回程度定期的に設ける。具体的には、楽しみながらより多くの住民が参加できるよう、昔遊びやお祭り、料理体験、ものづくり体験などを実施する。10月には、地域で例年開催されているニュータウン地区の公民館まつりに参加し、活動の発表を行ったり、さらに事業終了後、地域の協力者(自治会・子ども会・青少年健全育成協議会等)などを対象に、事業の全体報告会を行う等、継続的な交流環境づくりに取り組む。										
実際の活動	三世代交流「きもだめし」「まちをあそぶ」「昔遊びに挑戦」「活動発表会」「縁日ごっこ」「房総伝統太巻さずし」「房総かるた」「おもたつき」と、10回の活動を行った。1000人を超える参加者だった。活動成果報告会も開き、社会的にも認知されるようにした。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	それぞれの人の行っている情報を得ていたりしたが、連絡をとるまではしていなかった。					事業に向けて、地域で活躍する人、プロの講師を招いたことによって、事業の内容が広がり、事業に参加する人の幅が増え出会いの場や機会を提供することができた。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	事業に向けて、地域で活躍する人、プロの講師を招いたことによって、事業の内容が広がり、事業に参加する人の幅が増え出会いの場や機会を提供することができた。会場を身近な場所(小学校や、よく知られている公園)を使ったことによって、地域の人とつながる事ができ、協力を得ることができた。					平均的に月1回の事業は、難しく、講師の都合などで月2回おこなわれたりした。又それに、ともなう広報活動もたいへんだった。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		常任スタッフ延べ		22 人		事業総経費		480,080 円		
			ボランティア延べ		59 人						
		地域内の団体関係者		8 人							
		その他( )		人							
				合計 89 人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>①講師・指導者にきちんとして謝金が支払われたことで、質の高さが保障された。講師にかかる金額が60%を占める。</p> <p>②これだけ行動して賃金がないということは、団体からの持ち出しがかなりされている。</p>											
 <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▤ 消耗品費</li> <li>▥ 印刷製本費</li> <li>▦ 通信運搬費</li> <li>▧ 借料及び損料</li> <li>▨ 会議費</li> <li>▩ 賃金</li> <li>■ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>											


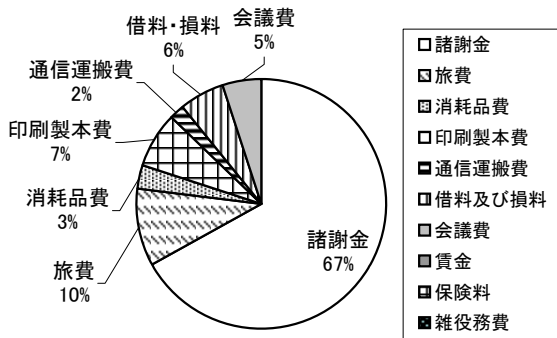
都道府県名		東京都		市区町村名		東大和市					
実行委員会名		桜が丘大人の会実行委員会									
事業名		子どもへのまなざしを研く学習会									
対象地域名		東大和市桜が丘地区（約10,000人）									
地域の特徴		マンションが多く、東大和市の中でも新しい住宅地区。近くには大きな都立公園や市民体育館、市民プール、図書館等施設は充実しているが、高層マンションという住宅環境の中、人と人の広いつながりが希薄になっている。									
実施回数	13回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			1	1	2	1	1	2	2	2	1
参加総数	311人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			19	23	45	24	27	50	48	50	25
年間参加者内訳と延べ人数	児童館職員		24人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		アフタフ・バーバン代表		1人	
	地域団地の大人		167人			アフタフ・バーバン理事		1人			
	子ども劇場会員		120人			アフタフ・バーバンスタッフ		2人			
		合計		311人		合計		4人			
事業目的	近年、子どもを取り巻く環境はますます厳しくなり、様々な地域の課題とともに、家族だけでなく、地域の大人全体で子育てを考える必要性が唱えられている。この事業では、地域の大人達が相互に連携しつつ子ども達への温もりあるまなざしを育て、子ども達にとって安全で楽しい、安心できる地域づくりを目指すことを通じて、地域住民が世代を超えて日常的に交流を深めていけることを目的とする。										
事業概要計画	年12回ほど、地域の多くの大人たちに参加を呼びかけて、「子どもへのまなざしを研く学習会」を定期開催する。具体的には、子育てや教育の専門家を講師として、様々な視点から子どもたちの現状を見つめ直したり、子どもと大人との関係づくりについて体験的に学ぶ。子どもと触れ合う実践的なワークショップなども通じて、参加する地域の大人たちの意識を喚起し、相互の交流を深めながら、日常的に地域住民のむすびつきが感じられるようにしていく。										
実際の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会は12回開催実施。</li> <li>・学習会の一環であるワークショップは2回開催、大人が子ども心に戻り子ども達と楽しくあそび合った。（子どもの目線にたてた。）</li> <li>・子どもとスポーツをし合う体験では本気であそび合い、子どもと大人の関係が創られた。</li> </ul>										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で子どもに出会っても、管理する大人という目線で子ども達から見られていた。</li> <li>・団地という環境の為、大人同士はあいさつ程度のつながりしかなかった。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒にあそび合う事で、大人同士がより深い関係で結ばれたように思う。</li> <li>・子どもからも「○○○ちゃん」と声を掛けられ、子どもとの関係もできた。</li> </ul>					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ参加者数は少ないが、ワークショップを取り入れたことが大きな成果につながったと思う。</li> <li>・児童館の職員も一緒に学習してもらえた事が良かった。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを多く取り入れていきたい。</li> <li>・参加者を増やすよう宣伝に力を入れていきたい。</li> </ul>					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		年間を通じた事務局担当者	1人		事業総経費		568,640円			
			運営関係者	4人							
		地域行政協力者(児童館)	1人								
		アフタフ・バーバンスタッフ	4人								
		その他( )	人								
		合計		10人		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▤ 消耗品費</li> <li>▥ 印刷製本費</li> <li>▧ 通信運搬費</li> <li>▨ 借料及び損料</li> <li>▩ 会議費</li> <li>▪ 賃金</li> <li>▫ 保険料</li> <li>▬ 雑役務費</li> </ul>					
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>1・諸謝金…子どもの事、子どもへのまなざしに関しては、専門性が問われる為、65%を費やした。ワークショップも専門家ではないとできないこと。連続して学習することで、身に付いていくものだと思う。来年度以降も続けていくことで意味が出てくるのではないかな？</p> <p>2・印刷に関しては、学習会という性質上参加しにくい活動の為、何回かに分けて配布し宣伝をした。資料も多く、その点で12%も占めてしまった。</p>											



都道府県名	神奈川県		市区町村名	川崎市							
実行委員会名	アプテックスナッツ										
事業名	三世代参加型の食育体験会										
対象地域名	多摩区										
地域の特徴	・核家族化 ・少子高齢化										
実施回数	18回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	180人	各月の参加者数	20	20	20	20	20	20	20	20	20
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の親子		40人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		茶道師範		2人	
	一人暮らしの高齢者		40人			運動指導者		2人			
	高校生・大学生団体		80人			昔遊び講師		2人			
	子育ての終えた主婦		20人					人			
			人					人			
			人			合計		180人		合計	
事業目的	川崎市多摩区の世帯構成をみると2世代で構成されている家庭が多い。それに伴い、この地域では子ども世代と高齢者世代の交流の機会が減少し、異世代の交流は減少している。一方、この地域の人口構成をかんがみると、日本の他の地域に洩れず少子高齢社会に突入し、この地域を活性化するためには地域に密着して生活を送っている高齢者と子どもの交流が欠かすことができないのは明らかである。そこで本事業は高齢者と子どもの交流の機会を設けることで、両世代の特性を活かし、この地域の活性化を図ることを目的とする。										
事業概要	3世代(高齢者、親世代、及び子供)それぞれが利益を得る側と与える側の両方の役割を果たし、地域の交流を深める。具体的な方法として、高齢者のニーズが高い健康づくりのための運動を実行委員側から提供することで、大人を地域活動に引っ張り出す。その上で高齢者側からはその方それぞれの経歴を基にして、得意分野において子どもへの支援をしていただく。子ども側からは高齢者に対し、運動継続のサポート(応援団)をすることで、役割を果たす。親世代は、子ども及び高齢者の間に立ちコーディネーター的な役割を担う。										
実際の活動	健康づくりイベントでは、高校生や運動指導士が中心となり、無理なく楽しく行えるイベントを行った。 参加者の中に、茶道の師範を行っている方がいたので、子育て中親子を対象とした日本食と茶道体験を行ってもらった。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	事前調査では多くの高齢者は地域の若い世代との交流をしてみたいものの、そのような情報源がなく、チャンスを逃していたということがわかった。					当団体の企画が異世代の団体の交流を図る上でのコーディネーターの役割を果たすことができ、今までなかった団体同士でのコラボレーション企画が実現した。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	地域の女子サッカーチームの協力を得て、高校生・大学生が積極的に参加をし、企画立案にまで担っていただけたこと。					自主運営また持続的に地域問題に取り組める団体運営。					
実施体制	事務局	2人				事業総経費		1,676,000円			
	活動実施の応援スタッフボランティアなど	理事・役員	6人				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▨ 旅費</li> <li>▩ 消耗品費</li> <li>□ 印刷製本費</li> <li>▨ 通信運搬費</li> <li>▩ 借料及び損料</li> <li>□ 会議費</li> <li>▨ 賃金</li> <li>▩ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>				
その他( )	人				合計						
右図の経費バランスから見える事業特徴											
運動プログラムの作成及び指導に関しては健康運動指導士等運動に関する有資格者が担うため、謝金は30パーセント強を占めている。 また、各講習会・体験会については、スタッフ及びボランティアスタッフを充当し、安全性を十分に考慮するとともに地域の施設等を活用することで、継続的に実行できるように考慮したため、施設費および賃金の占める割合が次に高い。											



茶道の講師を迎え、食育体験

都道府県名	神奈川県		市区町村名	横浜市金沢区								
実行委員会名	「祭りの音」プロジェクト・横浜金沢地区実行委員会											
事業名	釜利谷宿・「祭りの音」プロジェクト											
対象地域名	横浜市金沢区釜利谷地区											
地域の特徴	この地域では、屋台・宮聖天をはじめ6曲が伝承されている。笛の伝承は難しく、6曲すべてを吹ける笛吹は、会員26名中6名のみです。											
実施回数	6回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	<p>「ウチのお囃子を譜面にしようなるのか!」「なるほど、そういう事だったのか」口伝を譜面化する事により、見えてくる事がいろいろと出てきた。</p>
参加総数	66人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	小学生	内訳別参加者数	18人	講師指導者の内訳	神楽師・倉谷仙太郎		内訳別指導者人数	1人				
	中学生		12人									
	高校生		6人									
	大学生		3人									
	成人		27人									
					合計	66人				合計	1人	
事業目的	横浜市金沢区の釜利谷地区には「釜利谷囃子」が伝承されている。しかし従来、譜面を使わない口伝という形での伝承に頼ってきたため、近年その継承が困難となり、この地域の重要な伝統文化が失われようとしている。この事業では、地域の人々が地域の財産である囃子に気軽に触れ、その演奏体験を通じて相互のふれあいや継続的な交流を図りたい。専門的な稽古をしていない素人でも囃子を体験できるよう譜面作成にもとり組み、住民たちが地域の伝統文化や歴史を見つめなおす機会を増やし、地域への愛着をもって世代を超えたコミュニケーションのきっかけづくりをしたい。											
事業概要	地域の子どもから高齢者まで幅広い住民を参加対象として、日本の伝統芸能である囃子の基本知識を学び演奏体験することを通じて交流する会を月1回程度開催する。だれでもが囃子を体験できるように、地域でこれまで活動してきた明神神楽会などの協力を得て譜面を作成し、参加者が一緒に囃子の練習をしつつ、地域の歴史や伝統文化を見つめなおす機会を作り出す。伝統芸能は、年齢問わず地域社会への愛着を喚起する重要な資源であるので、それをきっかけに継続的な地域住民の交流を図っていく。											
実際の活動	毎週日曜日19:00～21:30まで町内会館でお稽古をしています。約月に一度の割合で講師の先生による採譜・及び譜面づくりに取り組んでいます。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	譜面を使わず、口伝のみに頼った伝承によって間違った伝承も見られた					譜面と口伝をすりあわせることによる正しい伝承への取り組みが出来た						
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
講師の学習プログラムの充実					保存会会員各個人の技術的レベルの向上							
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど					事業総経費		477,800円				
	その他( )											
右図の経費バランスから見える事業特徴												
諸謝金の占める割合が多い												

都道府県名	神奈川県		市区町村名	麻生区								
実行委員会名	みんなのひろば実行委員会											
事業名	みんなのひろば											
対象地域名	川崎市麻生区、岡上地区											
地域の特徴	川崎市と町田市が入りこんでいる土地柄											
実施回数	71 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			9	5	9	9	10	5	7	9	8	
参加総数	467 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			65	47	48	65	52	36	51	50	53	
年間参加者内訳と延べ数	小さい子供連れの親子(母親, 幼児)		内訳別参加者数		44 人	講師指導者の内訳	フランス刺繍		内訳別指導者人数		1 人	
	主婦(地域、近郊の住民)				400 人		お菓子作り				1 人	
	男性				23 人		児童文学				1 人	
					人						人	
					人						人	
					人						人	
			合計		467 人			合計		3 人		
事業目的	現代、多くの人達は、孤立化した生活をしています。ちよつと誰かに話せば楽になるのに、と思いながら相談する人もなく、気軽に話せる人もいないことがあります。その様な人達が、気軽に来れる場所を地域につくり、いろいろな世代の人達がお互いに話をしたりする場所として機能させたい。											
事業概要	地域内に、住民が気軽に立ち寄り、そこでお茶を飲んだり、話をしたりする場所を提供する。いくつかの楽しいプログラムを提供しながら、参加者相互の交流を深め、地域内の諸問題についても意見交換が出来るきっかけにする。具体的にはお菓子づくり教室、刺繍の会、持ち寄りランチタイム、お話しサロン、他を開催する。											
実際の活動	だいたい、月1回のペースで開催をするが、参加者の多くは主婦で、子ども達、ご家庭の事情によって、開催日は、その日に参加者に確認を取り、調節しながら進めている状況です。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	何を、地域の人達が望んでいるか、必要としているか、試行錯誤しながら進めている。スタッフと話し合い、楽しい事や皆で手作りのものを食べるなど、あまり一人一人負担がかからないように、プログラムを考えました。					事業活動の日時をあらかじめ決めて開催してきたが、参加者の多くは主婦の方で、子どもや家族の状況で参加が難しい状況がある。例えば、学校の授業参観日、夫がその日は家にいるとか。開催日に次回の日時確認をして、都合によっては話合せて、開催日を変える事もあった。						
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
	今まで知らない人達が顔見知りになり、子ども連れの親子に、外であっても声をかけてあげたり、子育てのアドバイスが自然な形で出来るようになった。集まった人達がそれぞれの出身地の郷土料理を紹介し合い、次の集まりにつながっていった。					この地区の方々は何を望んでいるのか、話をしていく中で、良いものは続けて行き、新しいものは取り入れて、マンネリ化を防ぎつつ、楽しい雰囲気の中で活動を続けたい。またその活動に精通した指導員、ボランティアの人達の力を借りて行きたい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通した事務局担当者	3 人		事業総経費		584,650 円					
		ボランティア	40 人									
		人										
		人										
その他(		人										
	合計		43 人									
右図の経費バランスから見える事業特徴												

都道府県名	神奈川県		市区町村名	横浜市中区黄金町								
実行委員会名	よこはまアートコミュ											
事業名	在日外国人と地域をつなぐワークショップ											
対象地域名	黄金町											
地域の特徴	外国籍の人が多く在住する町。歓楽街でもあるので、風俗で働く外国籍女性や不法滞在者も多くいる。また、日本男性との間の子どもや親とともに海外から移住した子どもなども多く、中には無国籍の子どももいる。											
実施回数	4回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
参加総数	100人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	地域に在住する外国籍の人		50人		講師指導者の内訳	ビデオアーティスト		3人				
	外国籍の人の文化や支援に興味のある人		40人			アートNPO		2人				
	支援活動団体関係者		10人			まちづくりの指導員		1人				
			人			保育士		1人				
			人					人				
			人					人				
		合計 100人				合計 7人						
事業目的	横浜市中区黄金町周辺は、外国人の居住者が多く、日本語を理解しない人も少なくない。日本人の知人もいない人たちは、些細なことでも、心細い思いをして生活しているという。そんな外国人たちと外国人への支援に興味のある地域の人を集めて、ビデオワークショップを開催し、友好関係をつくる中で、実際に必要な支援、不足している情報について考察をする。											
事業概要	黄金町周辺に住む在日外国人と、地域住民を集めて、ビデオアーティストとともに黄金町のまちを再発見し、地域の人とのコミュニケーションを促すためのビデオワークショップを開催する。(周辺で活動するNPOの施設で4回)その過程で、語学に堪能な人たちに、彼らに必要な情報や支援についても聞いてもらい、後日、実行委員会で、その情報の有無や、入手先を調べてリスト化する。ワークショップをきっかけに地域住民相互の理解と交流を深める。											
実際の活動	1)前半2回はフィリピンを、後半2回はタイをテーマにして、国籍に関係なく誰でも参加できるような形式で、地域に古くからある映画館と連携して、フィリピンの文化を伝えながらフィリピン人と交流するパーティーと、地域にあるタイ・ストリートのプロモーション映像やマップを作成するプロジェクトを行った。2)横浜在住のフィリピン人の問題は顕在化されにくく、難しい部分もあったが、コミュニティーが存在するタイの人たちとの交流はスムーズに進んだ。3)このプロジェクトにより映画館が、「町のコミュニティーセンターとして機能したい」という積極的な意欲をもってくれたことにより、今回関わった地域の人々との交流の継続性や今後の発展の糸口が見えてきた。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	1)近隣には韓国街やタイ人街があるが、もともと風俗街に働く人たちのためにできたコミュニティーということもあり、あまり一般には知られていなかった。またこのエリアを知っている人たちは、逆にいい印象がない。2)外国からきた女性たちと日本人の間の子どもや、親に連れられ海外からやってきた子どもたちなど、いろいろな状況にある子どもたちが混在する地域。3)さまざまな問題が潜在化している地域だが、あまり一般には知られていない4)民族ごとに小さなコミュニティーがありコミュニティー同士はあまりつながっていない5)古くからあるつぶれかけた映画館が、東京からきた若者たちによって手探りの運営がはじまったところだった。					1)映画館に通う若者たちを中心に、この町にいろいろな文化をもった人たちが住んでいることを知り、それにより様々な問題と可能性があることをアピールできた。2)映画館が、「町のコミュニティーセンターとして機能したい」という積極的な意欲をもってくれたことにより、今回関わった地域の人々との交流の継続性や今後の発展の糸口が見えてきた。3)外国籍の人たちが、自分たちの町に映画館があり、その映画館とつながって何かをできる機会があるということを知ってもらった。						
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた課題						
	1)町の映画館とつながったこと 2)映画館と実行委員会と外国人支援をしている個人やNPOが連携できたこと 3)地域住民である外国籍の人々やそのコミュニティーの中にいる人たちが(店のオーナーや夫など)にコンタクトをとり、話し合うことができたこと。					具体的な問題の入り口が見えてきたことにより、まだまだ顕在化されていない難しい問題があることを感じている。そして、それがあまにも複雑で簡単ではないこともわかってきた。まずは、少しずつ問題を抱えた人やその周辺の人たちと話し合い、連携することで、じっくりと向き合っていきたい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	3人		事業総経費		373,000円					
		協力団体関係者	5人									
当事者		1人										
その他( )		人										
合計		9人										
右図の経費バランスから見える事業特徴												
1諸謝金 講師・指導員として地域の人と経験のある人のバランスをとり、連携して活動をしてもらうことにより、お互いにノウハウを得てもらった。全体にコンパクトに収まっているが、陰には講師・指導員と協力してくれた団体や個人たちによる地道な連絡や超調査、研究があった。この事業に関しては、今後も活動計画や予算にはあげられない細やかな活動こそが、基本にあってこそ、イベントが開催できるのだと考えている。												


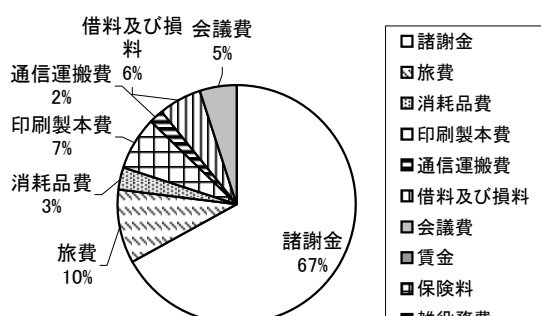
都道府県名	新潟県		市区町村名	新潟県新潟市西区							
実行委員会名	北信越実行委員会										
事業名	コカリナ三世代交流まちづくり										
対象地域名	新潟県新潟市西区										
地域の特徴	新潟で最も人口の多い新興住宅街。国立大学があり、文教地区的な雰囲気もある。										
実施回数	12回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	1122人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	子育て中のおとな		293人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		コカリナの指導者		24人	
	上記の子どもと友人関係・地域の子どもたち		441人			オーケストラの指導者		12人			
	地元音楽関係者		35人			集団遊びの指導者		36人			
	楽器に惹かれて集まったお年寄り		159人					人			
	行政等の緑化関係者とボランティア		26人					人			
	大学生・専門学校生		168人					人			
	合計		1122人		合計		72人				
事業目的	この地域では、これまでもNPO団体等によりコカリナ(廃材から生まれた木の笛)のグループの指導者・運営者の育成が盛んであったが、音楽芸術と環境問題についての地域住民の意識向上をめざし、文化度の高い郊外の街づくりとそこで豊かな住民交流を目的とする。										
事業概要	地域の音楽が好きなおとなに広く呼びかけ、コカリナという簡単な楽器を素材に、大人自身の音楽演奏と発表機会を通じて、地域の子どもたちを巻き込み、その演奏指導をしていくことで、地域の文化環境を改善し文化教育力を高めていけるよう、そのノウハウを学ぶ学習会を定期開催する。また、同時にコカリナの特質(廃材利用)という切り口から身近な環境問題にも取り組み、地域住民の意識共有を図る機会を提供する。										
実際の活動	定期的にコカリナの合奏練習を行い、そこで集まった人々を軸に、緑化運動・老人施設でのボランティア、子どもたちのための遊びを指導できるおとなグループ作り等を年間通して行った。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	新潟市で最も人口が急増した地域なので、新規住民が多く、地域のネットワークが途切れがち。					楽器を軸に地域の子どもたちの幸せを考える三世代の集団が継続するようになった。					
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた課題					
	木製ということで緑の活動、合奏ということで人とのつながり、誰でもすぐに吹けるという優しい楽器ということでお年寄りや子どもたちのつながり、などというように、コカリナという楽器に物語性を付け、地域の人々にこの楽器に関わる意義を見出していただくようにしたこと。					楽器の練習のための集団と誤解されがちで(もちろん入り口はそれでよいのだが)地域の絆を深め教育力を高めるとい趣旨が理解されにくい面がある。時間をかけてボランティア体験等をプログラムに組み込むことで少しずつ理解されるが、これをもっと効率よく進められるプログラムの見直しと講師の意識の変革が求められる。また、参加人数が一回当たり指導者・ボランティアの把握限界を超えて参加者があったので、これも改善をはかりたい。(ボランティアの増員等)					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	講師	2人		事業総経費		54,500円				
		音楽ボランティア指導者	1人								
集団遊び指導者		3人									
担当実行委員		2人									
その他(運営ボランティア)		3人									
	合計		11人								
右図の経費バランスから見える事業特徴											
人づくりということで、諸謝金が一番経費が費やされた。広報等印刷物は実行委員会の全体経費で考えたので印刷製本等の支出は特になかった。											

都道府県名	長野県	市区町村名	小諸市								
実行委員会名	清水の郷実行委員会										
事業名	「学びあい・支えあい地域活性化事業」										
対象地域名	小諸市全域（世帯数約20,000戸 人口約45,000人） 首都圏										
地域の特徴	首都とは車でも電車でも2時間以内の距離に在り、中心市街地商店街は過疎になっている。										
実施回数	105 回	各月の実施回数	7月 9	8月 19	9月 19	10月 16	11月 15	12月 14	1月 13	2月	3月
参加総数	742 人	各月の参加者数	7月 48	8月 119	9月 181	10月 109	11月 107	12月 102	1月 76	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	佐久・小諸地域 大人441人、子供182人	内訳別参加者数	623 人		講師指導者の内訳	農林作業指導者	内訳別指導者人数	5 人			
	県内(佐久・小諸以外) 大人21人、子供38人		59 人			河川漁指導者		3 人			
	首都圏 大人32人、子供28人		60 人			農林産物加工指導者		4 人			
			人			創作指導者		5 人			
			人			きのご栽培指導者		2 人			
			人					人			
	合計 742 人		合計 19 人								
事業目的	活力ある安全・安心な地域としての確立										
事業概要	① 地域の山や川の清掃・不法投棄のごみの片付け ② 行政との連携による通学路の整備 ③ 市内地域間交流 ④ 農林業を通じての首都圏住民との交流 ⑤ 安全・安心カードの配布										
実際の活動	① 河川清掃と不法投棄のゴミの片付けを、市職員・県職員と協働で行った。 ② 県と協働で通学路に歩道区分を設けた。 ③、④ 農林作業を通して地域住民と首都圏住民との交流を行った。 ⑤ 安全・安心カードを配布した。 ⑥ 農林作業体験から、参加者の協力で紙芝居を作成した。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況		事業によって変化したこと								
	① まとまりの無い地域が多い。そういう地域では事件・事故に対しては「見ない振り」の傾向で、児童相談所、市教委等では対処できないことが多い。 ② 通学路の整備が行届いていない。 ③ 市内各所に不法投棄が見られる。 ④ 商・工業には活力が無く、沈滞している。		① 何事も行政機関に頼らなければ出来ないムードであったのが、当事業により、民間にも強い抛り所が在るという意識が生まれた。 ② 行政を動かし、通学区域間連携して、通学路の整備ができた。 ③ 山・川への不法投棄が、県・市の協力で看板立てなどを行ったことにより、現時点では確認されていない。 ④ 地域間(首都圏と地元)交流を通じて、地域資源活用の新								
	成果につながった事業運営上のポイント		次年度にむけた諸課題								
強力な実行組織		① 地域資源活用により、20～40歳代の年代層に住宅建設支援の為の協働作業を県と進める。 ② 「問題の無い学校」モデル校作りに向けて、県教委、学校と協働して実現して行く。 ③ 安全・安心な地域の実現に向けて、今年度発行した安全・安心カードの普及を図る。									
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	常任担当者	2 人	事業総経費		1,039,750 円					
		組織運営関係者	13 人								
	出動可能なスタッフ	28 人									
	県教委・県警・社共・児相	4 人									
	その他(首都圏住民)	1 人									
	合計	48 人									
右図の経費バランスから見える事業特徴			① 安全・安心に重点を置くために、印刷製本費(カード作成)に20%かけた。 ② 地域のリーダーの育成に力をいれ、実践指導に4分の1を費やした。 ③ 地域の活性化を図る為地域間交流に重きを置いた。								

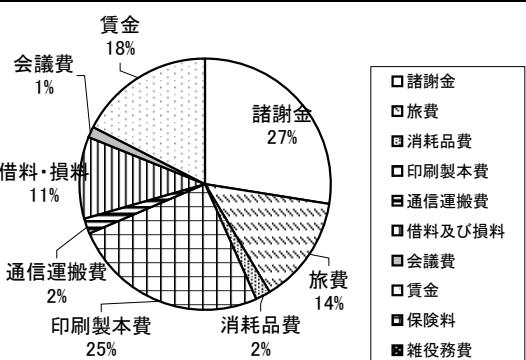
都道府県名	愛知県		市区町村名	江南市												
実行委員会名	学びあい支えあい愛知実行委員会															
事業名	あいえい学びの会 in ちやいんど・すぱーす尾北															
対象地域名	愛知県江南市愛栄通り地域(約1,000世帯/3,000人)															
地域の特徴	古い商店街である。ドーナツ化現象で、地域住民の高齢化がすすんでいた。近年マンションの建築がすすみ、若い世帯の流入もみられるようになった。															
実施回数	30回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
参加総数	828人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	先輩ママから身体をリラックスさせるマッサージを伝授してこらっています。				
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の家族						649人		講師指導者の内訳	芸術の達人			8人			
	地域のせわやきおばさん						114人			カルチャー講師、指導者			8人			
	地域の団塊の世代、高齢者						40人			食育の指導員			2人			
	ボランティア講座の受講生						12人			遊びの指導員			8人			
	その他(行政関係者、近隣住民)						13人			お話おばさん			8人			
							合計			828人					合計	
事業目的	①世代を超えてより良い子育ては何か共に考える機会の提供。 ②新旧住民の融合を図り、相互の意識共有と交流を深める。															
事業概要計画	①毎月定期的に交流会を開催し、地域住民参加による世代を超えた相互理解と交流の場を提供する。 ②具体的にはアロマを使った健康づくり、地の食材を使ったおやつ作り、芸術鑑賞などを行ない、どの世代も楽しく参加してもらえる内容にし、互いのコミュニケーションを深めるきっかけづくりをする。 ③地域でボランティア活動をしている人々にも協力してもらい、新旧住民の間をコーディネートしてもらう。															
実際の活動	①毎月定期的に交流会を開催し、地域住民参加による世代を超えた相互理解と交流の場を提供した。 ②具体的にはアロマを使った健康づくり、地の食材を使ったおやつ作り、芸術鑑賞などを行ない、どの世代も楽しく参加してもらえる内容にし、互いのコミュニケーションを深めるきっかけづくりとなった。 ③地域でボランティア活動している人々にも協力してもらい、新旧住民の間をコーディネートしてもらった。															
事業の成果	事業開始前の地域の状況						事業によって変化したこと									
	古い商店街を中心とした地域。後継者がなく住民の高齢化がすすみシャッター街となっていた。閉店し更地となった土地に新しいマンションの建ち、若い世帯の流入が増えてきた。新旧の住民が入り混じる地域となっていた。						子ども、子育てをキーワードに事業展開していった。抵抗なく参加できる内容であった。会場を商店街の中においたことで、週に1度であるが商店街に若い子連れのママ達が連れ立って歩く姿がみられるようになったことは、町が活気付く一端になっていくと思う。									
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント						次年度にむけた諸課題									
	誰にでも抵抗なく参加できる楽しいプログラムにしたことで、多くの参加者を得ることができた。特に若い子育て世代にとって、子連れで出かけられる場所、子連れで学べる場所というのはニーズにあった事業であった。近隣地域の少し先輩ママ達を講師や指導者に迎えたことは、親しみやすさがあり、住民同士のつながりの輪を広げる結果となっていた。						この地区に住む高齢者との交流を図る目的は充分達成することができなかった。今後、この地区の住民組織(老人会、民生委員)に働きかけ、繋がりが持てるよう考えていきたい。									
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間通じた事務局担当者					2人		事業総経費			447,000円				
		役員等の組織運営関係者					1人									
一般募集ボランティア						16人										
地域内協力者						8人										
その他( )						人										
		合計				27人										
右図の経費バランスから見える事業特徴																
諸謝金が最もパーセンテージを占めている。いろんなジャンルの方に講師、指導員になっていただくことができ、内容が豊かになった。また、地域の隠れていた達人の発掘にもつながり、今後の活動におおいにプラスとなった。次に、借料が占めている。会場を地区の中の空き店舗を活用した集会場に設けている。(市内にある短大が運営している施設である。)この施設を利用できたことが、参加者の利便性を高めており、多くの参加が得られた一因であった。その他の費目は無駄なく適切に支出できたといえる。																

都道府県名	愛知県		市区町村名	名古屋市中区千代田										
実行委員会名	社会人のちょっと伝統芸能													
事業名	学びあい、支えあい地域活性化推進事業													
対象地域名	愛知県、名古屋市													
地域の特徴	愛知県、名古屋市は昔よりお茶、狂言、地歌舞伎が盛んな所です、伝統芸能に興味がある方が多い地域と思います。													
実施回数	28回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
参加総数	36人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
年間参加者内訳と延べ数	OL		主婦		名古屋内の新劇の座員		内訳別参加者数		講師指導者の内訳	常磐津の三味線演奏家		内訳別指導者人数		
										なごやむすめ歌舞伎の座員				
							合計		4人			合計		7人
事業目的	欧米化した現代社会には様々なストレスが蔓延していると思われます、日本の楽器である三味線を弾いてみたり、お茶の作法、和室での作法を学ぶことや、歌舞伎の台詞をいってみる、等々の伝統芸能」に親しむことにより、地域住民一人一人が気持ちに余裕を取り戻し、日常生活の中に日本人の心や日本の文化について見直しつつ、そうしたテーマを住民と一緒に考え、伝統芸能をお稽古することにより地域住民の間に新たなコミュニケーションが生まれる事を目指しております。													
事業概要	三味線のお稽古、お茶作法、歌舞伎の所作や日本舞踊の稽古を平成19年7月から平成20年3月にかけて月2回から5回、金曜の夜八時から九時に実施する。参加対象者は一般成人や大学生とし、講師一人、講師助手二人の形で稽古して行きます。													
実際の活動	募集人員10名に対して当初集まった4名を中心に実施してきました。途中2名の申し込みがありました参加には至りませんでした。													
事業の成果	事業開始前の地域の状況						事業によって変化したこと							
	芸どころ名古屋と言われている土地ですが実際に伝統芸能に親しんでいる人は少ないように思われます。是は名古屋に限った事では在りませんが前述の芸どころ名古屋と言われている土地ではもう少し潜在的に伝統芸能ファンが居ていると感じておりました。						今回は28回の講座ですがまだまだ続けていきたいと言う受講生の感想です。							
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント						次年度にむけた課題							
	本来お稽古事は一人ひとりの個性に合わせたマンツーマンの指導ですが、複数の方に教えるために主講師以外に講師助手を設けた事。						余り沢山の人が集まっても整理しようがありませんが、芸どころ名古屋の割には今回の受講生は思ったより集まりませんでした。募集チラシの配布地域が悪かったのか無料と言うことで変に思われ講座の内容、講師の力量を疑われたのか。チラシ配布よりロコミで人を集める方が良いのか。講師の履歴を書いたチラシを作るとか、講座内容等を詳しく書いたチラシを作るとか、広報の取り組みを考え直さなければと思っております。							
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	NPO法人むすめかぶき理事		7人		事業総経費						690,685円		
		その他( )		人		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▤ 消耗品費</li> <li>▥ 印刷製本費</li> <li>▧ 通信運搬費</li> <li>▨ 借料及び損料</li> <li>▩ 会議費</li> <li>■ 賃金</li> <li>▫ 保険料</li> <li>▬ 雑役務費</li> </ul>								
		合計		7人										
右図の経費バランスから見える事業特徴														
<p>①講座の内容から申して講師謝金、旅費、教室借料がどうしても掛かります。</p> <p>②三味線の貸し出し、お茶作法の道具貸し出し等々の予算も組む必要があったのでは、と反省。</p>														



都道府県名	愛知県		市区町村名	名古屋市名東区高針								
実行委員会名	「祭りの音」プロジェクト・愛知尾張地区実行委員会											
事業名	高針熱田神楽・「祭りの音」プロジェクト											
対象地域名	愛知県名古屋市名東区高針											
地域の特徴	この地域では、宮流神楽を7曲伝承している。笛の伝承は難しく、7曲すべてを吹ける笛吹は、会員12名中1名のみです。											
実施回数	6回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	<p>譜面も出来て、伝承されている曲、全曲吹けるように会員がそれぞれががんばっている。今日は笛の基本的な学習会。今まで自己流でやっていた面を改めるいい機会。</p>
参加総数	36人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	成人		36人			講師指導者の内訳	神楽師・倉谷仙太郎		1人			
	内訳別参加者数		人		人							
	人		人		人							
	人		人		人							
	合計		36人		合計		1人					
事業目的	名古屋市名東区の高針地区では「高針神楽」が伝承されている。しかし従来、譜面を使わない口伝という形での伝承に頼ってきたため、近年その継承が困難となり、この地域の重要な伝統文化が失われようとしている。この事業では、地域の人々が地域の財産である神楽に気軽に触れ、その演奏体験を通じて相互のふれあいや継続的な交流を図りたい。専門的な稽古をしていない素人でも神楽を体験できるように譜面作成にもとり組み、住民たちが地域の伝統文化や歴史を見つめなおす機会を増やし、地域への愛着をもって世代を超えたコミュニケーションのきっかけづくりをしたい。											
事業概要	地域の子どもから高齢者まで幅広い住民を参加対象として、日本の伝統芸能である神楽の基本知識を学び演奏体験することを通じて交流する会を月1回程度開催する。だれでもが神楽を体験できるように、地域でこれまで活動してきた明神神楽会などの協力を得て譜面を作成し、参加者が一緒に神楽の練習をしつつ、地域の歴史や伝統文化を見つめなおす機会を作り出す。伝統芸能は、年齢問わず地域社会への愛着を喚起する重要な資源であるので、それをきっかけに継続的な地域住民の交流を図っていく。											
実際の活動	第2・第4日曜日、19:00～21:00までお稽古をしています。約、月に1回の割合で講師の先生による採譜・及び譜面づくりに取り組んでいます。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況						事業によって変化したこと					
	譜面を使わず、口伝のみに頼った伝承によって間違った伝承も見られた。						譜面と口伝をすりあわせることによる正しい伝承への取り組みが出来た。					
	成果につながった事業運営上のポイント						次年度にむけた諸課題					
実施体制	講師の学習プログラムの充実。						保存会会員各個人の技術的レベルの向上。					
	活動実施の応援スタッフボランティアなど						事業総経費		477,800 円			
		合計 0 人					 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 諸謝金</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 旅費</li> <li><input type="checkbox"/> 消耗品費</li> <li><input type="checkbox"/> 印刷製本費</li> <li><input type="checkbox"/> 通信運搬費</li> <li><input type="checkbox"/> 借料及び損料</li> <li><input type="checkbox"/> 会議費</li> <li><input type="checkbox"/> 賃金</li> <li><input type="checkbox"/> 保険料</li> <li><input type="checkbox"/> 雑役務費</li> </ul>					
右図の経費バランスから見える事業特徴		諸謝金の占める割合が多い。										

都道府県名		京都府		市区町村名		京都市					
実行委員会名		京都子どもNPO実行委員会									
事業名		「家族で町たんけん」									
対象地域名		京都市山科区 伏見区醍醐									
地域の特徴		旧東海道が通る、京都・大阪のベッドタウン。かつての農村の面影は姿を消し、治安面での不安もあるが、史跡も多く、伝統産業など見どころも多地域である。									
実施回数	11回	各月の実施回数	7月 0	8月 1	9月 2	10月 2	11月 1	12月 1	1月 2	2月 1	3月 1
参加総数	397人	各月の参加者数	7月 0	8月 24	9月 30	10月 126	11月 111	12月 20	1月 32	2月 19	3月 35
年間参加者内訳と数	登録メンバー(家族)		160人		講師指導者の内訳	地域を良く知っている人		3人			
	ウォークラリーや人形劇の会等に参加した人		170人			歴史地理学の専門家		6人			
	スタッフ、ボランティア、講師の先生		67人			野鳥の専門家		1人			
			人					人			
			人					人			
		合計		397人				合計		10人	
事業目的	子どもを取り巻く地域社会・生活環境の悪化は加速度的にひどくなる一方で、大人にとっても大きな課題となっています。このような状況の打開に向け、地域の大人が意識的につながりを持ち、地域を知り、人の関わりを増やし、地域との触れ合う事が大切だと考えます。伝統産業の工場・工房の見学、体験や、地域の自然に家族で触れたり、歴史的な場所を訪ねたりすることで、自分たちの住む生活空間に関心を持ち、「知る」ことがわが町に対する興味と親しみを呼び起こし、地域への愛着へと発展していくことを願っています。また、活動に参加できる人の数は限られているので、「パンフレット」「報告書」などを作成し、大勢の人に伝えることも目的にしています。										
事業概要計画	これまで大人が積み重ねた経験を活かし、子どもを巻き込みながら、地域への働きかけを積極的に行います。参加者が地域紹介パンフレットの作成に関わる中で、互いの交流や絆を深めつつ、自分達が得た地域へのかかわりの成果を地域に還元していきます。この事業では、まず子どもと大人の交流、地域住民相互の交流を目的に、地域の史跡探訪や地域産業の体験、地域の山への登山などを体験します。活動の成果はパンフレットと報告書で地域に発信します。										
実際の活動	3つの柱で進めました。 <b>■ 全10回の「町たんけん」</b> ①清水焼の体験・窯元見学・京仏具工房の見学・金箔押し体験 ②醍醐寺と上醍醐登山、山科本願寺跡の見学毘沙門堂などの寺院拝観、伏見稲荷神社への正月登山、冬の川で野鳥観察など。 <b>■ 地域との連携</b> での、「ウォークラリー」「地域のお寺での音楽・人形劇などの会」の共催 <b>■ 4回にわたる、ゆったりとした中での、パンフレットづくり</b> <b>■ 出来上がったパンフレットや報告書を見ながらの、まとめの会。</b>										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	地域性でいえば、京都のベッドタウンである当地は、かつての農村の面影も姿を消し、交通事故数や治安で問題となる地域になっています。しかし、そんな地域だからこそ、みんなでつながり、子ども達の過ごす環境を守ろうと山科醍醐地区で、2002年から「町たんけん」事業を実施してきました。この数年の活動が実り始め、また、地域の大学でも、地域活性化を狙っての動きも活発になり出し、地域理解・地域を愛する気持ちを育てることへの働きかけがはじまられていました。					参加した人たちの意識の変化は、とても大きいものがありました。以前からも、子どもたち対象には、今回と同じような活動をしてきましたが、親や大人が関わることで、日々の生活の中で、このような視点を持って動くことが出来るので、より多くの収穫があったように思われます。また、地域でのつながりは、事業・活動を重ねれば重ねる程、より深いものになるようです。実績が信頼になり、人と人のつながりが深まってきたと感じています。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	毎回、活動に相応しい講師や、活動場所に恵まれました。かつ、その講師の方々が、子どもや子どものいる家庭に向けての、こちらの望む意図を理解して、伝えようとして下さったことが、とても大きかったと思います。一方、毎回の少人数での活動に対し、他の団体などと組みながら行った「ウォークラリー」「お寺で人形劇を見る会」などでは、日頃出会う方々とはまた違う団体の方・地域の方にもお伝えすることができました。一つの事業でも、複合的に組み合わせ、地域(この場合は、教育委員会系の組織・地域の商店街・地域のNPO)との連携は重要でした。					「親子」「家族」での参加となると、親の忙しい日には、子どもが参加したくても出来ないことにより、参加率が悪くなったりしました。家族単位には良さも多いですが、難しさや、子どもの自主性・独立性を妨げる部分もあるので、再検討が必要だと思われまます。一方、専門的な知識を持つ講師の力により、多くの学びを、印刷物として広報することで、地域の人に伝えることが出来ました。また、その際、参加者の主体性を生かしたので、参加者の主体性・独創性を育てることも出来、次年度にもつなげたいです。					
実施体制	活動実施の応援スタッフ		年間を通じた事務局(スタッフ)		2人		事業総経費		547,515円		
	ボランティアなど		理事・事務局		2人		賃金		18%		
		パンフレット版下作成スタッフ		3人		会議費		1%			
		ボランティア		4人		借料・損料		11%			
		その他( )		人		通信運搬費		2%			
		合計		11人		印刷製本費		25%			
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>全体のバランスとしては、偏りも無く、良かったと思う。しかし、全体的に、不足気味であった。①諸謝金・講師への謝金があったことで、毎回、学びを深めることが出来た。しかし、「地域ですら、ま、地域の物知りの人でOK」と言う実施日もあるが、専門家の力を借りて行う日には、大学で講師を務める人をお願いした。常識的にはかなり不足したが、今回は、この額で応じて頂いた。②賃金・パンフレットなどの原稿整理・版下製作には、専門性を持つ人が必要で、この予算では不足した。③旅費・手弁当・手当なしで来てくれるボランティアさんに毎回交通費が支払えありがたい。④印刷製本費・予算的に少し厳しかったが、地域に発信出来良かった。次年度は、この予算を充実させて、継続事業として取り組みたい。</p>											



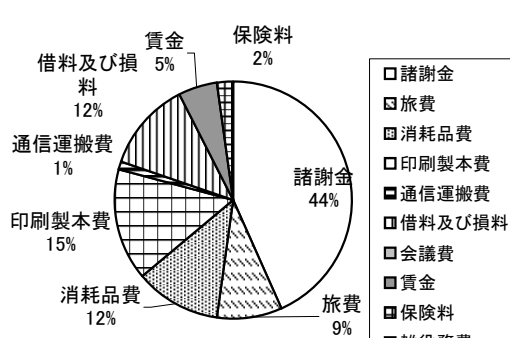
都道府県名	大阪府	市区町村名	泉南郡岬町								
実行委員会名	子どもNPO大阪府実行委員会										
事業名	親子の自然体験										
対象地域名	岬町全域（約7800世帯／18000人）										
地域の特徴	旧来の住民と、都市開発に伴う新住民が混在し、住民の思考の違いや、ともに地域を作るつながりがもてにくい状態。少子化、核家族化に伴い子どもたちの異年齢集団が失われ、自然が多く残された地域にありながら、自然を感じる体験が不足し、即効性の有る娯楽や手にとりやすい消費を好む嗜好性があります。										
実施回数	5回	各月の実施回数	7月 3	8月 1	9月	10月	11月	12月	1月 1	2月	3月
参加総数	323人	各月の参加者数	7月 171	8月 106	9月	10月	11月	12月	1月 46	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の家族(パパ・ママ・子ども)		280人		講師指導者の内訳	自然工作を教えてくれる講師		4人			
	地域の住民ボランティア		22人			親子スキー教室の講師		4人			
	地域の青年ボランティア		21人					人			
			人					人			
			人					人			
		合計 323人				合計 8人					
事業目的	①自然体験や親子体験の不足が問題となっています。 ②いろいろな家族集団とともにキャンプやスキーなどの自然体験を体験することで、日常では味わえない家族のきずなをふかめる。 ③個人主義ではない、地域の人と人とのふれあいを体感することを目的とします。										
事業概要計画	①四季を感じる自然体験として、子どもの長期休暇を利用して夏は家族で自然を感じるファミリーキャンプを開催。 ②冬は、親子で、日常では味わえないスポーツ体験としてファミリースキーを開催する。										
実際の活動	①四季を感じる自然体験として、子どもの長期休暇を利用して夏は家族で自然を感じるファミリーキャンプを実施。 ②ファミリーキャンプの実施前と実施後に、参加者交流会をそれぞれ実施。 ③冬は、親子で、日常では味わえないスポーツ体験としてファミリースキーを実施した。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	少子化や個人主義の中で、核家族化が進み娯楽をてっとりばやい買い物や外食、遊園地といったお金で買う楽しみに流れる傾向がある。					核家族で行っても楽しくない自然体験を、多くの人たちと体験することでお金では買えない満足感・人間本来が持つ自然との対話などを提供できた。					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	最初は知らない人たちであり、普段から核家族で行動しているのであれば、大人の交流力もないかもしれないということで、いかにしてみんなが交流できるかという点を工夫して計画化したところ。					比較的伝えやすいキャンプやスキーといった内容なので、広報的には苦労はなかったが、参加者負担となる実費(宿泊費やスキーの備品・リフト代)などの参加費を、参加しやすい価格に設定するため、行き先の吟味などが課題である。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	1人		事業総経費		382,449円				
		理事・役員等組織運営関係者	2人				<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▨ 消耗品費</li> <li>□ 印刷製本費</li> <li>■ 通信運搬費</li> <li>□ 借料及び損料</li> <li>□ 会議費</li> <li>■ 賞金</li> <li>▣ 保険料</li> <li>■ 雑役務費</li> </ul>				
一般募集ボランティア		13人									
地域内の協力団体関係者		7人									
その他( )		人									
		合計 23人									
右図の経費バランスから見える事業特徴											
諸謝金・・・キャンプ実施に伴う宿泊・食事などは、参加者の実費という事業で、実際にかかる経費の割合は、キャンプ実施中の自然工作とスキー実施時のスキー指導に半分程度と計画どおり実施。 旅費・・・スキーの指導者は、スキー場現地の講師ではなく、地域の中で発掘した。これから事業を継続化する上で、地域の人材を活用することは不可欠と考えたので、移動距離に応じた旅費の割合が高かった。											

都道府県名		兵庫県		市区町村名		西宮市					
実行委員会名		兵庫実行委員会									
事業名		音読ワークショップ									
対象地域名		西宮市、宝塚市									
地域の特徴		古くからの高齢者と、震災後に建ったマンションの若い世代の住民の混在した地域。									
実施回数	20回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	480人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	30歳代～70歳代に主婦ボランティアの学生さん		内訳別参加者数	232人		講師指導者の内訳	朗読暦10年の大先輩の音楽教師		内訳別指導者人数	1人	
	文庫に通う子ども達			5人			プロの役者さん			1人	
				177人			プロの絵本パフォーマー			1人	
				人						人	
				人						人	
		合計		414人				合計		3人	
事業目的	地域の中で「音読ワークショップ」(朗読入門)をツールにして住民同士の交流をはかる。										
事業概要計画	10月～3月に毎月2回、音読ワークショップ(朗読入門)を行う。期間内に2回プロに学ぶ特別講座を開催する。最終の3月には文庫の子ども達にも参加してもらい、みんなで発表会を開催する。										
実際の活動	月2回のワークショップは誰も休まず熱心に参加している。「次回までの宿題」を出してもなかなかはかどらず、講師はやきもきしているが、受講生は楽しく参加している。発表会にむけての練習は、文庫の子ども達も参加したが、子ども達のほうが熱心に要領よくテキストをこなしてしまう。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	古い住宅地に長く住む子育ての終わった世代と震災後に移り住んできた若い世代が混ざって生活する地域だが、あまり接点がない。古くからの住民同士も深く付き合わない地域。					生活の中で声を出す機会が少なくなっている人たちにとっては、音読は新鮮。テキストの内容から話題も豊富になった。ひごろ接する事のない子ども達からパワーをもらっていた。					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	子どもと大人が集まる「地域文庫」が核となった事で、テキスト材料や子ども達の参加が得やすい。身近な講師に恵まれたこと。					このまま楽しく続けていきたい人よりスキルアップしたい人が出てきた。皆が満足するためには、2つに分けて講習するほうがいいのか検討中。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	1人		事業総経費		286,030円				
		ボランティアスタッフ	48人								
その他( )	人										
合計		49人									
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>①諸謝金…諸謝金への計上が少なかった。プロの講師2人への謝金(交通費込み)が充分に支払えなく、申し訳ないことをした。やはりプロに来てもらって学ぶ機会が必要であるし、得るものが多い。</p> <p>②旅費…ボランティアであっても大切な時間の割いてこの活動に関わってもらっているため旅費は必要。</p> <p>その他は経費も無駄なく使えたのでよかった。</p>											

都道府県名		大阪府		市区町村名		藤井寺					
実行委員会名		新教育者連盟 大阪支部									
事業名		新教育者連盟 大阪支部									
対象地域名		藤井寺									
地域の特徴		大阪のベッタタウン。									
実施回数	9 回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	385 人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	青少年		30 人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		歴史研究者		1 人	
	青年		20 人			教育指導者		1 人			
	成人		80 人			新教連講師		5 人			
	団塊世代		120 人					人			
	高齢者		135 人					人			
			合計			385 人		合計		7 人	
事業目的	「生命の教育」法により子供から高齢者まで自信と誇りをもって生きていく姿勢を学び、より多くの人に伝える。										
事業概要	公民館等に良き講師を招いて、よりわかりやすく講話をしてもらい、人生を前向きに明るく楽しく過ごせるように指導する。										
実際の活動	定期的に公の施設を借りて講師やスタッフと打ち合わせを密にして、内容を検討して、チラシ等をつくり、全員を通じて、出来るだけ多くの方にしらせる。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	こういう話を聞く機会がなかった。					日本の歴史の素晴らしさ、教育の大切さを感じることができた。生涯学習の必要性を理解することができた。					
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	公民館等を使ったこと。に良き講師を招いて、よりわかりやすく講話をしてもらえたこと。					インターネット等も使ってより多くの人に向かって発信していきたい。					
実施体制	活動実施の応援スタッフ	常にたずさわっている人	10 人		事業総経費		832,700 円				
	ボランティア	ボランティア	11 人								
新教連講師	新教連講師	5 人									
その他	その他	人									
		合計		26 人		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▣ 旅費</li> <li>▨ 消耗品費</li> <li>▧ 印刷製本費</li> <li>▩ 通信運搬費</li> <li>▦ 借料及び損料</li> <li>▤ 会議費</li> <li>▥ 賃金</li> <li>▧ 保険料</li> <li>▨ 雑役務費</li> </ul>					
右図の経費バランスから見える事業特徴											
諸謝金はこれぐらいはいると思う。消耗品が少ない、皆それぞれ持ち込みが多かったとおもう。通信運搬費もそれぞれに負担してもらっている。											

都道府県名		奈良県		市区町村名		奈良市					
実行委員会名		奈良東部子どもNPO実行委員会									
事業名		子ども・いきいき・サタデースクール									
対象地域名		奈良市富雄南・学園三碓地区									
地域の特徴		少子高齢化が徐々に進み、住民同士のつながりが希薄化に向かっている。									
実施回数	46回	各月の実施回数	7月 7	8月 8	9月 4	10月 4	11月 3	12月 7	1月 5	2月 4	3月 4
参加総数	1820人	各月の参加者数	7月 260	8月 610	9月 195	10月 90	11月 65	12月 215	1月 95	2月 125	3月 165
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の家族(父母・小学生・幼児)		1360人		講師指導者の内訳	退職教員		10人			
	高齢者施設利用のおじいちゃん・おばあちゃん		250人			民生児童委員		7人			
	中学生		50人			保護司		3人			
	子どもの森 森林ボランティア		100人			更生保護女性会		6人			
	和楽会(地域高齢者の会)おじいちゃん・おばあちゃん		40人			少年指導委員		7人			
	その他(警察署・消防署など)		20人			その他(PTA会長ほか)		4人			
		合計 1820人		合計 37人							
事業目的	① 子どもの安全で健やかな居場所の確保、勉強やスポーツ・体験活動、地域住民との交流活動等の取り組みを推進する。 ② 地域の絆を深め、安全で安心な地域づくりをする。										
事業概要	① こころを育む奉仕・体験活動 ② 絆を深める活動 ③ 日本の文化や芸術に触れる活動 ④ 地域の大人に学ぶ活動 ⑤ 地域の高齢者に学ぶ活動 ⑥ 安全・安心な町づくり ⑦ 地域の課題解決活動 ⑧ 趣味を増やす活動 ⑨ 自主学習の支援(学習クリニック、自分の興味を伸ばす学習)										
実況	①学童期の発達課題(情動体験、学び、遊びの不足)を体験を通して克服する活動をした。 ②子どもから高齢者まであらゆる世代の参画で価値の様々な課題解決中心のかつどうをした。 ③地域防災マップ……ひとり暮らしの高齢者を誘って避難「こころのマップ」を作成した。 (朝日新聞で大きく報道)また「災害時一人も見逃さない活動」として「全国民生委員連合会活動事例集」に掲載された。 ④子どものこころとからだを育むことを重視した。										
事業の成果	当地域は平成16年小1女児誘拐殺人事件があった地域に隣接し、しばらくの間は不安感がみなぎり、屋外で遊ぶ子どもの姿は見られなかった。					<b>事業によって変化したこと</b> ①「人を結んでまちを守る」という取り組みで「安全・安心の町」が復活した。 ②子どもたちのいきいきと活動する姿が大人の絆をいっそう強めた。 ③高齢者に学ぶ活動、地域の大人に学ぶ活動から地域の課題が見え取り組みへと発展して行った。					
	<b>成果につながった事業運営上のポイント</b> ①退職教員の力の大きさ。事業の目標が共有でき、現職時代に蓄積された経験が思う存分に発揮され、地域に還元することができた。②地域の人材を発掘し、ネットワークに組むことができた。③奈良県知事表彰、奈良県警本部長表彰等の受賞は子どもに誉れをもたらした向上心につながった。④新聞報道53回、テレビでの特集報道、ラジオ等への度々の出演は活動に自信と弾みをもたらした。					<b>次年度にむけた諸課題</b> 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業を効果的に推進するための調査研究及び多様な活動プログラムの実践開発。					
実施体制	年間を通じた事務担当		2人		事業総経費		483,100円				
	運営委員等組織運営関係者		23人		借料及び損料		14%				
地域内の協力団体関係者		50人		賃金		4%					
その他( )		人		諸謝金		48%					
		合計 75人		通信運搬費		2%					
				印刷製本費		6%					
				消耗品費		9%					
				旅費		17%					
<b>右図の経費バランスから見える事業特徴</b>											
①諸謝金…地域の人材に気軽に協力要請できるようになった。 ②借料…使途に制約があり創意を生かした活動に活かせない。 ③その他…団体の活動内容に即した予算使途配分を希望する。											

都道府県名		奈良県		市区町村名		生駒市						
実行委員会名		奈良西部子どもNPO実行委員会										
事業名		生駒市地区あそびの城										
対象地域名		生駒市小明町										
地域の特徴		子どもたちが安心して集まれる場所として自治会館がいい場所にあるが、子ども向けの活動が少なく、遊びの提供者も少ない。										
実施回数	10回	各月の実施回数	7月 0	8月 2	9月 1	10月 1	11月 1	12月 1	1月 1	2月 2	3月 1	
参加総数	237人	各月の参加者数	7月 0	8月 38	9月 17	10月 21	11月 14	12月 35	1月 23	2月 58	3月 31	親子でかさ袋ロケットを作って競争です。誰のが一番良く飛ばかな...
年間参加者内訳と延べ数	小学生		112人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		市レクリエーション協会スタッフ		11人		
	幼児		57人			県レクリエーション協会スタッフ		3人				
	保護者		50人			ボランティア参加		3人				
	青年		8人					人				
	高齢者		10人					人				
			合計		237人				合計		17人	
事業目的	子どもから大人まで異世代の住人が遊びやゲーム、自然体験などを通じて気軽に楽しみながら交流できるような集いの場を定期的に開催していきたい。子どもとともに大人も成長していける環境を作りつつ、地域で子育てを日常的に考えていける雰囲気を広げていきたい。											
事業概要計画	月1～2回(土曜日の午後)に地域の世代を超えた住民が気軽に集える会を開催。内容はニュースポーツに挑戦するなど思い切り体を動かしたり、手作りのおもちゃや絵本などを作ったり、高齢者が昔の遊びを子どもたちに教えたりできる交流の場を作っていく。また、親子の活動も取り入れ、子どもたちの活動の見守りに、親も参加してもらうようにする。											
実際の活動	月1～2回(土曜日の午後)に地域の世代を超えた住民が気軽に集える会を開催した。内容はニュースポーツに挑戦するなど体を動かしたり、手作りおもちゃや手作り絵本などを作ったり、昔の遊びを体験できるコーナーを設けたりした。親子の活動や共同作業を入れることで、子どもたちの活動の見守りに、親も参加してもらうようにした。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	子どもたちが集まって活動する機会が少ないように感じる。交流することが苦手な子も多い。地域として子どもたちのための行事が少ない。そこで、子どもたち中心に参加募集をし、活動内容によって、大人の参加を呼びかけることにした。					保護者の方から、子どもたちが楽しく参加する場が提供されたことを喜んでいられる声を聞くことができた。クラフトなど作業を多く取り入れ、参加者同士の会話がはずむような内容を多く取り入れることで、子どもたちの関係が広がっていった。						
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
	毎回できるだけ内容を変え、新鮮さを感じてもらうようにした。協力してやる内容を多くすることで、友達といっしょにやったり、親が関わってくれたりした。					体を思いきり動かすことが少ないので、時にはしっかりと動かせるような内容を考えていきたい。内容によっては、地域の方やサークルなどに声をかけて、スタッフを確保していきたい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		年間を通じた事務局担当者		1人		事業総経費		270,329円			
			生駒市レクリエーション協会会員		10人							
		奈良県レクリエーション協会の協力		3人								
		一般募集ボランティア		3人								
		その他( )		人								
		合計		17人								
右図の経費バランスから見える事業特徴												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸謝金...謝金をきちんと出すことで、人任せにするのではなく、自分の担当に責任を持ってもらった。</li> <li>・印刷製本費...地域で活動していることを知ってもらうために、広く広報するようにしたので、公民館などにもチラシを置くようにした。また、学校を通じて各家庭にチラシを配った。</li> <li>・通信運搬費...スタッフにチラシを配布し、広報場所を考えてもらったりした。ある程度定着してくると、もう少し経費削減できる内容である。</li> <li>・消耗品費...活動を豊かにするための準備や教材費としてももう少し必要な項目である。</li> </ul>												

都道府県名		奈良県		市区町村名	大和郡山市						
実行委員会名		奈良南部子どもNPO実行委員会									
事業名											
対象地域名		大和郡山市小泉地区									
地域の特徴		古い新興住宅地と新しい新興住宅地が隣り合い、老人社会と若い世代社会が隣り合っている街。									
実施回数	36回	各月の実施回数	7月 2	8月 5	9月 4	10月 4	11月 5	12月 5	1月 5	2月 4	3月 2
参加総数	432人	各月の参加者数	7月 28	8月 68	9月 42	10月 37	11月 35	12月 77	1月 67	2月 42	3月 36
年間参加者内訳と延べ数	未就学児(幼稚園児)		64人		講師指導者の内訳	ボランティア指導者		2人			
	小学生(1~3年生)		295人			植木屋さん		1人			
	保護者		73人			紙芝居の名人		1人			
			人			郷土の歴史に強いおじさん		1人			
			人					人			
		合計		432人				合計		5人	
事業目的	奈良県大和郡山市小泉地区は、新興住宅地が多く、古い地域の住宅地では、年配者が多くなり子供たちがあまり見られず、新しい地域に子供たちが見られる。この古い地域の年配者の資源を引き出し新しい地域の子供たちに、いろいろな遊びを通して提供する。子供たちが競い合い・ルールを学び・楽しいこと辛いことを味わい耐えることを学び・他者を知る場を設け、成長させる場を提供する。身近なところに緑を増やすことの重要性から、自然に親しむ項目も折り込み、現在の最大課題地球温暖化の防止にも考慮したい。										
事業概要	原則として月4回集まりをつくり、年配者が持つ資源、古い遊び・盆栽の名手・郷土史・囲碁や将棋などの遊びを子供たちの遊びの中に取り込み、清掃活動への参加、また、川の観察などを仕組み川の流れ・水鳥・植物などの観察会や遺跡などを訪ねて、故郷づくり・地域の理解を高める。										
実際の活動	地域の小学生を巻き込むので、小学校と連絡を取り実施する。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	新しい新興住宅地では、若いお母さんの家庭が多く、子供たちは、昔遊びを知らなかった。遊び道具などは身近なものでつくれることを知らなかった。					低学年生が集まってきたので昔遊びを採り入れたところ、家に帰っても、お母さんやおばーちゃんなどから、例えば綾取りなど教えてもらうようになった。					
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
	1) 小学校の校長先生にお願いし、子供教室のチラシを小学校の生徒さん全員に渡してもらった。2) 身近なものを使って遊び道具をつくる企画を入れたこと。自分たちでつくった道具で遊ぶ。3) 遊びを通して、忍耐力を養えること。4) 清掃活動に参加して、街の中のごみの現状を知る。5) 紙芝居により環境教育や道徳教育が出来る。					学習塾との関係で、小学校低学年しか集まってこない。しかし、小学1年生などは遊びの中でうるものは非常に大きい。来年度も1年生が参加するであろうから、子供たちに遊びの中で生きる強い意志を教えて行きたい。					
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど		ボランティア指導者		1人		事業総経費		56,500円		
			保護者の応援者		4人						
				ボランティア活動者		5人					
		その他( )		人		合計					
右図の経費バランスから見える事業特徴											
1) 地域の技術の持ち主にボランティアとしてお願いしたため、諸謝金や賃金を低く抑えることが出来た。そのため他の比率が高く見える。2) デジカメ・パソコン・プリンターの特長を生かして、毎月子供教室での様子を写真にまとめ簡単な文章を付け連絡に使った。3) 遊ぶ道具づくりは身近なものを使って行った。											



都道府県名		和歌山県		市区町村名		和歌山市					
実行委員会名		和歌山県実行委員会									
事業名											
対象地域名		和歌山市 河西地域 (45,000人)									
地域の特徴		和歌山市のドーナツ化現象で人口が急激に増えた地域。かつての里山が荒廃したまま放置されている。また宅地造成が目覚しく進んで、若い世代の親子が多い。									
実施回数	6回	各月の実施回数	7月 1	8月	9月	10月 2	11月 1	12月 1	1月 1	2月	3月
参加総数	262人	各月の参加者数	7月 41	8月	9月	10月 86	11月 48	12月 41	1月 46	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	幼児		80人		講師指導者の内訳	竹細工を教えてくださいのおじさん		2人			
	小中学生		25人			ネイチャーゲームリーダー		2人			
	青年		6人			和歌山大学 教授		1人			
	大人		151人			あそびの指導者(プレーリーダー)		20人			
			人					人			
		人				人					
		合計		262人				合計		25人	
事業目的	この地域にはかつて生活と密接なつながりがあった里山が存在するが、今は人も入らず荒廃した山が多い。現在はあそび場(プレーパーク)として利用されている里山をボランティアを募って整備し、自然体験活動を行うことで、地域住民の環境保全への意識を高め、また地域住民の大人が主体となって子どものあそび場を含めた地域づくりを行うよう推進する。										
事業概要計画	和歌山市の北西部梅原にある里山を、地域の子も達と大人のあそび場兼自然体験活動の場として活用できるように、地域の大人たちが整備する。地域住民や団塊世代に呼びかけ、「里山の利用と環境保全・子どものあそび場」等の学習会を開催する。また、実際に里山整備のボランティアを募り整備を行うとともに、里山を利用しての自然体験活動(ネイチャーゲームや竹細工作り)を大人が中心になり子ども達とともに行う。										
実際の活動	<p>①里山であそぶ楽しさを地域の若い世代の親子に知ってもらうため、「自然観察をしながらヤマモモの実を食べる」・「落ち葉プールであそぶ」等の活動を行った。</p> <p>②講師を招いて「ネイチャーゲームで秋を感じよう」「竹細工を作ってみよう」の活動に取り組んだ。ゲームを通して自然の不思議さ・面白さを発見できた。また、竹細工では子どもでも簡単に作れる竹とんぼや竹鉄砲などを制作し大人も子どもといっしょに遊んで楽しんだ。</p>										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	和歌山市の周辺地域にあたるこの地域は、かつては北側に里山が広がり、農家がほとんどでした。ここ20年で住宅地として広がり、人口は増加し子どもの数も増えました。しかし、自然がたくさん残っているにも関わらず子ども達がのびのびあそべる遊び場が確保されていません。商業地域も広がり、田んぼの真ん中に大型ショッピングセンターが建設され、山を削って宅地造成が進められています。地元自治会など高齢者による環境問題への取り組みが進んでいますが、若い世代の参加が見られませんでした。					里山で遊んだ経験のない若い親世代が子どもといっしょに里山を利用して遊んだり、自然素材を使っておもちゃを作るなど自然体験することで、里山の利用価値を認識することができました。また、学校とプレーパークの会それぞれが里山をフィールドとして使っていましたが、今回の取り組みでいっしょに課題や問題点などを話し合うことができ、会の活動を支援してもらえるようになりました。					
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
今回の事業を取り組むにあたっては、地域(自治会)や学校の理解を得ることが大切でした。学校へはなんどか足を運ぶことで、いっしょに課題を考えることができました。また、講師を招くにあたり、他団体で活動されている方や地域で民生・児童委員をされている方など今までにないつながりを積極的にあたることで新たなネットワークができました。					新たに広がったネットワークや参加者の中から、実行委員のメンバーとして積極的に活動づくりに参加してくれる方をつくっていくことが課題です。また、学校とは定期的に懇談会を持つなど、子どもや遊び場についての課題を共有していくことがとめられます。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	1人		事業総経費		370,300円				
		運営関係者	8人								
ボランティア	17人		印刷製本費			52%					
その他( )	人		諸謝金			27%					
		合計		26人		借料・損料 通信運搬費		13%			
右図の経費バランスから見える事業特徴											
<p>①印刷製本費が52%とほぼ経費の半分をしめています。地域の小学校2校と自治会などで広報チラシを配布していただくことができました。今まで広報のいきわたっていなかった家庭にも届けることができ、参加者を増やすことができました。</p> <p>②諸謝金が27%と経費の4分の1にあたります。専門的な指導に当たる講師の謝金とは別に、毎回プレーリーダーとして参加する青年・大人スタッフに謝金を出しました。子ども達の遊びをコーディネートしたり、危険な場所・行動を注意して見守ったり、プレーパークにはなくてはならない存在であることを意識しました。</p>											

都道府県名		鳥取県		市区町村名		倉吉市						
実行委員会名		地域学びあい・支えあい鳥取実行委員会										
事業名		遊びにおいて一緒にあそぼ										
対象地域名		鳥取県内										
地域の特徴		今回組んだ実行委員会のネットワークをつかい県内各地で、その地域の方が講師で事業を展開。										
実施回数	5回	各月の実施回数	7月 1	8月 0	9月 1	10月 1	11月 0	12月 0	1月 0	2月 2	3月 0	遊びにおいて一緒にあそぼの2月倉吉での様子です。ボードゲーム、吹き矢、スポーツちゃんばら等
参加総数	349人	各月の参加者数	7月 60	8月 0	9月 13	10月 12	11月 0	12月 0	1月 0	2月 264	3月 0	
年間参加者内訳と延べ数	家族連れ(父母小学生までの子どもたち)		224人		内訳別参加者数	講師指導者の内訳		わらべ歌		3人		
	子育て中の母親		25人			テーブルゲーム		2人				
	小学生以下の子どもだけの参加		100人			スポーツちゃんばら		2人				
			人			工作講師		1人				
			人			お話し会講師		1人				
			人					人				
		合計 349人				合計 9人						
事業目的	・大人も子どもと一緒に遊びこと、そして大人が少し努力して、ちょっと勉強しよう。											
事業概要計画	① 地域の達人を講師に子どもたちとのふれあいを学ぶ。 ② 活動は、鳥取県の倉吉市を中心にと・鳥取市・境港でも行う。											
実際の活動	① 地域の達人にお願いすることができた。 ② 講座によっては人数のバラツキがありますが、おおむね参加者に好評でした。 ③ 2月に倉吉はスポーツちゃんばら・昔遊び・ボードゲーム・ニューゲームなど一緒に行いとでもにぎやかになった。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと						
	地域のなかで、行政以外が行う遊びの事業は少ない状況である。					新しい遊びの提案や、昔からある遊びなどを子育て世代の親に楽しんでいただと思う。						
事業の成果	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題						
	親世代に子どもと係わることを学んでもらうきっかけになった。テレビゲーム・携帯ゲームでない遊びを楽しくやっている、子どもたちを見てもらえた。					次年度はもう少し、回数を減らして、親子がたくさん参加のできる土日、祝祭日の開催を検討したい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者		2人		事業総経費		538,490円				
		役員等組織運営関係者		11人								
一般募集ボランティア		15人										
地域内の協力団体関係者		10人										
その他( )		人										
		合計		38人		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 諸謝金</li> <li>▨ 旅費</li> <li>▩ 消耗品費</li> <li>▧ 印刷製本費</li> <li>▦ 通信運搬費</li> <li>▥ 借料及び損料</li> <li>▤ 会議費</li> <li>▣ 賃金</li> <li>▢ 保険料</li> <li>□ 雑役務費</li> </ul>						
右図の経費バランスから見える事業特徴												

都道府県名	岡山県	市区町村名	岡山市									
実行委員会名	「学びあい、支えあい」岡山実行委員会											
事業名	地域、再発見ツアー											
対象地域名	旧赤磐郡（赤磐市・岡山市瀬戸町）60,000											
地域の特徴	5町で形成していた郡が、合併で赤磐市と岡山市に分かれてしまった。生活圏が同じで地域のつながりもあったが、行政が分断され地域に違和感が残った。											
実施回数	8回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
参加総数	308人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の家族(父親・母親・子ども・祖父母)	内訳別参加者数	228人	講師指導者の内訳	歴史を語り継いでいるおじさん	内訳別指導者人数	4人					
	旧赤磐郡内子ども劇場の方々		40人		伝統料理を指導できるおばさん		5人					
	石上布都魂神社の氏子の皆さん(赤磐市石上)		15人		学芸員さん		3人					
	西光寺 檀家の皆さん(赤磐市多賀)		15人		地図の仕上げ担当のイラストレーター		1人					
	その他(行政関係・)		10人		地域在住の歴史に詳しい大学教授		1人					
		合計	308人			合計	14人					
事業目的	①子育て中の家族が、地域の方々と触れ合いながら地域文化『歴史・史跡・食』について学びあう。 ②地域の良さを再確認するとともに、家族を含めた地域のコミュニティーの再構築に勤める。 ③子どもたちが直接得た情報を基に活動のまとめとしてのマップを作成する。											
事業計画	①旧赤磐郡内に語り継がれている秘話や史跡、名所などを探検する。 ②地域の人々に直接お話を伺ったり伝統料理など頂きながら交流を図る。 ③子どもたちが、見たり聞いたりした事を基に、子どもが見て楽しいマップを作る。											
実際の活動状況	①地域探検を実施するにも、車で乗り付けるのではなく、少し離れた場所から歩きメインの場所の周辺から探検して行きました。②身近に有る歴史的な事物を直接見たり、地域の方から聴いたりして知らないことに気付くとともに、改めて素晴らしい文化が地域に残されていることに子どもも大人も感動しました。③自然が豊かな文化的な場所で、おいしい郷土料理をいただきました。④地域の方々が地域の文化を大切にしている気持ちが、地域の方との交流を通してよく伝わりました。⑤参加者で探検して得た情報を基に、マップを作成します。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況			事業によって変化したこと								
	①新興住宅地と旧来の農村地域とが混在する町で、地域の一体感にかけている。②特に移住者が多い新興住宅地の世帯は、自分たちが生活している地域の事や、住んでいる人の事を知らないまま生活していた。③地域の人のつながりが薄く、其の必要性も感じていない人が多かった。④文化財等を大切に保存する思いに欠けていた。			①参加者の多くが、身近に有る歴史的な事物を知らないことに気付くとともに、改めて素晴らしい文化が地域に残されていることを知った。②地域の方々が地域の文化を大切にしている気持ちが交流を通してよく伝わった。③人と関わることの楽しさや、知らないことを知る事の喜びを、参加者や事業に関った地域の方も知った。④地域の子どもの地域で育てるメッセージを伝えられた。								
	成果につながった事業運営上のポイント			次年度にむけた諸課題								
	①事業計画を早くにたて、参加者に案内できた。 ②地域の各種団体や行政と連携して実施できた。 ③文部科学省の補助事業であったことで、告知しやすかった。			①参加者の移動がスムーズでなかった。貸切バスが望ましかった。 ②障害の有る子どもへの配慮が欠けていた。 ③地域に多数有る史跡の一部への探検のみとなった。 ④当日の、参加者のグループ分けなどの検討が欠けていた。								
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	2人	事業総経費		562,055円						
		理事・役員・会員等の組織運営関係者	30人									
一般募集のボランティア		9人										
地域の協力団体関係者		22人										
その他( )		人										
		合計	63人									
右図の経費バランスから見える事業特徴												
①今後の関係づくりに生かすために、多くの地域に根ざした方々を講師にお願いした。 ②印刷製本費……今回の事業を地域の多くの人々に知っていただくためのチラシと、地域の人たちにも地域を再発見してもらいたいという思いもあり、成果をまとめた地域マップを作成したため、印刷経費が多くなった。 ③その他の経費……消耗品費、会議費、賃金等の管理費が少なくて済んだのは、コンパクトな地域特性と、地元NPO法人が協力してくれたこと、活動を長年継続してきたNPOの人脈を充分に活用できたことによる。												

都道府県名	山口県		市区町村名	下関市													
実行委員会名	中四国子どもNPO実行委員会																
事業名	地域子どもサポーター研修講座																
対象地域名	川中校区、山のだ校区中心																
地域の特徴	地域子ども教室開設2校区																
実施回数	10回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
参加総数	422人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
年間参加者内訳と延べ数	子育て中の母		子育て中の父		子育て支援グループ		シニア男性		市議会議員		市教育委員会		講師指導者の内訳	大学教授		内訳別指導者人数	1人
														社会システム研究者	1人		
														演劇演出家	1人		
														チャイルドライン関係者	2人		
														地域団体代表者	2人		
														絵本講師	1人		
														合計	8人		
事業目的	情報が氾濫する中、子どもに関わる問題は都市部も田舎も関係なく年々深刻さを増している。今あらためて、親だけでなく地域社会全体として子どもに向き合い、その心を受け止める大人の存在が重要になっている。この事業では、地域の中でリーダーとして子ども支援活動に取り組める人材の発掘と育成を目的に、さらに参加者同士の意識の共有と交流が地域社会全体に広がっていくきっかけづくりを目的とする。																
事業概要	下関市における子どもの現状、子どもたちの性の問題、子どもの心に寄り添うことなどをテーマに、「地域子どもサポーター研修講座」を年10回開催する。既にある活動団体(子どもの居場所、育児サークルなど)とも連携し、それらの地域活動の実際を学びつつ、ボランティア参加の意識を高め、同時に参加者である大人同士のコミュニケーションの促進のきっかけとする。地域のこれまでの子育て支援の活動を検証しあいながら、この事業を通して地域の大人の連帯を高め、子育て支援団体のネットワークをつくりたい。																
実際の活動	各回、テーマにふさわしい講師陣、また、交通の面、環境の考慮もよかった。テーマを選択しての参加状況から、関心、注目の高さを感じた。託児の配慮は喜ばれた。																
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと											
	少子化や個人主義の中で、核家族化が進み娯楽をてっとりばやい買い物や外食、遊園地といったお金で買う楽しみに流れる傾向がある。					核家族で行っても楽しくない自然体験を、多くの人たちと体験することでお金では買えない満足感・人間本来が持つ自然との対話などを提供できた。											
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題											
	最初は知らない人たちであり、普段から核家族で行動しているのであれば、大人の交流力もないかもしれないということで、いかにしてみんなが交流できるかという点を工夫して計画化したところ。					比較的伝えやすいキャンプやスキーといった内容なので、広報的には苦労はなかったが、参加者負担となる実費(宿泊費やスキーの備品・リフト代)などの参加費を、参加しやすい価格に設定するため、行き先の吟味などが課題である。											
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	下関家庭教育研究会ハーモニー		15人		事業総経費					494,959円						
		生野あそぼう会		10人													
山の田放課後クラブ		5人															
サロいちごみるく		1人															
その他( )		3人															
		合計		34人													
右図の経費バランスから見える事業特徴																	
<p>諸謝金・・・キャンプ実施に伴う宿泊・食事などは、参加者の実費という事業で、実際にかかる経費の割合は、キャンプ実施中の自然工作とスキー実施時のスキー指導に半分程度と計画どおり実施。</p> <p>旅費・・・スキーの指導者は、スキー場現地の講師ではなく、地域の中で発掘した。これから事業を継続化する上で、地域の人材を活用することは不可欠と考えたので、移動距離に応じた旅費の割合が高かった。</p>																	

都道府県名		山口		市区町村名		山口					
実行委員会名		あっちこっちdeアート実行委員会									
事業名		あっちこっちdeアート事業									
対象地域名		山口市									
地域の特徴		県東部に属し、核となる産業は際立ったものはない。気候・風土・人間性ともに穏やか									
実施回数	17回	各月の実施回数	7月 17	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	1519人	各月の参加者数	7月 1519	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内訳と延べ数	未就学児		82人		講師指導者の内訳	ワークショップ講師		1人			
	青少年(小学生～18才)		795人			事前学習会講師		1人			
	青年(18才以上)		56人			公演出演者		1人			
	一般成人		450人					人			
	団塊(50代後半～60代前半)		78人					人			
	高齢者		58人					人			
		合計		1519人		合計		3人			
事業目的	近年子どもをとりまく事件・事故が多発し、地域で子どもを見守る体制がのぞまれているが、より重要かつ有効となるのは、地域に「子どもを見守るおとなたちの絆」を作り、育てることではないかと考える。そこで「子どもを見守る」をテーマとした地域のおとなたちによる事業にとりくむ中で、おとなも子どもといっしょに異年齢の仲間づくりをすすめ、地域のコミュニケーションをゆたかにし、信頼を深められる地域コミュニティを育てることを目的とする。										
事業計画	① 市内3会場においてマジックのワークショップを行う。(おとな・子ども対象 対象人数35人×3会場) ② 市内5会場において事前学習会(一般おとな対象 20人×5会場) ③ 市内9会場において、マジックショー公演を行う(幼児から高齢者まで、世代を超えて対象とする。160人×9会場)										
実際の活動	① 市内3会場においてマジックのワークショップを行った。(おとな・子ども対象 対象人数35人×3会場) ② 市内5会場において事前学習会(一般おとな対象 合計104人) ③ 市内9会場において、マジックショー公演を行う(幼児から高齢者まで、世代を超えて対象とする。合計1310人)										
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと					
	子どもをとりまく環境として、子ども見守り隊や緊急時の携帯電話へのいっせいメール配信などが行われている。また地域それぞれのなかでおとなが企画・準備しての子どもの活動はあるものの、おとなと子どもが集い、語り合い信頼しあえる仲間としてともに活動するという機会はなかった。					生活の中で声を出す機会が少なくなっている人たちにとっては、音読は新鮮。テキストの内容から話題も豊富になった。ひごろ接する事のない子ども達からパワーをもらっていた。					
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題					
実行委員のメンバーをさまざまな分野・年齢層から選んだこと。ボランティアスタッフの協力が非常に良かったこと。講師が適切であったこと。アルバイトスタッフが実務経験者で、非常に力を発揮してくれたこと。などが成果につながったと考える。					子どももおとなも年々忙しくなる中で、こうした活動を継続していくことは難しくなっている。今回の活動で生まれた交流を大切に、日常的な小さなついでを行い次年度もまたこの事業の成功させたい。						
実施体制	活動実施の応援スタッフ		有給スタッフ		1人		事業総経費		614,500円		
	ボランティアなど		事務局担当スタッフ		2人				①諸謝金・・・諸謝金への計上が少なかつた。プロの講師2人への謝金(交通費込み)が十分に支払えなく、申し訳ないことをした。やはりプロに来てもらって学ぶ機会が必要であるし、得るものが多い。 ②旅費・・・ボランティアであっても大切な時間の割いてこの活動に関わってもらっているため旅費は必要。 その他は経費も無駄なく使えたのでよかった。		
		理事・実行委員等		16人							
		ボランティアスタッフ		25人							
		その他( )		人							
		合計		44人							

都道府県名	福岡県		市区町村名	福岡市																	
実行委員会名	北部九州ブロック実行委員会																				
事業名	北部九州「学びあい支えあい」地域活性化推進事業																				
対象地域名	福岡市東区東箱崎小学校区																				
地域の特徴	高層マンション群の住宅地																				
実施回数	17回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月										
			2	1	1	3	2	2	2	2	2										
参加総数	732人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月										
			112	11	83	93	63	97	73	100	100										
参加者内訳と年数	未就学児		47人		講師指導	到津の森公園事業係長		1人													
	小学生		299人			建築家		1人													
	中・高生		27人			福岡プレーパークの会代表他		4人													
	青年		26人			地域の高齢者		4人													
	成人		309人			九州大学教授		2人													
	高齢者		24人			フィールドワーク指導者 他		6人													
	合計		732人			合計		18人													
事業目的	東箱崎校区は高層マンション群で構成され、それぞれの住宅群毎の広場や空き地はあるものの国道などにより校区が分断されて、校区としてのコミュニティが十分に機能していない。この事業では、この地域の大人自身が、地域環境に関する様々な学習や活動体験を通じて、地域環境のメリットデメリットに気づき、それを有機的にネットワークしコミュニティづくりに活かすことを目指したい。																				
事業概要計画	講演会5回 フィールドワーク9回 地域の多世代の大人を対象に、自然環境、生活環境について年5回程度、講師を招いての学習会を開催する。また、年9回、環境や伝承遊びなどのワークショップ、フィールドワークを行う。その結果は、校区の子ども会育成連合会、青少年健全育成連合会、社会福祉協議会、育み支援連絡会、自治会連合会などの地域大人集団のネットワークの場などに反映させ、住民が交流しやすいコミュニティづくりを考えるきっかけとする。																				
実際の活動	スタートが遅くなったこともあり、夜の講座設定となつて、PTA他の主婦層の出席が難しかった。特に乳幼児を抱えた層の出席については次年度の課題となっている。小学校はPTAを中心に校長・教頭の参加もあり、交流の中から大人同士の子どもに関する交流が広がった。次年度の講師予定者の募集の見直しも立ち、活動の取り組みの新たな形も見えてきた。又、校区内の子どもたちの状況についても様々な場面で交流が出来るようになり、次年度は多くの場で子どもと大人の出会いを実現していく見通しが立った。講演会6回、フィールドワーク11回を実施した。																				
事業の成果	事業開始前の地域の状況					事業によって変化したこと															
	子どもを真ん中の校区づくりを目指して進んできたが、各団体の独自の活動が広がる中で、それぞれの活動のネットワークの次を支える人材を育てていくことが課題になってきていた。九大を校区内に抱えていることもあり、九大との提携、学生との交流も考えられていた。					講演会とセットされたグループ会議でお互いの状況を交流し、また講師の問題提起を受けての話し合いも大学生の参加もあって幅も広がった。身近な地域の講師の登場と第3回講演をきっかけとして始まった「遊び場の記憶」の取り組みによって参加者・関係者の幅が増し、地域での協力、共同の幅が広がった。															
	成果につながった事業運営上のポイント					次年度にむけた諸課題															
各種団体の話し合いからスタートしたこと、講師の問題提起を受けてのグループ討議で話しあうことにより、学生から高齢者までのグループ編成が生きてきた。「遊び場の記憶」のまとめを通して各自、又各世代の持つ遊びや生活の違いが理解でき、話がはずんだ。					多くの地域の大人を講師や指導者として活用するために早期に地域講師募集に着手しているが、来年度のスタートがいつになるのかにより講師のスケジュールの調整などがどうなるかが不安。また記録を残すための調査費用等の予算化が求められる。																
実施体制	事務局担当者	3人			事業総経費		424,000円														
	活動実施の応援スタッフボランティアなど	運営担当者	6人			<table border="1"> <caption>事業総経費の内訳</caption> <tr><th>項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>諸謝金</td><td>31%</td></tr> <tr><td>印刷製本費</td><td>22%</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td>11%</td></tr> <tr><td>賃金</td><td>6%</td></tr> <tr><td>旅費</td><td>5%</td></tr> <tr><td>通信運搬費</td><td>3%</td></tr> <tr><td>雑役務費</td><td>2%</td></tr> </table>	項目	割合	諸謝金	31%	印刷製本費	22%	消耗品費	11%	賃金	6%	旅費	5%	通信運搬費	3%	雑役務費
項目	割合																				
諸謝金	31%																				
印刷製本費	22%																				
消耗品費	11%																				
賃金	6%																				
旅費	5%																				
通信運搬費	3%																				
雑役務費	2%																				
その他( )		5人																			
		合計 14人																			
右図の経費バランスから見える事業特徴																					
諸謝金、地域講師の登場とフィールドワークへの指導者(大人)の参加の増加により、地域での「入口大学」講師の導入への道筋が見えてきた。 賃金 各種団体の協力により「遊び場の記憶」をまとめるなど、新たな事務局ボランティアの人材が確保された。																					



都道府県名	宮崎県		市区町村名	都城市								
実行委員会名	南部九州実行委員会											
事業名	郷土知りつくし隊											
対象地域名	宮崎県都城市											
地域の特徴												
実施回数	7回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
参加総数	372人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	郷土料理 がね作り <たくさんの芋を細長く切るのがとても難しかったです。でも、みんなで作ったので、とても美味しかったあ。>
年間参加者内延べ数	地区内の未就学児童						1人	講師指導者の内訳	郷土料理を作る地域のおばあちゃん			3人
	地区内の小学生・中学生						280人		指導員			2人
	地区内の高校生						8人		神社総代			1人
	地区内の成人・一般						57人		郷土料理を作る地域のおじさん			1人
	高齢者						26人					人
	合計						372人		合計			7人
事業目的	自分たちの町の歴史を勉強し、社会的資源を活用して、伝統ある様々なものを子どもたちと一緒に体験することで、子どもたちの郷土を愛する心を育む。											
事業概要計画	①歴史を知るということで、歴史資料館や神社等の施設を見学し、自分たちの町の時代的背景や未来のことを考える機会を作る。 ②古くから伝わる郷土料理、また季節又は伝統の行事(十五夜やもちつき)など、地域の方に講師になっていただき、体験をする。											
実際の活動	①歴史資料館、人形浄瑠璃資料館、未来の科学技術館等を視察・見学した。歴史的背景や人類の歴史などを学ぶことができた。科学技術館では、過去から未来へと創造する人間の英知の素晴らしさと可能性を知ることができ、これから自分たちがどのように歴史を作っていくのか考えさせられた。 ②季節・伝統の行事の意味を勉強しながら、なぜこのことを行なうのか、必要なのかということを知った上で、実際に作るという体験を行い、後世につなげていく。											
事業の成果	事業開始前の地域の状況						事業によって変化したこと					
	地域の歴史を地域に居ながら知らないことが多く、また社会的資源の存在もあまり知らない。事業内容の趣旨を理解して頂き、講師としてふさわしい方を探すために、地区公民館や市役所を訪ね、一人一人に説明して、参加を呼びかけ、ネットワークを作っていくことから始めた。						結構、近い位置にも史跡があり、またその一つ一つに、由来があることを知り、自分たちの町を大切にしようという気持ちが芽生えた。"百聞は一見に如かず"で実習や体験をとりいれたことは、参加者自身が、喜んでいきいきと活動に参加していたことは素晴らしいと感じた。この事業で、"歴史"というキーワードでいろいろなことを学び、郷土愛を育むことの成果は達成したが、この事業を通して、活動の回数を重ねることで、地域のひととの交流が、密着していき、参加者が満足して、楽しんでくれたことは何よりの成果である。					
	成果につながった事業運営上のポイント						次年度にむけた諸課題					
事業開始までの準備が、手探りでなかなか苦労もあった、また、ぶっつけ本番的などところも多く、悩みでもあった。この事業が成功したのは、一重に、地域の方の温かい協力があったこそと痛感している。						今回参加して頂いた方が、喜んで楽しんで満足して頂いたと感じている。地域のきずなが深まったと感じている。素晴らしい事業なので、ぜひ、一人でも多くの人に参加して頂けたらと願う。広報に力をいれる必要がある。また、活動には、事前準備や当日の安全管理等のスタッフが必要である。						
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど						事業総経費			399,100円		
	その他( )											
右図の経費バランスから見える事業特徴												
①消耗品費・・・伝統体験の材料の予算を計上していたが、地域の方の協力により多少おさえることができたので、今後もっと地域の産物を利用してきたい。 ②借料及び損料・・・今回は、施設の見学を計画したのでバスのレンタル代で費用がかさんだ。しかし、大勢の人数で参加するには、必要なことであるので、今後もこのような費用が必要と思われる。												



都道府県名	沖縄県	市区町村名	北中城村								
実行委員会名	沖縄県実行委員会										
事業名	ものづくりまちづくりワークショップ										
対象地域名	北中城全域										
地域の特徴	沖縄本島の中部地区に位置し、那覇から北東へ16km離れたこの地域は、二市二町村に隣り合っており、中城城に代表されるように豊富な史跡文化財に囲まれている一方で米軍基地も隣接しており、多様な文化が交錯している地域です。										
実施回数	14回	各月の実施回数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加総数	307人	各月の参加者数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間参加者内延べ数	荻堂区域、大城区域の区民		280人		講師指導者の内訳	花咲爺会		5人			
	その他(隣町住人など)		27人			荻堂子ども育成会		4人			
			人			その他(中村家)		2人			
			人					人			
			人					人			
			人					人			
		合計		307人		合計		11人			
事業目的	①この事業を通して住民の触れ合う機会を増やし、互いのコミュニケーション力を高め地域住民同士の絆を形成したい。 ②住民が中心となる地域づくりの環境整備を行う。										
事業概要計画	①地域の全ての人々を参加対象に、「ものづくり、まちづくりワークショップ」を開催。 ②参加する住民が沖縄の伝統文化を見つめなおし、歴史と文化あふれるまちづくりのきっかけとすべく、漆喰(しっくい)シーサーづくりや荻堂式土器作りその他の体験を通じて、参加者が一緒にこれからのまちづくりを考えるための意識共有と意見交換の機会にする。										
実際の活動	①子どもから高齢者までが一緒に参加できる内容。 ②シーサーづくり、土器作り、絵画など自ら作成する喜びを実感し、自治会の展示会などに出席。 ③農業学習は、じゃがいも植えや黒糖づくりに挑戦。じゃがいもの収穫後地域の事業に活用予定。又、黒糖作り指導者となれる人材の確保ができた。 ④荻堂貝塚のフィールドワーク、荻堂式土器の作成で貝塚を身近に感じ、縄文人が身近に感じられた。										
事業の成果	事業開始前の地域の状況		事業によって変化したこと								
	世界遺産中城城跡、国指定埋蔵文化財荻堂貝塚、中城家住宅がある地元としての文化財の活用について色々な以遠交換が行われていた。		①実際に地元にある荻堂貝塚等の名所、旧跡のフィールドワークを行うことで地元への関心が一層高まった。 ②来年度における事業展開にいて参加者自ら具体的な方策を模索し始めている。								
実施体制	成果につながった事業運営上のポイント		次年度にむけた諸課題								
	地域資源の勉強と活用にポイントをおき実施したこと。		①参加者が地域のことをより深く理解することができた。各々が様々な形で地元について発信する場合や、外から訪れた人に対して地域を宣伝する材料を参加者とともに考察し実施していきたい。 ②区民以外の参加者へのアプローチを検討。								
実施体制	活動実施の応援スタッフボランティアなど	年間を通じた事務局担当者	2人	事業総経費		370,300円					
		理事役員等運営関係者	11人								
地域内の協力関係者	10人										
	人										
その他( )	人										
		合計		23人							
右図の経費バランスから見える事業特徴											
①諸謝金・旅費……地域の人材を専門家として発掘し、指導者になってもらい。経費の1/2を投入。											



## 地域事業の自己評価を元にした各実行委員会のまとめ

都道府県名	北海道	市区町村名	帯広市、石狩市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	北海道実行委員会			藤原市子				
事業名	食文化から地域おこしを考える、子どもの心を育てる読書推進活動、あしびなーサロン、あしびなーみんなで創ろう あしびなー食べることは生きること			代表者所属団体名				
実施地域総数	5地域			特定非営利活動法人子ども・コムステーションいしかり				
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔から伝わる手作りのおやつや漬物づくりなどを通して、若い世代に地場の食材の豊かさと、手から手、口から口へと伝えられてきた郷土の食文化を継承することで、地域文化への理解を深める。</li> <li>当地域では数多くの小学校や地域のコミュニティセンターなどで、ボランティアグループによって子どもたちへの読み聞かせ活動が実践されている。地域でのボランティアの実践に役立つ情報の提供や研修の場をすることによって地域の図書館や学校図書館の活性化をはかり、より一層地域住民が参加しやすい環境をつくる。</li> <li>だれもが気軽に街づくりに参加できる地域社会をつくる。</li> <li>[食]を中心にすえた興味をひくワークショップを実施することで孤食個食の人びとをみんなの輪の中に入れ、様々な年齢層の交流を図る。安心安全な食べ物への関心を高め健康な町づくりに寄与する。</li> <li>地域の人びとが協力して創作創造体験活動を企画実施する。おとしよりから子どもまで三世交代体験により、人と人とのつながりを築くことを目的とする。</li> </ul>							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				131	493	20	764	18
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				10	237	771		
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	3,040,583	円	事業 予算金額	3,040,583	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%
	活動 実施回数	103	回	活動 実施予定回数	97	回	106.2	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	1,230	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,491	人	82.5	%
	常任スタッフ参加 延べ数	382	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	385	人	99.2	%
	ボランティア参加 延べ数	11	人	ボランティア参加 延べ予定数	1	人	1100.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	10	事業の安定実施ができた。適正だった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	実施地域がはなれているため集合に苦労した。各事業の情報交換、レベルアップも図れるので必要な会議で。				
3	活動 実施回数	106.2	10	内容充実のため計画数を上回った事業もあったが他は計画どおり実施した。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	82.5	8	計画を8割方達成している。継続的な活動は参加者の根気が続かない面もあった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	99.2	9	スタッフ自身も楽しめる活動ということもあり、熱心なサポートであった。				
6	ボランティア参加 延べ数	1100.0		想定していなかったので評価はない。				
7	プログラムの充実度		8	地域性のだせる質の高いプログラムを提供することができた。参加者の自主性を引き出すプログラムはムラがあった。				
8	参加者の満足度		8	楽しみながら活動できた。ただ上記のように個々にかかわることがらについては満足感に差があったと思う。				
Total	総合的な評価点		9	初年度で手探りの部分もありながら健闘したと思う。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	帯広西部地区	8点	地域のボランティアが多数参加、交流とともに活動の賛同者も増え、活動回数が計画より増えてしまった。					
2	帯広明和地区	8点	郷土の食文化の継承をめざし、若い年齢層との接点を重視している。					
3	石狩北地区	7点	三世交代をめざした体験活動はユニークだが参加者が広がらなかった。					
4	石狩南地区	8点	地域の食材を調達できる熱心な講師やスタッフがそろった。参加者も満足した。					
5	石狩中央地区	7点	開設回数は確保したが、広報不足、学習会やワークショップなど具体性のあるものは興味を引いた。					
	平均点	8点						
実行委員会全体総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度なので各事業とも地域への周知がいまひとつ足りなかった。</li> <li>三世交代や地域の食文化の継承、ボランティアのネットワーク作りなどの事業も地域作り、地域おこし、人づくりに貢献できる事業である。継続が力になる事業と考える。参加者の願いでもある。</li> </ul>			今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>何をしているのかだれにでもよく解る広報活動</li> <li>プログラムのさらなる質の向上、事業に賛同して楽しみながら集まってくれるスタッフを増やす。</li> </ul>			

都道府県名	北海道	市区町村名	中札内村	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	すてきな村、すてきなあなた			馬淵恭子				
事業名	H19年度文部科学省「学びあい、支えあい」地域活性化事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	1地域							
事業の目的	「食」にテーマを絞り、開催講座、講演会ごとに世代や立場の異なる人々の交流や関わりを創り出すこと。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
中札内村は酪農業を中心に乳製品、大豆加工品生産も盛んな村である。人口約4000人のうち、およそ1/5が60才以上であり、共働き家庭が多いという特徴がある。このような現状の中、村の子供たちの育成に関わる地域協力体制の弱さや、小さな村でありながら住民同士のつながりや交流が継続、受け継がれていかないなどの問題点を抱えている。そこで、本事業では村の豊かな食糧資源を活用しながら家庭における食生活を通しての親子、家族関係を深めること。あるいは、異世代間、異なる職業、立場の人々の交流を図ることを特徴とする。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					165		254	25
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	41	30	455					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	272,100	円	事業 予算金額	464,540	円	58.6	%
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%
	活動 実施回数	32	回	活動 実施予定回数	45	回	71.1	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	364	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	268	人	135.8	%
	常任スタッフ参加 延べ数	81	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	87	人	93.1	%
	ボランティア参加 延べ数	0	人	ボランティア参加 延べ予定数	20	人	0.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	58.6	2	予定していた事業が、実行委員の私的状況のため開催できなかった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	7	もう少し集まると良かった。				
3	活動 実施回数	71.1	9	参加人数の多少に関わらず、継続して行った事業もあった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	135.8	5	少人口の村としては延べ数としては大きい。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	93.1	2	ムリのない、円滑な運営のためにはあと5名ほど必要である。				
6	ボランティア参加 延べ数	0.0	5	アピール、あるいは啓蒙活動も必要である。				
7	プログラムの充実度		5	人材が必要だ。				
8	参加者の満足度		8	活発な意見、継続して参加する意欲などが窺えた。				
Total	総合的な評価点		5					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	中札内	7 点	人口比、村の地域としての状況に見合わせると初年度としては手応えを感じた。					
	平均点	7 点						
実行委員会全体総括	プログラムの充実や、実行委員個々の役割分担を考えると、あと3名くらいのメンバーが必要である。実行委員自身が机上で企画するのではなく、歩いて人と出会って交流し、その中からプログラムのヒントを得るようであれば、地域の状況に則した物は作れないと思う。			今後の課題	集まるのではなく散らばることを。建物の中にはいるのではなく現地に赴くことを。実際に目でみて確かめ、耳で聞いて書き留める。地域を生活の中に生かすためには自らの体を動かして、感じとることをし続けるということが必要である。			

都道府県名	宮城県	市区町村名	仙台市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	アクティブルーム☆伊達っ子実行委員会			阿部 寛行				
事業名	学びあい支えあい地域活性化事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	9地域			アクティブルーム☆伊達っ子実行委員会				
事業の目的	今日の青少年の問題行動の深刻化や青少年による凶悪犯罪増加の背景として、社会の急激な変化に伴う住民同士の連帯感の欠如や人間関係の希薄化等による地域教育力の低下が指摘されています。このため、地域住民がボランティア活動や家族同士の体験活動、地域の様々な課題等を解決する学習や活動などの取り組みを通して、住民同士が「学びあい、支えあい」地域のきずなづくりを推進し地域教育力を再生してゆくことが、本事業の要旨となっております。							
	アクティブルーム☆伊達っ子では、家庭・地域・学校が一体となり、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むべく、「学びあい・支えあい地域活性化」として各地域で体験教室を実施しています。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
一年を通して屋内・屋外問わず開催しているコミュニティスポーツチャレンジ、ファミリースポーツバイキング、ストレッチ・バランスボール・バランスボード体操、シーカヤック体験教室、ヨット体験教室、パラグライダー体験教室、冬季アルペンスキー体験教室などや、アートにてファミリー自然創作実践活動、地域の若者から高齢者までパソコンを操作する研修講座、茶道体験教室、華道体験教室、更に海や山など大自然での季節ごとの自然体験活動から、食育の歳時を絡めた四季の味覚を地域住民と楽しむ体験教室まで、子どもから高齢者まで多世代にて楽しむ。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				34	1814	11	313	144
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				124	897	1543		
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)		事業申請時の予定数		達成度			
	事業支出金額	未定 円	事業 予算金額	4,618,360 円	0.0	%		
	実行委員会 会議 実施回数	8 回	実行委員会 会議 予定回数	8 回	100.0	%		
	活動 実施回数	137 回	活動 実施予定回数	123 回	111.4	%		
	スタッフ以外の参加者 延べ数	1,886 人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,708 人	110.4	%		
	常任スタッフ参加 延べ数	226 人	常任スタッフ参加 延べ予定数	234 人	96.6	%		
	ボランティア参加 延べ数	366 人	ボランティア参加 延べ予定数	355 人	103.1	%		
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額		未定					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	日程調整をして、実行委員の参加しやすい環境に心がけた。				
3	活動 実施回数	111.4	10	回数は、達成できた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	110.4	8	参加者人数は様々で、地域の特色が出たと思います。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	96.6	8	予定より多少少ないが、しっかりしたスタッフと活動できた。				
6	ボランティア参加 延べ数	103.1	8	大学と連携して、学生ボランティアにたくさん協力してもらえた。				
7	プログラムの充実度		10	多世代に幅広く選択できるプログラム内容でできたと思います。				
8	参加者の満足度		8	満足していただけたと思います。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	青葉区地域	9 点	参加者にとても満足していただき、プログラム内容もよかった。					
2	泉ヶ岳地域	8 点	プログラム内容は充実して、参加者に満足していただけた。					
3	将監地域	5 点	連携する地域が一部だったことで、もう少し範囲を広げて広報できれば良かったと思う。					
4	木町通地域	6 点	片親、共働きなどの家庭が多い地域にて、ファミリー、親子プログラムにおける親の参加率は低い。					
5	八幡地域	9 点	参加者に満足してもらえ、とても楽しんでもらった内容だったと思います。					
6	富谷地域	8 点	地域住民との関り、町内会や老人会などの連携によりプログラムを進められて、1年目としての事業成果を得た。					
7	蔵王町・柴田町・村田町地域	10 点	参加人数は少ないが、地域住民の関りや地域行政連携においても1年目としては成果を得た。					
8	七ヶ浜地域	6 点	地域の特色が強く、広報に苦労した。					
9	太白地域	7 点	地域の特色が強く、なかなか、受け入れてもらえない点があった。					
	平均点	7 点						
実行委員会全体総括	平成19年度の実行委員会としては、地域の大人たちを巻き込む展開を模索して、仙台市内のみならず宮城県内において地域住民の生涯学習する拠点づくり、大人の居場所づくり、子ども達のアクティブな活動の遊び場・仲間とふれあいができる場としての居場所づくりを広域的に展開して行く事を目的とした。その巻き込まれた大人たちや子ども達が、地域に根ざした継続的な活動展開できる拠点確保と事業参画を将来的には展開する事も心がけた。			今後の課題	今後の課題としては、従来型の活動に伴う行事参加形式ではなく、参加者自身がやりたいことに参加するという視点を大切にする。実行委員からのプログラム提案にとどまらず、自分達を取り巻く社会を意識しながら参加者の視点で実行委員含めたスタッフ、ボランティアが、参加だけではなく、参集、参画することをねらいとする活動も視野に入れ、参加者自身の参画によるプログラム提案と、参加者とスタッフ、ボランティアが、一体となって楽しみ・いろんなことを学べる場所、居場所を作り提供する事を次年度の課題として取り組みたい。			

都道府県名	栃木県	市区町村名	宇都宮市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	学びあいうつのみや食育体験実行委員会			高井 知美				
事業名	学びあいうつのみや食育体験			代表者所属団体名				
実施地域総数	1地域			特定非営利活動法人宇都宮子ども劇場				
事業の目的	<p>栃木県宇都宮市は、人口50万人を超える中核都市です。転勤で宇都宮に住む人の割合も多く、なかなか自分の住む街をふるさととして認識しにくく、地域住民が、家族で参加する自然体験を通して、互いに学びあいながら親睦を図り、よりよい人間関係を構築していくことを目的とする。</p>							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
都市型の地域なので自然体験の場が少ないが、郊外に行けばまだ畑の残っている場所もある。そこで年間を通して種まきから草取り、収穫までの農業体験を行い、収穫したもので料理づくりをし、総合的な食育の学習を行う。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				60	71	17	0	1
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
4				27		79		
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	271,210	円	事業 予算金額	273,810	円	99.1	%
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	100.0	%
	活動 実施回数	11	回	活動 実施予定回数	11	回	100.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	259	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	256	人	101.2	%
	常任スタッフ参加 延べ数	7	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	7	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	30	人	ボランティア参加 延べ予定数	20	人	150.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	99.1	9	ほぼ予算通りに支出できたが、材料費や資料費は不足だった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	計画通りに開催できたが、短期間の開催だったので忙しかった。				
3	活動 実施回数	100.0	10	計画通りに開催できたが、短期間の開催だったので忙しかった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	101.2	10	十分な人数だったが、集めるのがたいへんだった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	十分なスタッフ人数だった。				
6	ボランティア参加 延べ数	150.0	10	十分なボランティア人数だったが集めるのがたいへんだった。				
7	プログラムの充実度		8	日程的に忙しかった点が残念だった。				
8	参加者の満足度		8	また、次年度も参加したいとの参加者の声が多かったが、休みの人も若干いた。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	宇都宮市	9 点	事業期間が短くなったため、参加者を集めることも含め忙しくなったが、充実したプログラムとなった。					
	平均点	9 点						
実行委員会全体総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果につながったポイントとして、事前準備を丁寧に取り組み、当日になってあわてることなく指導する体制が組めたこと。</li> <li>今後の課題としては、スケジュールがきつく講師もボランティアもかなり無理して出てきていたので、無理のない計画にしたい。</li> <li>改善策として、事業実施日程の見直しをする。</li> </ul>			今後の課題	<p>自然が相手だったのでスケジュールが厳しく、実行委員もボランティアもかなり無理をして出たので、今後はゆとりを持って取り組みたい。</p>			

都道府県名	群馬県	市区町村名	桐生市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	「フィールドワーク桐生」実行委員会			赤池孝彦				
事業名	フィールドワーク桐生			代表者所属団体名				
実施地域総数	8カ所			ファッションタウン桐生推進協議会まちづくり委員会				
事業の目的	群馬県桐生市は、かつて近代化を支えた織物産業で栄えていた。街を象徴するようなノギリ屋根工場の数が十数年前と比較すると400棟以上から200棟以下へ半減している。これは、所有者の高齢化と工場の老朽化のためだが、一つの目的が終えた近代化遺産(=ノギリ屋根工場群)の単なる保存や修復ではなく、『フィールドワーク桐生』というプロジェクトで広く一般市民に再利用(=保存)について考える機会を設けることにより、所有する苦勞(固定資産税)や、ノギリ屋根工場が単なる倉庫としてしか使用されていない状況を一般市民のボランティアの清掃活動から、広くこのような状況を認識してもらい、再利用への具体的な指針と表面的なまちづくりにならないように地道な活動をしていく。							
	地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳			
桐生市は、絹織物産業で栄えていた街である。そのため、いわゆる「近代化産業遺産」として、織物工場に特徴的なノギリ屋根工場が200余り残る地域でもある。10数年前と比較するとその数は半減している。建造物の老朽化と所有者の高齢化が主原因である。「近代化産業遺産」の利活用をコンセプトに倉庫と化しているノギリ屋根工場の片付けや掃除を行なうプロジェクトが「フィールドワーク桐生」である。最近、文化庁や経済産業省がこのような活動とリンクするようになって行政の支援策も期待されるが、まず地元の方々が活動に参加して現状を認識できるプロジェクトである。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				0	34	45	235	75
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				13	450	150	中間報告展観覧者220名	
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	680,160	円	事業 予算金額	679,825	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	22	回	実行委員会 会議 予定回数	8	回	275.0	%
	活動 実施回数	28	回	活動 実施予定回数	25	回	112.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	435	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	200	人	217.5	%
	常任スタッフ参加 延べ数	105	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	100	人	105.0	%
	ボランティア参加 延べ数	282	人	ボランティア参加 延べ予定数	200	人	141.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	6	予想外の日数で、会場使用料もかかった。チラシ作りに地元の団体が協力して、その分借料にまわすことができた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	275.0	9	すぐ打ち合わせてできるフットワークの軽さはみな持っていたが、2-3名が学校関係で来られなくなることもあった。				
3	活動 実施回数	112.0	10	プレス・リリースができる活動については、マスコミの取材があるほど盛況だったが、一部事情(倒産等)があったために活動をプレスリリースできないときもあった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	217.5	9	一般参加者の多くはロコミによる。地域や高齢者のクラブ等のグループが比較的自発的に協力してくれるが、一般の方々は、平日は仕事で参加は見込めないで、土日週末に事業開催をする方が都合が良いと思われた。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	105.0	10	大学関係者は定期的に都合のつかない場合もあったが、比較的フットワーク良く集まりは良かったように思う。				
6	ボランティア参加 延べ数	141.0	8	団体等に話し合いがつけばまとまった人数の参加が見込めるが、違う場合は一人一人の連絡が大変であった。				
7	プログラムの充実度		10	近代化産業遺産の工場内での片付け作業とその歴史的な背景のミニレクチャーのカップリングはかなり興味深いものになったが、時間が限られ要点のみになった。				
8	参加者の満足度		9	参加者からはいつも、次回開催の連絡の要望があったが、日時が合わなければやはり来れなかった。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	わたらせ渓谷鐵道	10 点	鉄道会社の人件費削減のための線路脇の「木の葉掻き」はテレビやラジオなどのマスコミに多数紹介され宣伝にもなった。					
2	金谷レース工場	9 点	老舗レース工場の倒産後の片付けと整理。片付け後、工場はパン屋として再活用されることになった。一部片付かないことがマイナス。					
3	住吉織物工場	10 点	引っ越し後の片付けと新しい店子をネットワークを使って、アーティスト・グループが借りられるようにコーディネートができた。					
4	山沼織物工場	9 点	19年間手つかずだった工場の片付け・清掃で、様々な人が関わりを持ち、修理等もボランティアで手伝いをする人たちが出て来ている。					
5	ワークショップ梅田	8 点	比較的古民家が残るエリアで大学生や小学生とともに興味ある建物を見つけプレゼンするワーク。小中学生はクラブと重なり少なかった。					
6	フィールドワーク桐生報告展	8 点	ワークショップの内容や活動の中間報告として画像や地図等を地元の旧織物工場を使って桐生市民に知ってもらったための展示。					
7	ワークショップ桐生東	8 点	小学生と保護者の工作ワークショップは好評。小学生が多く事故を防ぐため旧織物工場内ではなく、公民館の中で行なわれたのが残念。					
8	近代化産業遺産活用レクチャー	8 点	年末に開催したわりには参加者が多かった。ケーブルTV、新聞社の取材もあった。直前に日程変更もあったが、無事開催できた。					
	平均点	8,75	点					
実行委員会全体総括	実行委員会は、この活動が数日にわたり、予想外の回数になってしまっても、積極的に参加してくれた。			今後の課題	工場内の片付けが一日で終わることがないということがわかった。前もって工場の規模がわかれば良いのだが、活動を通して着手する場合はほとんどなのでなかなか活動の規模が読めないことが予想外の出費に繋がる。また、その出費を抑えようとする活動が中途半端な結果になってしまう。したがって、活動計画が立てにくくなってしまいう欠点をどのように解決していくかをそれぞれの場合によって考えて行かねばならない。			



都道府県名	埼玉県	市区町村名	入間市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	ちょっと教えて実行委員会			北田尚美				
事業名	あなたのためにおもって?			代表者所属団体名				
実施地域総数	1ヶ所(入間市内としては2ヶ所)			入間おやこ劇場				
事業の目的	子育て世代に向けて、子どもを1人の人として認める「子どもの権利条約」に基づいた子ども観を普及するとともに、子ども同士、大人同士が地域の中で、大切にされる地域の再生を目指す。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
入間市は人口15万人の小さな町ですが、圏央道や国道16号線という幹線道路に挟まれているため、若い世代の流入が周辺の町に比べると高い。核家族率も隣の飯能市に比べて高い。孤立して育児している家庭が多い。しかし学習意欲は高いお母さんが多い。子どもとの遊び方というよりは、「子ども観」という少しむづかしい話が、講座の参加へのチャンスにはなった。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				15	15		370	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
		370						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	800,000	円	事業 予算金額	893,440	円	89.5	%
	実行委員会 会議 実施回数	8	回	実行委員会 会議 予定回数	8	回	100.0	%
	活動 実施回数	27	回	活動 実施予定回数	35	回	77.1	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	400	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	800	人	50.0	%
	常任スタッフ参加 延べ数	160	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	160	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	100	人	ボランティア参加 延べ予定数	100	人	100.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	89.5	8	保育者の謝金の確保をしなかったことがマイナス。確保すべきだった。それ以外は順当。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定回数では、参加者確保や進行のことなど話しあう時間がたらない。				
3	活動 実施回数	77.1	8	予定していた講師がキャンセルになるなどのアクシデントで、多少の変更があった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	50.0	7	広報戦略の立て方がうまくなかった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	若いお母さんをターゲットにしているので現場には、何人スタッフがいても多いということはない。				
6	ボランティア参加 延べ数	100.0	8	保育者が殆どの講座で必要で、ボランティアで多めに活躍。				
7	プログラムの充実度		10	細かく講座を設けることで、いろんな人が参加できた。				
8	参加者の満足度		10	多いに満足してもらえた。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1		点						
2		点						
3		点						
4		点						
5		点						
6		点						
7		点						
8		点						
9		点						
10		点						
11		点						
12		点						
13		点						
	平均点	点						
実行委員会全体総括	子育て中の若いお母さんたちが、講師を招いての学習はもとより、自分の子育てについてはなす場を求めていることが、この事業の中でかなりはっきりとした。またその場が同じ世代だけでなく、いろんな世代が混ざること、地域での子育てのよさを実感しやすいこともわかってきた。			今後の課題	広報面では、IT戦略が必要。			

都道府県名	埼玉県	市区町村名	さいたま市桜区、見沼区、浦和区	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	さいたま子ども劇場実行委員会			嶋影早都子				
事業名	郷土文化伝承・人間関係・自然体験			代表者所属団体名				
実施地域総数	3地域			さいたま子ども劇場				
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外で大人と子どもと一緒に自然に触れながら体験すること、大人と子どもに豊かな「遊び」体験を与えること。</li> <li>・文化伝承体験とおし親や地域の大人たつと交流しながら先人の知恵を学び、地域に愛着を持つことによってより良い子育てができること。</li> <li>・自分と他者を認め合いながらコミュニケーションのコツを学ぶこと。</li> </ul>							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
コミュニケーション力が低下している現代の中で共有、共感することを探っていくプログラムです。その手法を大人が学び、子どもと向き合い、自然体験をすることで自分を開放し、関わっていく楽しさを学びます。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				113	206	0	749	17
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	9	287	790					
実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)		事業申請時の予定数			達成度			
事業支出金額	1,160,000	円	事業 予算金額	1,133,740	円	102.3	%	
実行委員会 会議 実施回数	11	回	実行委員会 会議 予定回数	7	回	157.1	%	
活動 実施回数	41	回	活動 実施予定回数	41	回	100.0	%	
スタッフ以外の参加者 延べ数	895	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	710	人	126.1	%	
常任スタッフ参加 延べ数	387	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	379	人	102.1	%	
ボランティア参加 延べ数	193	人	ボランティア参加 延べ予定数	193	人	100.0	%	
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	102.3	10	予定通り行えた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	157.1	8	会議を時間内に終了できず、途中切り上げもあったが、メール会議をすることで内容の確認と統一を行った。				
3	活動 実施回数	100.0	7	予定通り行えた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	126.1	7	事業実施参加数に偏りがあるが、それぞれ適切な人数で行われた。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	102.1	8	実行委員もそれぞれの事業が加わることが出来た。				
6	ボランティア参加 延べ数	100.0	8	事業1,3は講師と常任スタッフで開催。事業2は地域のボランティアが参加してくれた。				
7	プログラムの充実度		7	参加者同士のコミュニケーションが活発に行われていることから充実していたと思われる。				
8	参加者の満足度		8	おおむね満足したと思われる。				
Total	総合的な評価点		8	開始実施が遅れたが予定回数通り行った。参加者が予定よりも少なかったが地域を考えるきっかけができた。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	浦和区	9 点	コミュニケーションのとり方を学ぶきっかけになったがPTAなどが活性化することは難しいと予想される。					
2	桜区	7 点	親子で遊ぶことの楽しさを再確認し地域の環境を知るきっかけができた。					
3	見沼区	9 点	参加者も多く見沼地域の特色を生かした体験を行うことができた。					
	平均点		点					
実行委員会全体総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3事業の委員会を同時に開催し、企画をまとめることが大変困難であったがメール会議をすることで委員会の統一を図ることができた。・地域環境(社会)に関心を寄せてもらうためにボランティアを呼びかける必要があった。・参加者の感想の中に次回の開催を希望する人が約3/4いたので充実した内容のプログラムだったといえる。</li> <li>・開催を早く行う必要があった。</li> <li>・3事業のそれぞれにコミュニケーションをキーワードにしたプログラムを入れることができた。</li> </ul>			今後の課題	文化の伝承は今後も継続して行っていく必要がある。コミュニケーションワークショップが地域自治会、PTA活動などに生かされるようなより充実した内容が必要である。ボランティアに呼びかける必要がある。地域環境(社会)のことに関心が持てるような体験活動を充実させ、幅広い年齢層がより交流ができるようにする。広報を充実させるためにより早い段階での企画運営に着手すること。			

都道府県名	埼玉県	市区町村名	鶴ヶ島市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	地域の宝を育てる会			浅見 邦男				
事業名				代表者所属団体名				
実施地域総数	埼玉県鶴ヶ島市南地区			地域の宝を育てる会				
事業の目的	鶴ヶ島市の南地区の人達がお互いの知識を生かせる場として、又子供たちを交えた高齢者間のコミュニティーの場としての機会をつくり、お互いに健康維持することを目的とする。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
20年前に区画整理された場所であるので、高齢者が多い。団塊の世代を中心にした事業とした。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					100			600
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
800								
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	470,000	円	事業 予算金額	498,510	円	94.3	%
	実行委員会 会議 実施回数	3	回	実行委員会 会議 予定回数	6	回	50.0	%
	活動 実施回数	78	回	活動 実施予定回数	81	回	96.3	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	1,500	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,640	人	91.5	%
	常任スタッフ参加 延べ数	160	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	173	人	92.5	%
	ボランティア参加 延べ数	0	人	ボランティア参加 延べ予定数	0	人		%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	94.3	9	概ね予定どりの実施。				
2	実行委員会 会議 実施回数	50.0	5	概ね予定どりの実施。				
3	活動 実施回数	96.3	9	概ね予定どりの実施。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	91.5	8	満足度。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	92.5	8	協力あり。				
6	ボランティア参加 延べ数	0.0						
7	プログラムの充実度		8	その都度工夫。				
8	参加者の満足度		8					
	総合的な評価点		8					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	南地区	8 点	参加者は事業に満足していたと思う。					
	平均点	8 点						
実行委員会全体総括	協力者の増加、			今後の課題	活動情報を周知方法			

都道府県名	東京都・埼玉県 ・神奈川県	市区町村名	新宿区・東村山市・東久留米市・所沢市 ・入間市・横浜市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	地域コミュニケーションプロジェクト実行委員会			小関京子				
事業名	地域コミュニケーションプロジェクト			代表者所属団体名				
実施地域総数	6地域			西埼玉LD研究会				
事業の目的	地域住民がボランティア活動や家族参加の体験活動・地域の様々な課題等を解決する学習や活動などの取り組みを通じて、住民同士が「学びまい、支えあう」地域のきずなづくりを推進することを目的としている。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
農村部・都市部それぞれの性格の異なる地域での開催により、モデル事業としての多様性・応用性が高まる。演劇的手法を用いたワークショップで、参加者自身の感覚感性を刺激。能動的に活動に参加できるようにプログラムを設定したことは大きな特徴である。また、ワークショップ体験を一過性のもので終わらせないよう、理論も学ぶことで、地域の指導者的立場になりえる人材の育成にも繋がる。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				104	144		579	38
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	2,896,117	円	事業 予算金額	3,383,545	円	85.6	%
	実行委員会 会議 実施回数	6	回	実行委員会 会議 予定回数	6	回	100.0	%
	活動 実施回数	43	回	活動 実施予定回数	43	回	100.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	865	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,335	人	64.8	%
	常任スタッフ参加 延べ数	53	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	53	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	11	人	ボランティア参加 延べ予定数	7	人	157.1	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	85.6	5	上記記載数字は、見込み数字であり、確定できていない。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	8	全体会議よりも、地域ごとのミーティングが盛んに行われた。				
3	活動 実施回数	100.0	10	事業開始時期が遅かったわりには、きちんと計画が進んだ。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	64.8	5	宣伝広報が足りなかった。(チラシに活動内容の詳細がわかるような情報を載せればよかった)				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	8	各地域窓口の方がご尽力くださった。				
6	ボランティア参加 延べ数	157.1	8	大学生など、幅広い世代にアピールしたのがよかった。				
7	プログラムの充実度		8	参加者のニーズに合いつつも、専門性の高いプログラムを実施できたように思う。				
8	参加者の満足度		8	各地域とも手応えがあった。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	新宿	5点	運営スタッフの体制に問題の影響もあり、参加募集が疎かになってしまった。					
2	東村山	5点	スタッフ同士の連絡不足が多く、役割分担が曖昧になってしまった。					
3	東久留米	5点	地域のニーズを把握しきれなかったために、テーマ性はよかったものの具体的な手法に問題があった。					
4	所沢	8点	地域で取り組みたいことが明確だったために、プログラム内容に地域の声が生かされた。					
5	入間	8点	今後につながる人材の出会いの場にもなり、地域での自助努力に微力ながら貢献できたように思う。					
6	横浜	7点	大人同士の繋がりが充実し、地域での活動が取り組みやすくなったように思う。					
	平均点	6点						
実行委員会全体総括	大人の活力を向上させることが、地域活性化への第一歩と捉えると、今回のように知識・理論と共に、自身の感覚感性を磨いたり、リフレッシュにつながる様々なワークショップの機会を提供できたことは、一定の評価に値すると考える。 また、地域を絞り込んだことで、参加者自身が前向きな展望を持って課題や問題と向き合える状況になり、大人同士の繋がりに明確な目的・目標が持てたことは、今後に繋がる大きな収穫である。			今後の課題	運営スタッフの補充と、参加者募集のための宣伝方法の見直し。			



都道府県名	千葉県	市区町村名	松戸市 八千代市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	千葉県まなびい実行委員会			岡田泰子				
事業名	学びあい支えあい地域活性化推進事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	5地域			特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター				
事業の目的	希薄になった地域の人間関係を、傷がいの有無や性別に関わらず、交流と共通体験をしながら課題を共有し、大人がつながることで、地域で子どもを育てる環境づくりやネットワークづくりを推進する。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
地域の人が互いに交流する機会がなく、地域の人々がつながったり連携して、子どもを育てると意識づくりに環境づくりの共有の場や機会がない。世代を超え、傷がいがあるなしを超え、ボランティア活動の啓発、『子育てガイドブック』の作成、立場の違いを理解する体験活動や交流が特徴である。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				340	1172	75	2252	245
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	631	737	2028					
事業実施データ	実績 (2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	2,470,200	円	事業 予算金額	2,470,200	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	100.0	%
	活動 実施回数	103	回	活動 実施予定回数	98	回	105.1	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	4,704	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	4,463	人	105.4	%
	常任スタッフ参加 延べ数	332	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	327	人	101.5	%
	ボランティア参加 延べ数	277	人	ボランティア参加 延べ予定数	239	人	115.9	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	10	財務計画を立てそれに基づいて実行した				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	交流や情報提供、個別相談など、安心して実行し推進する実行委員会が充分機能した。				
3	活動 実施回数	105.1	10	予定以上の回数を実施することができた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	105.4	10	予定以上の参加者を得ることができた。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	101.5	10	スタッフを予定以上に広げることができた。				
6	ボランティア参加 延べ数	115.9	10	積極的に関わるボランティアを広げることができた。				
7	プログラムの充実度		9	触発されるプログラムが充実していた。				
8	参加者の満足度		9	リピーターの参加が増え、満足度は高い。継続の希望がある。				
Total	総合的な評価点		10					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点		自己評価の根拠・理由				
1	松戸市松飛台・五香地区	10	点	パトロール等の事業に対し千葉県教育委員会から表彰され、学校ボランティアへの積極的参加やネットワークが広がった				
2	松戸市松戸南地区	9	点	世代間の意見が活発に交換され、幅広い視点や課題共有・課題解決ができ、子育てガイドブック作成・普及につながった。				
3	松戸市矢切地区	9	点	団体間の交流やシニア世代までのボランティアスタッフが広がり、親たちが結びつきを強める新たな活動を立ち上げた。				
4	八千代市高野地区	10	点	傷がいを持った方が延べ60名参加、大学生の参加、80代の高齢者の参加と、立場の違う相手への理解や思いやりが深まった。				
5	八千代市村上地区	9	点	地域の大人と出合いがあり、定期的な学習会で、子どもへのかかわりを学ぶことができ、地域への愛着やきずなが深まった				
	平均点	9	点					
実行委員会全体総括	松戸市3地区 八千代市2地区での実施により、実行委員会としての情報交換や連携が図られ、松戸市と八千代市において、大人の交流やきずなが深まると考えられる。事業内容によって対象となる参加者層を広げることができたが、まだ女性の参加者が多い。			今後の課題	地域課題が大きすぎ、どこでも共通する課題になり、その地区ならではの課題設定をした方がよりよいと考える。子どもを取り巻く地域課題の洗い出し。見つけあいをし、わかりやすく明確な課題設定ができるようにする。それによって成果ももっと明確になる。また、地域限定ではなく、県域に広げた方がよい事業もあるので、検討していく。スタッフの確保			

都道府県名	千葉県	市区町村名	四街道市 千葉市 袖ヶ浦市 酒々井町	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	千葉中央実行委員会			白谷ミツル					
事業名	学びあい 支えあい 地域活性化推進事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	9地域			NPO法人四街道子どもネットワーク					
事業の目的	次世代を支援する世代間交流により、地域で子育てをする意識の共有と活動を支えるボランティアの養成。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
自然環境の豊かさ一方でマンションが次々と建設され若い世代が増え続けている。世代間が切り離されている。地域の自然豊かな環境を活用しての農業体験、地域の文化行事を伝える活動、技をもった達人との出会い等で、世代間の交流をし、次世代を支えていく				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				907	1887	474	1620	152	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	145	1901	3265						
事業実施データ	実績 (2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	3,349,990	円	事業 予算金額	3,349,990	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	100.0	%	
	活動 実施回数	188	回	活動 実施予定回数	182	回	103.3	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	4,477	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	5,352	人	83.7	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	827	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	771	人	107.3	%	
	ボランティア参加 延べ数	449	人	ボランティア参加 延べ予定数	445	人	100.9	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10	財務計画に基づき、計画的にすすめられた					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	交流や情報提供、個別相談など安心して実行し推進する実行委員会が充分機能した。					
3	活動 実施回数	103.3	10	予定を上回る計画ですすめられた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	83.7	8	天候に左右され、体育館など場所の変更と日にちが変更し、参加者が集めきれなかった企画があった					
5	常任スタッフ参加 延べ数	107.3	10	スキルアップしたスタッフがかかわることができた					
6	ボランティア参加 延べ数	100.9	10	予定数は確保できたが、今後はもっと増やしていきたい					
7	プログラムの充実度		8	多彩で興味のもてる、どの世代にも対応できるニーズに合ったプログラムが用意できた					
8	参加者の満足度		9	参加者の感想から満足度の高いことがわかり、今後も続けたいという声が多くあがっている。					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	四街道市四街道地区	8 点	親と地域の支援者が問題点を共有しあう学習等を通じ、親たちが自主的に活動にかかわり、支援者に育っている						
2	千葉市中央区	8 点	地域で技を持った達人を発掘でき、ものづくりを通じて交流や遊びに発展しコミュニケーション力がたかまった						
3	千葉市花見川区	9 点	住むマンション以外の地域住民と関わることができ、地域の子どもの事情を知るきっかけとなった。ボランティアが大幅増						
4	千葉市稲毛区	9 点	幅広い年代のスタッフが強力だったこと、ニーズに合った企画がすすめられた。						
5	千葉市緑区あすみが丘地域	8 点	プログラムが充実し、次回への期待が高く、子育て中の親子が知り合いになった。常任スタッフの確保が課題						
6	千葉市緑区大権町地区	8 点	地域の子どもの状況や問題を話し合うことができ、子育て観の共有化が図られ、スタッフのスキルアップもできた。						
7	袖ヶ浦市内	8 点	家族間の一体感やきずなを深め、農作業の一連は充実した達成感があった。天候に左右されるため参加者が下回った。						
8	酒々井小学校地区	8 点	何度も出会うことで、一緒に何かをやらうと声をかけ合うことが多くなり、ボランティアを買って出てくれるようになった。						
9	大室台小学校地区	8 点	若い親が多く、遊び、スポーツを通じ親しくなり、地域の人の協力も広がった。体育館使用の日程変更により参加者減。						
	平均点	9 点							
実行委員会全体総括	乳児・幼児期の子育てを応援するための人垣やボランティアを増やし、そのスキルアップも図るというプログラムが、丁寧に作られている。地域の人たちも知り合いになれたが、参加した家族間のきずなが深まったことが特徴。			今後の課題	天候に左右される企画の場合のリスクを考えておく。体育館等の使用は、学校の都合により変更する必要がある。毎回参加できる常任スタッフの人数の確保が必要な地区もある				







都道府県名	千葉県	市区町村名	松戸市 浦安市 市川市 船橋市	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	千葉西部実行委員会			大森百合子					
事業名	「学びあい 支えあい」地域活性化推進事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	9地域			NPO法人船橋子ども劇場					
事業の目的	性別や世代を超えて交流や学習、共通体験をし、気軽に声をかけ合う大人の関係を創っていき、地域で子どもを育てあう意識を高めていく。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
核家族が多く、地域の住民が地域社会への関心のなさ、都市化がすすみ新住民と旧住民、シニア世代や高齢者と和緩世代のつながりが薄いという地域課題がある。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				709	777	116	1702	411	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	117	1187	2469						
事業実施データ	実績 (2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	3,263,000	円	事業 予算金額	3,263,000	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	100.0	%	
	活動 実施回数	127	回	活動 実施予定回数	127	回	100.0	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	3,140	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	2,731	人	115.0	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	329	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	327	人	100.6	%	
	ボランティア参加 延べ数	508	人	ボランティア参加 延べ予定数	408	人	124.5	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10	財務計画を立てそれに基づいて実行した。					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	交流や情報提供、個別相談など、安心して実行し推進する実行委員会が充分機能した。					
3	活動 実施回数	100.0	10	予定どおりの回数を実施することができた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	115.0	10	予定以上の参加者を得ることができたところと、男性や高齢者の参加が難しかったところがある。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.6	10	スタッフを予定通り確保できた。					
6	ボランティア参加 延べ数	124.5	10	積極的に関わるボランティアを広げることができた。					
7	プログラムの充実度		9	参加者数に満たないところはプログラムの工夫の必要性があるが、全体としては充実して多彩。					
8	参加者の満足度		9	参加した人は満足度が高く、友人や他家族を誘って参加するようになった。					
Total	総合的な評価点		10						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	松戸市松戸地区	7 点	予定の日程で大きい会場確保ができなかったこと、講師の病気で講師変更があり予定の参加者を集められなかった。リスク対策						
2	松戸市横須賀地区	9 点	「笑い」をテーマの企画内容は満足度が高く信頼関係が増した。ただ男性の参加を予定数まで集められなかった。						
3	松戸市常盤平地区	9 点	食育を通じた世代間の伝え合いにより食事内容の見直しきっかけとなった。高齢者の参加が現実にはかなり難しかった。						
4	松戸市新松戸地区	7 点	子どもを見守る安心・安全の意識はすすんだが、参加数にばらつきがありニーズに合うプログラムの工夫が必要であった						
5	松戸市五香六実地区	10 点	シニア世代の素朴な指導が好評で、家族ぐるみの相互理解がすすみ、夏休みは学校行事との連携もできた。						
6	松戸市相模台地区	10 点	はじめ消極的だった親子が元気になり、友人を誘うようになった。様々な示唆に富んだ学習が好評で参加者が増えた。						
7	浦安市内	7 点	広報周知がうまくいかず、回によって参加数にばらつきがあった。スタッフの強化が必要。今後継続していく会が立ち上がる予定。						
8	市川市大柏地区	10 点	どんどん参加者が増え、ボランティアやスタッフも増えていきそう。地元の人と若い世代が声をかけあう関係ができた。						
9	船橋市内	9 点	顔が見えてきたので、声をかけられるようになり、つながりが深まった、地域の宝の再発見となった。						
	平均点	9 点							
実行委員会全体総括	子どもをとりまく地域課題を明かにし、その地域課題解決のために、世代を超え地域で力をあわせていかなければという、高い意識を持って取り組んだ。異年齢の大人の参加を意識したプログラムが多彩に工夫され、子どもや若い世代と実際に触れ合う機会がセットされ、実感的に学びあうことができた。			今後の課題	高齢者 男性の参加についてはもっと戦略が必要である。地域課題の設定はもっと具体的であった方が、成果も得やすい。広報周知がうまくいかないところはスタッフ体制が充分でない実態があり、力量以上の参加者数を見込んでいた。体制強化の課題をかかえているところは克服したい。				





都道府県名	神奈川県	市区町村名	横浜市金沢区	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	「祭りの音」プロジェクト・横浜金沢地区実行委員会			川口洋				
事業名	横浜金沢地区・「祭りの音」プロジェクト			代表者所属団体名				
実施地域総数	11地域			横浜やっしや鯛				
事業の目的	横浜市金沢地域にはそれぞれの囃子が伝承されている。しかし従来、譜面を使わない口伝という形での伝承に頼ってきたため、近年その継承が困難となり、地域の重要な伝統文化が失われようとしている。この事業では、地域の人々が地域の財産である囃子に気軽に触れ、その演奏体験を通じて相互のふれあいや継続的な交流を図りたい。専門的な稽古をしていない素人でも囃子を体験できるよう譜面作成にもとり組み、住民たちが地域の伝統文化や歴史を見つめなおす機会を増やし、地域への愛着をもって世代を超えたコミュニケーションのきっかけづくりをしたい。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
地域性と言うよりも全ての団体が抱える問題が笛吹の養成。笛吹が絶えることによって伝承が途絶えてしまう。いかにして笛吹を育てるか。この事業の特徴は、笛吹を育てるために各々の地域に伝わる口伝を、共通の書式により譜面化し、「教えやすく・覚えやすい」教則本を作る。これからの伝承の唯一の手助けになる『日本初の試み』という所です。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					97		363	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	4,330,850	円	事業 予算金額	5,783,100	円	74.9	%
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	80.0	%
	活動 実施回数	74	回	活動 実施予定回数	88	回	84.1	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	386	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	2,552	人	15.1	%
	常任スタッフ参加 延べ数	74	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	88	人	84.1	%
	ボランティア参加 延べ数	0	人	ボランティア参加 延べ予定数	0	人		%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	74.9	10	予算を有効活用できた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	80.0	10	適当な回数である。				
3	活動 実施回数	84.1	10	適当な回数である。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	15.1	10	主要メンバーが、ほとんど参加出来ていた。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	84.1	10	適当である。				
6	ボランティア参加 延べ数							
7	プログラムの充実度		10	大変充実していた。				
8	参加者の満足度		10	参加者は大変勉強になったようだ。				
Total	総合的な評価点		10					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	六浦三艘	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
2	六浦睦	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
3	寺前	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
4	釜利谷	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
5	瀬戸	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
6	谷津	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
7	州崎	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
8	野島	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
9	町屋	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
10	谷矢部西	10点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる					
	平均点		点					
実行委員会全体総括	口伝のみの伝承には現代社会では限界があると思います。譜面づくりの専門家の養成が必要です。			今後の課題	専門家の養成。			

都道府県名	東京都	市区町村名	東京都23区	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	ライフステージ歌舞伎実行委員会			芦野孝男				
事業名	ライフステージ歌舞伎			代表者所属団体名				
実施地域総数	東京都新宿区			舞台芸術21ネットワーク				
事業の目的	団塊の世代をハジメとする60歳以上の男女に、退職後の第二の人生において、短期間で歌舞伎という日本の伝統文化にふれる機会を設定し、その習得のための教室を企画し、上演の場を提供することを目的とする							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
東京都は江戸歌舞伎の発祥の地、そこで伝統芸能の歌舞伎を通じて、高齢者の生きがいを見つけ、子どもたちの稽古舞台を通して交流する機会を設定する。人に見られる舞台体験は、人を緊張とともに元気にする場となる。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					16			20
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	3							
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,250,000	円	事業 予算金額	752,000	円	166.2	%
	実行委員会 会議 実施回数	3	回	実行委員会 会議 予定回数	3	回	100.0	%
	活動 実施回数	12	回	活動 実施予定回数	12	回	100.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	520	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	640	人	81.3	%
	常任スタッフ参加 延べ数	48	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	24	人	200.0	%
	ボランティア参加 延べ数	48	人	ボランティア参加 延べ予定数	36	人	133.3	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	166.2	5	赤字を出したのは反省。しかし、成果は大。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り				
3	活動 実施回数	100.0	9	もっと多くてもいいのだが、日程的に妥当。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	81.3	9	想像以上に集まった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	200.0	10	スタッフは毎回熱心に指導。				
6	ボランティア参加 延べ数	133.3	10	毎回増えていってよかった。				
7	プログラムの充実度		8	年齢や技量に応じた対応が必要。				
8	参加者の満足度		9	終了後の笑顔が印象的				
Total	総合的な評価点		9	子どもたちとの交流がうまくいって、一番の目的は達成された。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	東京23区	9点	歌舞伎に慣れている人もいたが、初体験の人へのフォローが必要であった。					
	平均点	9点	歌舞伎に慣れている人もいたが、初体験の人へのフォローが必要であった。					
実行委員会全体総括	高齢者、団塊の世代の人に歌舞伎を体験してもらう企画は、意外と受講者たちの熱気溢れる舞台と元気にその効果が大きいものであることを実感できた。子どもと違って、積極的に参加してくる人が少なく、どんなことをするのだろうかという不安と疑問を抱きながら参加してくる人が多かった。しかし、指導スタッフの本物の伝統芸能の指導を受け、子どもたちと交流するうちに、歌舞伎の魅力と楽しさに夢中になっていき、最後には舞台上でセリフをいい、踊って快心の笑顔になっていた。おおむね好評で、効果は予想以上であったと総括している。			今後の課題	やはり、広く多くの歌舞伎や伝統芸能に興味のある高齢者に広報する手段を再検討したい。子どもなら学校で配るといった簡潔な方法があるが、高齢者ではそこが難しく、公共施設でも連携や協力体制が薄い。特に男性の参加を促したい。			



都道府県名	東京都	市区町村名	西東京市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	西東京子どもドラマ塾実行委員会			釘本 光				
事業名	西東京ドラマ体験ワークショップ			代表者所属団体名				
実施地域総数	1地域			劇団HOTSKY				
事業の目的	地域住民同士の交流のきっかけ作り。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
西東京市は二つの市が合併してできた街である。同じ市内なのに行っていないお互いの居住地域と一緒に歩き、創作のための情報交換をすることで、街に対する興味と愛着を持つ。また、演劇発表という共同創作活動を行うことで、各地域間・各世代間の交流と相互理解を深める。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
							116	24
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
		14	126					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	688,500	円	事業 予算金額	688,500	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%
	活動 実施回数	14	回	活動 実施予定回数	14	回	100.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	140	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	510	人	27.5	%
	常任スタッフ参加 延べ数	95	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	95	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	36	人	ボランティア参加 延べ予定数	36	人	100.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	8	活動初年度にも関わらず、専門の講師の理解と協力により経費を抑えられたと思う。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	9	参加者の状態に合わせたサポートのため、特に野外活動の下調べなど必要なことができた。				
3	活動 実施回数	100.0	8	本来なら、共同創作活動で関係性を深めるためにはもう少し回数を増やしたい。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	27.5	3	情報宣伝をもう少し工夫して人数を増やすべきだった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	計画通りの活動ができた。				
6	ボランティア参加 延べ数	100.0	10	計画通りの活動ができた。				
7	プログラムの充実度		8	街歩きから創作へ無理なくつながる、よくできたプログラムだと思う。				
8	参加者の満足度		8	もう少し(回数を)やりたかった という声をいただいた。				
Total	総合的な評価点		8	広報・募集をもっとスムーズに行い、もっと多数の参加者で実施すべきだった。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	西東京市	7 点	プログラムについては自信があり、実施もうまくいったと思っているが、何より広報・参加者集めがうまくいかなかった。					
	平均点		点					
実行委員会全体総括	実施した活動そのものは充実していたが、もっと情報宣伝力を上げて、こういった事業に興味を持ち参加したいと思う人数を地道に増やしていかなければと思う。			今後の課題	事業を実施する地域・行政との連携を図れないものかと思うのだが。			



都道府県名	東京都	市区町村名	多摩市・町田市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	特定非営利活動法人 クレール実行委員会			川上 敬子				
事業名	壮年および高齢者を対象とした運動講習会			代表者所属団体名				
実施地域総数	2			特定非営利活動法人 クレール				
事業の目的	運動をツールとして各世代間の交流を図り、各世代で担うことのできる役割を果たすことにより、地域交流を深めることを本事業の目的とする。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
地域性:核家族化・運動低下 特徴:世代交流健康事業				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				0	350	120	110	120
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	400	0	0					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,300,000	円	事業 予算金額	1,197,000	円	108.6	%
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	100.0	%
	活動 実施回数	40	回	活動 実施予定回数	42	回	95.2	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	1,400	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	2,820	人	49.6	%
	常任スタッフ参加 延べ数	80	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	84	人	95.2	%
	ボランティア参加 延べ数	140	人	ボランティア参加 延べ予定数	210	人	66.7	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	108.6	9	受益者負担分と助成金を合わせ、予定範囲内で行えた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り行えた。				
3	活動 実施回数	95.2	9	予定通り行えた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	49.6	7	告知時期がうまくいかず、当初の予定より参加者が見込めなかった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	95.2	10	予定通り行えた。				
6	ボランティア参加 延べ数	66.7	8	予定が事前にも伝えられず、多くのボランティアの方に参加してもらうことが出来なかった。				
7	プログラムの充実度		9	参加者の方にも幅広く意見を取り入れたプログラム作成ができた。				
8	参加者の満足度		9	概ね各年代からも満足していただけた。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	多摩市	9点	地域への影響力も含め、多くの市民の方が参加した事業を行えた。					
2	町田市	7点	新しい地域での事業であったので、告知がうまくいかなかった。					
	平均点	8点						
実行委員会全体総括	クオリティの高いプログラムを提供することで、リピーターの参加者が増え、会員増加と繋がった。今後も引き続きこの地域において持続的に事業を行い、資金的に自立した団体を確立する。			今後の課題	参加者が満足の出来るプログラムを提供できるスタッフを長期的に確保することが課題。			

都道府県名	東京都	市区町村名	杉並区	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	和泉自由学校学びあい実行委員会			坂詰 敦				
事業名	地域ふれあいペット教室、すぎなみシアターワークショップ、わくわく野外活動			代表者所属団体名				
実施地域総数	3地域			NPO法人和泉自由学校				
事業の目的	地域の絆を深め、大人から子どもまで、だれもが楽しめる環境を地域住民が積極的に担っている環境の整備。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
阿佐ヶ谷地区は積極的な参加者が多く開催ごとに参加者が増えていった。年齢層も4歳～61歳と幅があったが皆が楽しめる演劇プログラムということで笑顔がたえなかった。大原地区はなかなか参加者を集められず小規模のものとなった。和泉地区は団体の拠点となる地域のため容易にに参加者を集められたが新規開拓の必要性も感じられた。全体的に落ち着いた活動ができた。地域の絆という点でまずは、第一歩を踏み出した。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				6	219	98	282	38
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	3	229	372					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,050,000	円	事業 予算金額	1,475,247	円	71.2	%
	実行委員会 会議 実施回数	6	回	実行委員会 会議 予定回数	6	回	100.0	%
	活動 実施回数	25	回	活動 実施予定回数	26	回	96.2	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	581	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	600	人	96.8	%
	常任スタッフ参加 延べ数	78	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	78	人	100.0	%
ボランティア参加 延べ数	82	人	ボランティア参加 延べ予定数	78	人	105.1	%	
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	71.2	8	3事業合同のチラシを作成し経費を軽減できた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	毎回充実した会議ができた。回数が少なく1回に5～6時間を要した。				
3	活動 実施回数	96.2	8	7月開始となり予定が狂った。講師手配に手間取った。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	96.8	8	PR不足は否めない。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	9	スタッフの確保はスムーズだった。				
6	ボランティア参加 延べ数	105.1	9	独自の講習会を設け参加を募ったことがプラスになった。				
7	プログラムの充実度		10	3事業とも継続的でユニークなものとなった。				
8	参加者の満足度		10	3事業とも参加者にとっても好評だった。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	和泉地区	8点	開始時期が7月にずれ込み開催回数や企画、特に野外活動のプログラムに影響がでたが、内容で十分フォローできた。					
2	阿佐ヶ谷地区	7点	予定回数に達しないことが残念だったが外部講師の協力が事業を成功に導いた。					
3	大原地区	8点	地域住民同士が講師を受け持ち、勉強会形式の活動にしてはかなりの活気と積極的参加を促せた。					
	平均点	8点						
実行委員会全体総括	当初の予定回数では足りないほど充実した会議が開かれた。参加者も加わり画期的な意見の交換もできた。各事業は予定通り消化できた。			今後の課題	リピーターを含めた参加者の確保だが今年度のように7月開始ではモチベーションが萎えてしまう。開始までのラグをいかに繋ぐかが最大の課題である。			

都道府県名	神奈川県	市区町村名	横浜市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	(財)新教育者連盟神奈川支部実行委員会			坪田陽子				
事業名	地域住民のためのフォーラム、着物教室、講演会、みんなで学ぶ寺子屋、			代表者所属団体名				
実施地域総数	2地域			(財)新教育者連盟				
事業の目的	<p>地域住民のためのフォーラム、着物教室、講演会、みんなで学ぶ寺子屋による日本の伝統文化や年中行事を通して、三世代の交流を図り、絆を深め、地域活性化と教育力を高める。白根及び梅が丘はともに地域高齢化、少子化がすすみ人間関係が希薄になっており地域の教育力が低下している。白根地区においては、家庭問題、人生問題など気軽に話し合える場をつくり、地域の人々の交流とコミュニケーションをはかり、三世代の繋がりを大切に、連携と絆を深め、地域力を高める。梅が丘においては、三世代や地域の大人が日本の文化伝統や年中行事を共に学び支えあう活動をする事により、家族や地域の絆や連携を深め、命のつながりや世代のつながりの大切さに気づき、地域全体の活性化と教育力の向上を図る。</p>							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
少子高齢化、核家族化が進み、住民同士のつながりが希薄化し地域教育力が低下している地域の大人同士の絆と連携を取り戻し地域の教育力と活性化を図るため、子育てを考えるフォーラム、介護を考える講演会、家族の絆と大切に地域に発展を考える講演会、日本の伝統文化や年中行事を通じて3世代の交流を企画する。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				233	137	34	342	37
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				189				
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,129,680	円	事業 予算金額	1,129,680	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	9	回	実行委員会 会議 予定回数	9	回	100.0	%
	活動 実施回数	62	回	活動 実施予定回数	62	回	100.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	914	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,190	人	76.8	%
	常任スタッフ参加 延べ数	120	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	120	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	34	人	ボランティア参加 延べ予定数	6	人	566.7	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	10	ほぼ予算どおりの支出であった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	実行委員会は予定通り実施できた。各事業の事前会議と反省会はおのおの随時行った。				
3	活動 実施回数	100.0	10	予定通り実施できた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	76.8	8	地道な広報活動により参加者が増えつつあるがさらに工夫が求められる。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	途中出入りがあったもののほぼ継続して携われた。				
6	ボランティア参加 延べ数	566.7	10	予想以上のボランティアに助けられた。				
7	プログラムの充実度		10	非常に内容の濃いプログラムになっている。				
8	参加者の満足度		10	事業参加者は充実したプログラム及び能力の高い講師等に感銘を受けており継続した参加を希望している。				
Total	総合的な評価点		10	お隣や子どもの同級生の大人同士が誘い合って参加しさらに満足度を高めるように地域の企画を強化する。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	梅が丘	10点	各種プロ後ラムの実施により事業の目的に賛同しスタッフや講師として参加する地域の人の繋がりが増加した。					
2	白根	10点	子育てや介護で悩み孤立していた人たちの交流と悩みを解消する場となり世代を超えた交流の場となった。					
	平均点	10点						
実行委員会全体総括	白根地区及び梅が丘地区の地域特性に応じた学びあい支えあい地域活性化推進事業の適度な展開を行った。特に民生委員、自治会、老人会、子供会等と連携し身近な祖父母世代の人材発掘及びスタッフの充実を図った。事業活動をつたえるチラシや便りを定期的に発行し地域の関係者に配布し郵便局等多数の人が集まる場所に掲示するなど事業の広報活動に工夫した。また、講演会やフォーラムを実施する際には事業間でスタッフのボランティア支援を行うなど事業間相互の連携を緊密に行った。			今後の課題	①地域の自治会、婦人部、老人会、子供会等との連携を緊密にし身近な幅広い世代の講師やスタッフの充実に努めるとともに、行政との情報共有を更に進める。②チラシや便りの定期発行により事業広報活動を継続する。その際、より多くの人が事業内容を理解できるように公共施設での掲示に努力する。③地域の自治会館に加えて小学校施設に設置されているコミュニティーセンター等を活動場所に加え、地域の幅広い世代の方々が誘い合って参加できる環境を整備し地域の活性化と教育力の向上に引き続き貢献する。			

都道府県名	神奈川県	市区町村名	横浜市栄区小菅ケ谷	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	「祭りの音」プロジェクト・横浜中央実行委員会			広瀬 和子				
事業名	横浜中央・「祭りの音」プロジェクト			代表者所属団体名				
実施地域総数	10地域			横浜市レクリエーション協会				
事業の目的	横浜中央地域にはそれぞれの囃子が伝承されている。しかし従来、譜面を使わない口伝という形で伝承に頼ってきたため、近年その継承が困難となり、地域の重要な伝統文化が失われようとしている。この事業では、地域の人々が地域の財産である囃子に気軽に触れ、その演奏体験を通じて相互のふれあいや継続的な交流を図りたい。専門的な稽古をしていない素人でも囃子を体験できるよう譜面作成にもとり組み、住民たちが地域の伝統文化や歴史を見つめなおす機会を増やし、地域への愛着をもって世代を超えたコミュニケーションのきっかけづくりをしたい。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
横浜中央地域には、打込み・破矢・鎌倉・国がため・四丁目・他、いろいろな囃子の曲が伝承されています。それぞれの会の会員数、構成内訳もいろいろで、使用する楽器、大太鼓・締太鼓・鉦・笛です。その中でも笛は伝承が難しく、各地域で伝承している曲の全てを吹ける笛吹は、各会を平均して1～2名のみ、というのが実情です。この事業の全体的特徴は、『日本初の試み』として、各々の地域の口伝を共通の書式により譜面化し、「教えやすく・覚えやすい」教則本を作る事によって、これからの伝承の唯一の手助けになるという点です。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				50	150	100	616	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)		事業申請時の予定数		達成度			
	事業支出金額	3,979,700 円	事業 予算金額	5,292,640 円	75.2	%		
	実行委員会 会議 実施回数	4 回	実行委員会 会議 予定回数	5 回	80.0	%		
	活動 実施回数	71 回	活動 実施予定回数	83 回	85.5	%		
	スタッフ以外の参加者 延べ数	916 人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	2,617 人	35.0	%		
	常任スタッフ参加 延べ数	71 人	常任スタッフ参加 延べ予定数	83 人	85.5	%		
	ボランティア参加 延べ数	0 人	ボランティア参加 延べ予定数	0 人		%		
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	75.2	10	予算を有効活用できた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	80.0	10	適当な回数である。				
3	活動 実施回数	85.5	10	適当な回数である。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	35.0	10	主要メンバーが、ほとんど参加出来ていた。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	85.5	10	適当である。				
6	ボランティア参加 延べ数							
7	プログラムの充実度		10	大変充実していた。				
8	参加者の満足度		10	参加者は大変勉強になったようだ。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	向井町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
2	岸根	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
3	西谷町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
4	山元町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
5	矢部町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
6	白妙町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
7	川和町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
8	明神台	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
9	伊勢町	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
10	上菅田	10 点	「今、残されている囃子をどう伝承しようか」と、懸命になっている方々の手助けになったと考える為。					
	平均点	10 点						
実行委員会全体総括	全体を通し、主流となっている口伝のみの伝承では限界があると思われる。譜面づくりの専門家の養成が必須と感じた。				今後の課題	譜面づくりの専門家の養成が課題		







都道府県名	新潟県	市区町村名		実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	北信越実行委員会			柳 弘紀					
事業名	新潟県内民間「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	13地域			子ども劇場おやこ劇場新潟県センター					
事業の目的	北信越地域新潟県において、それぞれの地域のところあるおとなたちの協働としてテーマを持って学習と実践を行うことにより、子どもと若者・若い親が健やかに成長することができるように地域の教育力を高めることを目的とする。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
日本海に面し、地方の意識が高い反面、東京には近い地域でもある新潟県は、文化的には東京に依存しつつも、独自の文化も同時に併せ持つ複雑な地域である。伝統的な文化や先進的な取り組みが他所から持ち込まなくても存在することを再認識しながら、自分たちの住む地域と活動に誇りを持つことを軸とし、実践を伴いながら学習成果を高めて地域の教育力を高めていく。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				913	3639	1898	6727	2325	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	1392	4044	7235						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	3,331,010	円	事業 予算金額	3,331,010	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	9	回	実行委員会 会議 予定回数	9	回	100.0	%	
	活動 実施回数	156	回	活動 実施予定回数	156	回	100.0	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	11,279	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	11,860	人	95.1	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	372	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	372	人	100.0	%	
	ボランティア参加 延べ数	906	人	ボランティア参加 延べ予定数	564	人	160.6	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10	ほとんど予定通りの支出					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	全て予定通り開催、全員出席。					
3	活動 実施回数	100.0	10	各地域予定通りの事業回数をクリア					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	95.1	9	参加者数はばらつきがあるが全体としてはほぼ予定人数を達成					
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	担当スタッフは責任持ってそれぞれの地域を主催					
6	ボランティア参加 延べ数	160.6	10	ボランティアとして関わってくれた人が全体としては予想を超える人数となった。					
7	プログラムの充実度		5	模索段階のプログラムが多く、道半ば。目的への理解の浸透がまだまだ足りない。					
8	参加者の満足度		5	満足度は全体として高いが、趣旨を理解してもらえていない面あり。					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	加茂市	7点	浸透しつつもアピール不足。						
2	新潟市西蒲区	8点	参加者が多く満足度は高いが体験のみに傾きがち。						
3	新潟市江南区	7点	若者が多数集まって実践を良く行った反面、学習機会を生み出しきれなかった。						
4	新潟市西区黒埼	7点	地道な継続。アピール力不足。						
5	上越市	9点	満足いく内容。参加者多すぎ。						
6	十日町市	8点	地道に継続したが、学習ではなく実践・体験のみに傾いた。						
7	長岡市	9点	満足できる内容だが、繰り返しのマンネリの面も。						
8	新潟市東区	6点	地道に継続したが、参加者の主体性を引き出せなかった。						
9	新潟市西区	10点	老若男女が多数集まった。人数多すぎ。						
10	新潟市中央区	6点	ボランティアを呼び込めたが、趣旨を説明し切れなかった。						
11	西蒲原郡弥彦村	9点	若者・学生のボランティアを多数呼び込めた。趣旨違いの相談の場となった面あり。						
12	三条市	10点	参加者多数、満足度も高くリーダー養成の要素高い。若者層の呼び込みが足りない。						
13	柏崎市	9点	多数のボランティアが関わったが、震災現場ということに助けられた面あり。						
	平均点	8点							
実行委員会全体総括	どの地域においても継続的な取り組みとなったことは評価できる。どの地域においても具体的な地域の活動と絡めて事業を立ち上げたことは参加者に敷居の低さを感じさせ、参加しやすい雰囲気なものになった。反面、具体的な内容にとらわれすぎて参加者に中々事業の趣旨が理解されないくらいがあった。中央区の例だと、「視覚障害者の生きて行きやすい街づくりが地域の教育力の高い街につながる」という流れで学習を進めるつもりで講師も学習プログラムも準備したが、集まったのは「視覚障害者のためにボランティアをしたい人たち」で、講師・学習内容等に不満の声が届いた。説明不足とともに、「地域の教育力」という概念の浸透はこれからのことだということを実感した。一方で西区の取り組みのように「音楽好き」が集まったところからはじまり「音楽で町づくり」→「地域ぐるみの教育」につなげられたすばらしい実践もあった。目的とテーマの関連付けの重要性が認識された。			今後の課題	テーマと目的が乖離する(もしくはそう受け取られる)事業が目的からそれていくことがわかった。テーマは敷居が低くなるために重要だが、ある程度一般性を持つものに限ったほうがよいようである。比較的問題があったと感じられる地域の事業のテーマが、子育て・美術・ダンス不登校・障害者、うまくいったと感じられる事業のテーマが遊び・集団遊び・音楽・街並みの再学習などであったことから、遊び+文化という共通の方向性をテーマとし、それに地域性を加味した地域独自テーマをサブテーマとして位置付けていくと良いと考えられる。その上で担当者の確固たる姿勢と事業への理解により参加者と議論を重ねながら運営していく必要がある。				



都道府県名	長野県	市区町村名	小諸市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	あさま子ども教室実行委員会			柳沢よし子				
事業名	地域活性化事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	2地域			あさま子ども教室				
事業の目的	<p>近年、地域での住民同士の連帯感の欠如、人間関係の希薄化、地域教育力の低下が指摘されています。この事業では、地域に伝わる郷土料理、美化活動の体験学習を通して、世代を超えた住民相互のふれあいや交流を深め、1人でも多くの方が地域の活性化に関心を持ち、地域への愛着意識を広げ、楽しみながらコミュニケーションをとる。その中で、家族や近隣住民の交流にもつなげ、協力と連携の意識をも創る。</p>							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
少子高齢化が急速に進み、郷土料理等(伝統食)も衰退している。又地域コミュニティーもが希薄である。この事業では、人間関係、地域教育力の向上につながる交流、地域への理解かんしんについて共感する。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					200	30	230	30
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	60							
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,201,300	円	事業 予算金額	1,185,050	円	101.4	%
	実行委員会 会議 実施回数	9	回	実行委員会 会議 予定回数	9	回	100.0	%
	活動 実施回数	20	回	活動 実施予定回数	21	回	95.2	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	550	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,484	人	37.1	%
	常任スタッフ参加 延べ数	8	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	8	人	100.0	%
	ボランティア参加 延べ数	5	人	ボランティア参加 延べ予定数	5	人	100.0	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	101.4	10	予算をうまく使えた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	計画によっては、もう少し会議を増やしたい。				
3	活動 実施回数	95.2	8	計画に沿ってほぼできた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	37.1	5	予想より参加者が少なかった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	100.0	10	全員の参加協力があつた。				
6	ボランティア参加 延べ数	100.0	10	全員の参加協力があつた。高校生の呼びかけを早めに行く。				
7	プログラムの充実度							
8	参加者の満足度							
Total	総合的な評価点		7	ほぼ計画通りにできた。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	東中学校区	6	時期的な遅れや、災害等もあり参加者が少なかったが計画通りに運べた。					
2	小諸市内	10	世代を超えた参加者が望め、交流も深められた。					
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
	平均点	8						
実行委員会全体総括	参加者の募集について、範囲が広がるようであれば、地区PTAや自治体の協力が必要。異世代の参加者が望め、目的には達成したのではないかと。				今後の課題	参加者の関心に合わせた企画計画が必要、今後は地域の方々と懇談をしながら意見等を取り入れていく。		

都道府県名	長野県	市区町村名	小諸市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	清水の郷実行委員会			高橋 美晴				
事業名	「学びあい・支えあい地域活性化事業」			代表者所属団体名				
実施地域総数	1地域			清水の郷				
事業の目的	活力ある安全安心な地域としての確立。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
地方行政が停滞しており、行政同士のエゴが水面下で衝突している。地理的には首都圏から近く、地域資源の活用を図り新事業を起業することにより、若者を育てていくことが出来ると期待できる。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				12	236		712	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				30				
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	1,039,750	円	事業 予算金額	1,039,750	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	7	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	140.0	%
	活動 実施回数	120	回	活動 実施予定回数	100	回	120.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	742	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,500	人	49.5	%
	常任スタッフ参加 延べ数	360	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	250	人	144.0	%
	ボランティア参加 延べ数	582	人	ボランティア参加 延べ予定数	700	人	83.1	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	10	事前に活動資金の用意が出来たので達成できた数字である。				
2	実行委員会 会議 実施回数	140.0	10	交通費の負担ほか、実施時の食事代など、規定された経費以外の負担をもつことができたから。				
3	活動 実施回数	120.0	10	上に同じ。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	49.5	7	広報活動が早くから始められなかった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	144.0	10	多忙の中をよく参加してくれた。				
6	ボランティア参加 延べ数	83.1	5	未体験者が多かった為。				
7	プログラムの充実度		8	新しい試みなので、作業内容を変更せざるを得ないことが多かった。				
8	参加者の満足度		8	参加することの意義を履き違えている人は満足できなかっただろうと感じた。				
Total	総合的な評価点		9	地域のリーダーを多く育成できなかった。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	小諸市内	9 点	県教委との連携はうまく取れたが、小諸市教委との連携が全く取れなかった。					
2	地域外	9 点	県内地域に2箇所、新規組織が作れた。					
3	首都圏	8 点	不登校児の相談が多く、組織がひとつ作れた。					
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
	平均点	9 点						
実行委員会全体総括	広報活動が出遅れたこともあり、予定通りにいかなかったことや、小諸市教委との連携が取れなかったことなどのマイナス点を入れても、総合評価9点は妥当な数字であると思う。かなりの自己負担もあったが、スタッフたちとも信頼関係が出来ており、この事業に対する理解と熱意があったからこそここまで漕ぎ着けることが出来たと評価している。			今後の課題	① 地域リーダーの育成と、安全・安心な地域づくりを継続して取り組む。 ② 地域内の各家庭に環境問題についての意識を高める為の活動に取り組む。 ③ 地域資源の活用による新事業を立ち上げ、青少年や高齢者の雇用の場を作る。			

都道府県名	愛知県	市区町村名	名古屋市	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	学びあい支えあい愛知実行委員会			山口 君子					
事業名	学びあい支えあい地域活性化事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	13地域			特定非営利活動法人 名古屋おやこセンター					
事業の目的	地域のつながりが希薄になりつつある状況の中、交流の場を設け豊かなコミュニケーションを育み、地域活動についても関心を高め、自然や昔ながらの行事を伝えあう活動を通して、世代間交流をしていくことを目的とする。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
地域のつながりが希薄になっている状況は、都市、郊外の地域差はあまりなく自然の中に身を置く機会や世代間交流ができにくく、どの地域でもより豊かな人間関係を構築していく経験は、とても貴重になっています。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				500	1500	150	4000	830	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	300								
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	6,450,000	円	事業 予算金額	6,453,585	円	99.9	%	
	実行委員会 会議 実施回数	6	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	120.0	%	
	活動 実施回数	319	回	活動 実施予定回数	319	回	100.0	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	7,280	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	7,670	人	94.9	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	780	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	638	人	122.3	%	
	ボランティア参加 延べ数	760	人	ボランティア参加 延べ予定数	630	人	120.6	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	99.9	10	予算内に実施できた。					
2	実行委員会 会議 実施回数	120.0	10	地域の離れた実行委員がコミュニケーションを取ることができたことで豊かな事業となった。					
3	活動 実施回数	100.0	10	予定通りに実施できた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	94.9	9	広報が難しく参加者増にならなかった。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	122.3	10	多くの人の関わりを実感できた。					
6	ボランティア参加 延べ数	120.6	10	地域の人の意識が向上した。					
7	プログラムの充実度		9	良質な企画を立てたが、参加者増につながらなかった。					
8	参加者の満足度		10	参加者は一応に満足していた。					
Total	総合的な評価点		10						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	名古屋市千種区	9 点	高齢者も忙しく、この事業の理解を得るのに時間がかかった。また、地域に広報していく難しさがあつた。						
2	愛知県美和町	9 点	おおむね計画通りに実施できた。						
3	愛知県江南市愛栄通り	9 点	おおむね計画通りに実施できた。						
4	愛知県江南市古知野町	9 点	多文化共生の理解を深めることが難しかった。						
5	愛知県江南市古南校下	9 点	おおむね計画通りに実施できた。						
6	名古屋市天白区植田東	9 点	おおむね計画通りに実施できた。						
7	名古屋市天白区島田	9 点	自然を遊びの楽しさを伝えることができた。						
8	名古屋市天白区平針	9 点	自然を遊びの楽しさを伝えることができた。						
9	愛知県北名古屋市	9 点	親子での参加が多く、広がりをもっと持たせることができれば良かった。						
10	愛知県半田市成岩	9 点	スポーツを通して親子、地域住民が楽しみ、交流のきっかけ作りとなった。						
11	愛知県半田市宮池	9 点	親子での参加が多く、広がりをもっと持たせることができれば良かった。						
12	愛知県豊橋市	9 点	多文化共生の理解を深めることが難しかった。						
13	名古屋市昭和区	9 点	親子での参加が多く、広がりをもっと持たせることができれば良かった。						
	平均点	9 点							
実行委員会全体総括	概ね計画通りに実施できた地域が多くあり、スタッフの努力で地域住民との理解も深められた。次の世代へつなげることは、大人の役割であり、それを継続していくことの必要性を感じた。			今後の課題	良い企画であっても参加者に伝わらなければ良いものにならないので広報をどのようにすればより多くの市民に届けられるのが今後の課題です。				



都道府県名	愛知県	市区町村名	名古屋市昭和区円上町	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	「祭りの音」プロジェクト・愛知尾張地区実行委員会			水野雅広				
事業名	愛知尾張地区・「祭りの音」プロジェクト			代表者所属団体名				
実施地域総数	6地域			尾張太鼓・知立神社保存会				
事業の目的	愛知尾張地区には様々な神楽が伝承されている。しかし従来、譜面を使わない口伝という形での伝承に頼ってきたため、近年その継承が困難となり、この地域の重要な伝統文化が失われようとしている。この事業では、地域の人々が地域の財産である笛や太鼓に気軽に触れ、その演奏体験を通じて相互のふれあいや継続的な交流を図りたい。専門的な稽古をしていない素人でも笛や太鼓を体験できるよう譜面作成にもとりくみ、住民たちが地域の伝統文化や歴史を見つめなおす機会を増やし、地域への愛着をもって世代を超えたコミュニケーションのきっかけづくりをしたい。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
地域性と言うよりも全ての団体が抱える問題が笛吹の養成。笛吹が絶えることによって伝承が途絶えてしまう。いかにして笛吹を育てるか。この事業の特徴は、笛吹を育てるために各々の地域に伝わる口伝を、共通の書式により譜面化し、「教えやすく・覚えやすい」教則本を作る。これからの伝承の唯一の手助けになる『日本初の試み』という所です。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
							192	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	2,165,425	円	事業 予算金額	3,184,475	円	68.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	4	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	80.0	%
	活動 実施回数	37	回	活動 実施予定回数	48	回	77.1	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	155	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,392	人	11.1	%
	常任スタッフ参加 延べ数	37	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	48	人	77.1	%
	ボランティア参加 延べ数	0	人	ボランティア参加 延べ予定数	0	人		%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	68.0	10	限られた予算を有効活用している。				
2	実行委員会 会議 実施回数	80.0	10	問題なし。				
3	活動 実施回数	77.1	10	問題なし。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	11.1	10	主たる保存会のメンバーはほとんど参加している。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	77.1	10	問題なし。				
6	ボランティア参加 延べ数							
7	プログラムの充実度		10	何もなかったところからの出発なので満足。				
8	参加者の満足度		10	出来なかったことが出来るようになり、知らなかったことを知ったり大満足。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	大喜町	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
2	向ヶ丘	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
3	西町神田	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
4	中根東	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
5	高針	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
6	笠寺	10 点	次の世代へ伝承する為に真剣に取り組んでいる。					
	平均点	10 点						
実行委員会全体総括	口伝のみの伝承には現代社会では限界があると思います。譜面づくりの専門家の養成が必要です。			今後の課題	専門家の養成。			

都道府県名	大阪府	市区町村名	大阪府和泉市・阪南市・泉南郡岬町	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	子どもNPO大阪府実行委員会			高島 千都					
事業名	「何でもありコンサート」「親育ち・子どもの権利条約学習会開催」「親子の自然体験」			代表者所属団体名					
実施地域総数	3地域			子どもNPOセンターいずみっ子					
事業の目的	<p>少子化、核家族化に伴う子どもの異年齢集団が失われたことによる、大人集団のかたよりや、そのなかでの大人の価値観の多様化、個人主義の蔓延により、ふれあい交流できる地域社会が失われているなかで、子どもの社会性も育たないという地域の課題がある。地域の親や大人を対象とした「学習する機会」「親子で交流する機会」「幼児から青年層までの家族が、自由な発想の中で表現する機会」というさまざまな手法に応じた事業を実施する中で、失われた地域社会を再構築するきっかけとなるような事業を実施し、地域の絆づくりに貢献する。</p>								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
3地域の実施による各地域性によれば、中高年齢層中心の和泉市は若年成人層の参加を誘引するしくみづくりが求められている。大阪最南端の岬町は、地理的に長い地域により、つどうべき集落の分散化が、さらに社会作りを困難にしている背景にある。郊外にもかかわらず核家族化などの社会構造は同じで、住まう人が好む嗜好性は、都市部との格差は感じられず、地域の問題を感じる人たちがこのように実行委員会として問題を共有し、さまざまな地域社会作りを目指すことに共通認識を持っている。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				87	304	58	540	53	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
				51		254			
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	1,541,475	円	事業 予算金額	1,541,475	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%	
	活動 実施回数	23	回	活動 実施予定回数	23	回	100.0	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	772	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	765	人	100.9	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	127	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	140	人	90.7	%	
	ボランティア参加 延べ数	184	人	ボランティア参加 延べ予定数	145	人	126.9	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10	計画通り実施できた。					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	計画通り実施できた。					
3	活動 実施回数	100.0	10	計画通り実施できた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	100.9	10	計画通り実施できた。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	90.7	9	おおむね計画通り実施できた。					
6	ボランティア参加 延べ数	126.9	10	計画通り実施できた。					
7	プログラムの充実度		10	計画通り実施できた。					
8	参加者の満足度		10	アンケートによる。					
Total	総合的な評価点		10	計画通り実施できた。					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	和泉市	9 点	おおむね計画通り実施できた。						
2	阪南市	8 点	計画通り実施したが、成果を踏まえて今後の課題・展望を持つ必要がある。						
3	泉南郡岬町	9 点	おおむね計画通り実施できた。						
	平均点	9 点							
実行委員会全体総括	<p>地域の課題に取り組むべく、地域の大人が「学びあい、支えあい」という大きなテーマに向かって実行委員会を持つ中で、さまざまな取組みを行った。中高年齢層が若年成人層に向けてしかけた和泉市の「なんでもありコンサート」、幼児から小学生・中学生を持つ親を対象にした学習の機会「親育ち・子どもの権利条約学習会開催」、親子で自然を体験することを通して、地域の大人とのかかわりを実感してもらったりくみの「親子の自然体験」と、地域性を生かした内容を実施した。大人が学びあったり支えあったりするきっかけづくりとなった。</p>			今後の課題	<p>大人が学びあい、支え合うためのきっかけは今後も必要であり、今年度体験した人々が、続けて実行できるような取組みが必要である。また、今回実施しなかった取組みもプラスして、より地域の課題を解決するような内容を検討することも必要である。</p>				







都道府県名	奈良県	市区町村名	奈良市	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	奈良東部子どもNPO実行委員会			仲川 元庸					
事業名	学びあい支えあい地域活性化推進事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	11地域			特定非営利活動法人 奈良NPOセンター					
事業の目的	奈良市東部地域の活性化を図る。子どもから高齢者までの様々な世代を巻き込み、地域の絆を深める。この事業終了後も活動を継続していくことで、住民自らが活性化に取り組んでいくことを目的とする。								
	地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
奈良市東部地域は歴史ある街並み、住宅街、団地、新興住宅街、市街地などが混在した環境にある。人口は比較的多いが、地域によっては高齢者の割合が高く、また、街の機能が郊外に移り空洞化が進んでいる所もある。また、新興住宅街などは若い世代や他地域からの移住者が多く、地域間のつながりは希薄である。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				424	979	121	1297	260	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	957	1486	1824						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	3,642,500	円	事業 予算金額	5,681,900	円	64.1	%	
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%	
	活動 実施回数	169	回	活動 実施予定回数	188	回	89.9	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	9,418	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	9,330	人	100.9	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	562	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	658	人	85.4	%	
	ボランティア参加 延べ数	419	人	ボランティア参加 延べ予定数	408	人	102.7	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	64.1	7	予算内で収まった。					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り実施できた。					
3	活動 実施回数	89.9	9	ほぼ予定通りとなった。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	100.9	10	予定通りの参加者数となった。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	85.4	9						
6	ボランティア参加 延べ数	102.7	10	予想以上に協力を得ることができた。					
7	プログラムの充実度		8	充実したプログラムを実施できた。					
8	参加者の満足度		8	主体的に参加してくれる方もいて、参加者も概ね満足していた。					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	佐保	7点	時間的ゆとりがなく第4曜日の活動が充実できなかった。						
2	飛鳥	6点	概ね満足行く結果となった。						
3	明治	5点	ボランティアスタッフの参加がなかった。						
4	上北山・天川村								
5	平城京	7点	身近な地域のことを取り上げて活動してきたので、何度も参加してくれた。						
6	北町	7点	参加者が少ないイベントもあった。広報とプログラムの内容に改善すべき点がある。						
7	高の原	7点	初年度についてはまますだと思えます。						
8	平松	7点	費用の使い勝手が悪かった。充実した内容であったが広報方法は考え直す必要がある。						
9	北市	8点	月1回行い、環境問題を地域で考えることが出来た。地域での広がりを持たせることが今後の課題。						
10	富雄南	9点	関係諸団体からも積極的な参加があり、大変充実したプログラムを実施できた。						
11	生駒市菜畑壺分	7点	次年度に向けての大きな土台づくりができたことに関する評価が高いです。						
	平均点	7点							
実行委員会全体総括	どの地域も概ね満足いくものであった。地域に呼びかけボランティアスタッフや講師など人材確保に苦労している地域もある一方で、地域の様々な団体から積極的な申し出や参加があり、連携がより深まった地域もある。運営面では予算の費目が使いにくく、各地域とも苦労した。今後、住民自らが事業を実施していけるような組織づくりができたように思われる。						今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定して定期的な運営により地域での定着を目指すとともに一層の広がりを持った活動を目指す。</li> <li>的確な状況把握から地域に巻き込むターゲットを絞る。</li> <li>高齢者施設、国際交流施設、障害者施設などとの連携を深め、より様々な立場の人々を巻き込む。</li> </ul>	

都道府県名	奈良県	市区町村名	奈良市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	奈良西部子どもNPO実行委員会			小島 道子				
事業名	学びあい支えあい地域活性化推進事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	10地域			えんがわ文庫				
事業の目的	社会構造が急激に変化し地域住民のつながりが希薄化している今、家族間、地域住民の絆を深め、健全なまちづくりを目指す必要がある。住んでいる地域環境に根ざした世代間交流ができることをテーマに地域住民である子どもから大人、高齢者までを巻き込み、活気あふれる安全な街づくりを展開する。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
奈良西部地域は山間部と新興住宅地が混在した地域である。新興住宅地として開発されて30年ほど経った地域ではリタイア組の存在も目立つ。そういった世代の持つ豊富な知識や経験を活かし、若い世代との相互理解を深め、地域の活性化を図った。山間部では、高齢化過疎化が進み、荒廃した棚田や里山を拠点とし、高齢者から若者へ昔ながらの自然との共生を伝え、地域住民全体で地域の活性化を進めた。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				802	1455	152	2184	297
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	560	288	478					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	4,138,800	円	事業 予算金額	5,149,420	円	80.4	%
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%
	活動 実施回数	189	回	活動 実施予定回数	199	回	95.0	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	4,841	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	5,160	人	93.8	%
	常任スタッフ参加 延べ数	394	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	408	人	96.6	%
	ボランティア参加 延べ数	604	人	ボランティア参加 延べ予定数	574	人	105.2	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	80.4	8	予算内で収まるように心がけた。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り実施できた。				
3	活動 実施回数	95.0	9	概ね予定通りに行えた。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	93.8	8	予想より少し少なかった。広報力に問題がある。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	96.6	9	ほぼ予定通りのスタッフで運営できた。				
6	ボランティア参加 延べ数	105.2	10	予想よりたくさんの方の協力を得ることができた。				
7	プログラムの充実度		8	多種多様なプログラムを実施できた。				
8	参加者の満足度		8	認知度が高まり固定客もできた。				
Total	総合的な評価点		9	全体的にどの地域においても運営、プログラムの内容は満足のいく結果となった。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	六条	7点	参加者の主体的な動きが見られた。					
2	鳥見	8点	参加者自身が主体的に動けるようにする必要がある。					
3	学園大和	9点	非常に有意義な事業展開となっている。体験学習イベントの募集と高齢者の参加を見直す必要はある。					
4	生駒中央	8点	初年度のため分からないこともあったが、とりあえずは満足いく結果となった。来年度は今年度できなかったことに挑戦したい。					
5	西ノ京	9点	スタッフがぎりぎりであったが、概ね充実したものであった。					
6	西畑	8点	全体的には満足。準備不足であった時もあった。					
7	朝日	9点	ボランティアの企画段階での参加を促す。					
8	登美が丘	8点	企画内容が定番化し、斬新なものがない時もあったが、それ以外の点ではほぼ満足。					
9	小明町	7点	年間のプログラムの工夫をしていきたい					
10	二名町	6点	実施回数が少なかった。新規参加者が伸び悩んでいる。					
	平均点	8点						
実行委員会全体総括	概ね充実した内容であった。企画内容はどの地域も創意工夫が見られ、参加者もスタッフも楽しみながら実施できた。ただ、やはり財政面ではどの地域も予算の使い方に苦労した。ボランティアスタッフやキーパーソンとなる人材の確保に苦労する地域も見受けられた。その一方で事業に携わる人数が増えて、豊富な知識や技能を発揮できた地域もあった。また、子どもだけでなく大人の居場所づくりになったことは非常に良かったと思う。			今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、他団体、行政、公民館などの施設との連携強化。</li> <li>・スタッフ、人件費の確保。</li> <li>・今後も継続していくために人材の育成、新しい人材の確保。・会場確保。</li> <li>・参加者の能動的な働きが生まれるための地域づくり。</li> <li>・広い範囲での広報。</li> </ul>			

都道府県名	奈良県	市区町村名	奈良市	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	奈良南部子どもNPO実行委員会			仲尾 京子				
事業名	学びあい支えあい地域活性化推進事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	10地域			地球の宝を守り隊				
事業の目的	高齢化が進むこの地域で地域住民が丸となって課題解決に取り組み、活力ある地域環境作りを目指す。							
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳				
奈良南部地域はかつては農家が多く、今では県内でも高齢化過疎化が著しく進んでいる地域である。その一方で大阪のベッドタウンとしての新興住宅地も点在する。かつて農業を営んでいた高齢者から子育て中の若い世代や子どもまでが一緒に地域活性化を目指した。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				518	6272	620	1607	1173
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	820	1054	1054					
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	4,632,605	円	事業 予算金額	5,288,450	円	87.6	%
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%
	活動 実施回数	418	回	活動 実施予定回数	395	回	105.8	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	9,134	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	12,170	人	75.1	%
	常任スタッフ参加 延べ数	1,436	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	1,344	人	106.8	%
	ボランティア参加 延べ数	950	人	ボランティア参加 延べ予定数	919	人	103.4	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	87.6	8	活動に必要な費目ごとのバランスが良くなかった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り実施できた。				
3	活動 実施回数	105.8	9	予定より多くなった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	75.1	7	予想より少なかった。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	106.8	10	予定通りだった。				
6	ボランティア参加 延べ数	103.4	10	予想以上に協力してくれる人がいて良かった。				
7	プログラムの充実度		8	どのプログラムも充実していて、企画の段階から良く練られていた。				
8	参加者の満足度		8	ほとんどの参加者に満足していただけたようだ。				
Total	総合的な評価点		9					
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1	榛原	6点	積み重ねと新しいことへ挑戦していくこと。					
2	大野	7点	定着化を図りたい。					
3	小泉	8点	低学年が集まるので昔遊びなどが主体になり、その良さを体験できた。外での行事が少なかった。					
4	桜井浅古	7点	スタッフが中心となり意識を高めボランティアとの連帯をもっと、とらなければならない。					
5	大和高田	7点	「地域教育力」=まず興味を持ってもらえる魅力的な事業展開の重要性がよく分かった。					
6	田原本	8点	次回を待っていているようで嬉しい。					
7	橿原市	5点	予想以上に参加者が少なかった。					
8	三の丸	8点	怪我もなく安心安全で実施できた。					
9	真美が丘	8点	さらに内容を充実させるための工夫が必要だと感じた。					
10	河合	8点	講師の充実が必要。					
	平均点	7点						
実行委員会全体総括	全体的には充実した事業内容を展開できた。ただ、予算の費目と実際の活動に必要な費目のバランスが悪かったため、どの地域も財政的な運営面で苦労した。参加者の集まりが悪かった地域やグループの認知度が低い地域など広報の面で苦闘している地域もいくつか見られた。プログラムの内容自体はどの地域も大変充実したものであり、参加者も概ね満足していた。また、地域の人々や小学校などとの連携も大変深まり、来年度はさらに充実した事業展開ができそうである。			今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報の改善、活動の認知度を高める。</li> <li>・さらに充実した企画にするための人材育成。</li> <li>・事業を継続していくためのキーパーソンの育成やスタッフの増加。</li> <li>・地域の人々との直接的なコミュニケーション。</li> </ul>			







都道府県名	広島県、山口県	市区町村名		実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	中四国子どもNPO実行委員会			小笠原由季恵					
事業名				代表者所属団体名					
実施地域総数	9地域			特定非営利活動法人 子どもコミュニティネットひろしま					
事業の目的	地域住民が、地域の課題を解決するための学習の場や、様々な体験活動に参加することを通じて、交流しあい、新たな絆がつくられていくことを共通の課題とし、さらに、広域で、かつ都市部と中山間部という多様な地域のメンバーによる実行委員会の構成をいかして、実行委員会を地域間交流の場としていく。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
山口県、広島県内の、子どもの居場所づくり、子育て支援や芸術体験活動などをすすめている団体・グループが集まって、子どもやアート体験の力を地域社会での多世代のつながりや学びに活かしていく方向性が共通した特徴となっていた。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				1387	1157	202	1851	160	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
			139	98	1194				
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	4,800,000	円	事業 予算金額	5,096,110	円	94.2	%	
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%	
	活動 実施回数	150	回	活動 実施予定回数	141	回	106.4	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	4,947	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	6,159	人	80.3	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	467	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	370	人	126.2	%	
	ボランティア参加 延べ数	402	人	ボランティア参加 延べ予定数	366	人	109.8	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	94.2	9	執行できない経費が					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	8	計画的に開催し、広域間での情報交換等、有益な会がもてたが、全員参加にならないこともあった。					
3	活動 実施回数	106.4	9	全体的には、ほぼ予定どおり実施していくことができた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	80.3	7	参加が広がった活動がある一方、広報の弱さなどから、目標数に達しない活動が一部あった。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	126.2	9	ほぼ予定どおりの常任スタッフを確保し、計画的に事業を実施運営することができた。					
6	ボランティア参加 延べ数	109.8	9	ほぼ予定どおりのボランティアスタッフを確保し、円滑に事業を実施運営することができた。					
7	プログラムの充実度		9	各分野の多彩な講師を得て、各プログラム共通して、非常に充実していた。					
8	参加者の満足度		9	参加者が各活動を楽しんでいる様子が見られ、満足度が高かった様子が見られる。					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	広島県広島市佐伯区	9 点	内容が充実して開催でき、参加人数も予定より多く、スタッフなど多くの方々との協力を得られた。熟年層など世代間の広がり課題が残った。						
2	広島県三次市	9 点	スタッフのモチベーションが高く、スタッフ自身を楽しむことで参加者も広がっていった。学生など、若い人への働きかけが今後の課題						
3	広島県神石郡神石高原町	9 点	狭い地域の中で、子ども・和太鼓をきっかけにしながら、おとなの中に参加や関心が生まれ、交流の幅が広がってきた。						
4	広島県府中市	8 点	子ども・和太鼓をきっかけにしながら、地域の方々の関心が生まれ、大人同士の交流ができてきた。						
5	山口県宇部市東部	7 点	講座内容は良く、交流の場をもつことで、ネットワークが広がった。広報が弱かったため、参加者の広がりに課題が残った。						
6	山口県宇部市西部	9 点	遊びや表現活動等の「学び」を、多彩な実践の場につなげることができた。男性の参加等、幅を広げ継続的な参加をつくっていくことが課題。						
7	山口県下関市	7 点	プログラムは充実していた。複数の子育て支援団体が力を合わせ、教育委員会等も巻き込み実施できた。参加数が目標に及ばなかった。						
8	山口県岩国市	9 点	幼児から年配の方まで、異世代の幅広い人たちが参加し、交流が広がった。一方、ボランティアスタッフの参加が広がればよかった。						
9	山口県山口市	9 点	提供される文化プログラムが向上し、参加した青少年たちの成長とともに、学校や地域(周囲)とのつながりも広がってきた。						
	平均点	8 点							
実行委員会全体総括	地域の「新たな」絆をつくっていくという趣旨に照らして、対象としては、未来志向で子ども・子育て世代を核に、プログラムとしては、「自己実現」「他者理解」「交流・コミュニケーション」を促すアート・文化体験もつ、世代を超えた「つながり機能」をいかした展開が生まれた。参加者の満足度も高かった。また、山口県・広島県という広域で実行委員会を構成したことで、都市部と中山間部という多彩な地域実践を共有化できた。			今後の課題	今年度つくってきた、充実したプログラム、満足度が高かった参加者、スタッフの高いモチベーションを、地域における多世代の参加や学校や公的機関などとの連携につなげていくこと。				

都道府県名	山口	市区町村名	山口	実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	あっちこっちdeアート実行委員会			山本 有希				
事業名	あっちこっちdeアート事業			代表者所属団体名				
実施地域総数	9地域			NPO法人子どもステーション山口				
事業の目的	<p>近年子どもを取り巻く事件・事故が多発し、地域で子どもを見守る体制がのぞまれているが、より重要かつ有効となるのは、地域に「子どもを見守るおとなたちの絆」を作り、育てることではないかと考える。そこで「子どもを見守る」をテーマとした地域のおとなたちによる事業にとりくむ中で、おとなも子どもといっしょに異年齢の仲間づくりをすすめ、地域のコミュニケーションをゆたかにし、信頼を深められる地域コミュニティを育てることを目的とする。</p>							
				参加者延べ人数内訳				
山口市は、気候・風土・人間性ともに穏やかな地域であるが、子どもを取りまく環境ということでは、他の地域とさしたる差はなくなってきている。子どもを事故や事件から守るために「子ども見守り隊」などもでき、また緊急時には携帯電話によるいっせいでメールが発信されるようになった。しかし、子どもを守るために本当に大切なことは、おとなと子どもが信頼しあえる顔の見える地域をつくることにあると考えて今回の事業を行った。事前学習会・ワークショップ・実行委員会・公演とさまざまにおとなが寄り合い、子どもを語り、子どもといっしょに活動することで互いの信頼関係を築く力となった。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
				82	795	56	450	78
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
				58				
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度	
	事業支出金額	614,500	円	事業 予算金額	614,500	円	100.0	%
	実行委員会 会議 実施回数	7	回	実行委員会 会議 予定回数	7	回	100.0	%
	活動 実施回数	17	回	活動 実施予定回数	18	回	94.4	%
	スタッフ以外の参加者 延べ数	1,519	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,575	人	96.4	%
	常任スタッフ参加 延べ数	120	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	130	人	92.3	%
	ボランティア参加 延べ数	225	人	ボランティア参加 延べ予定数	240	人	93.8	%
事業実績の自己評価								
	実績項目	達成度	自己評価点					
1	事業支出金額	100.0	10	予算通りに執行することは、厳しかった。				
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	実行委員会の日程調整に苦労した。会議は予定通り行った。				
3	活動 実施回数	94.4	8	講師の都合により、事前学習会を一回減じたことは残念だった。				
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	96.4	9	公演参加者が予定より減であったが、事前学習会・ワークショップは盛況で成功した。				
5	常任スタッフ参加 延べ数	92.3	9	少ない人数で事業実施に苦労したが、実務経験のあるアルバイトがいて事業を完了できた。				
6	ボランティア参加 延べ数	93.8	9	ボランティアスタッフについては、非常に協力的で事業成功のかぎとなった。				
7	プログラムの充実度		10	事前学習会・ワークショップ・公演すべてプログラムが充実していた。				
8	参加者の満足度		10	上記理由と講師の人柄により、参加者の満足度は非常に高かった。				
Total	総合的な評価点		9	総合的に実行委員会事務局としては非常に満足のいく結果だったと思っている。				
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価								
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由					
1		点						
2		点						
3		点						
4		点						
5		点						
6		点						
7		点						
8		点						
9		点						
10		点						
11		点						
12		点						
13		点						
	平均点	点						
実行委員会全体総括	事前学習会とワークショップを行うことで、地域におけるおとなと子どものコミュニケーションが増し、信頼関係を築くことができた。講師の人柄もあつて、参加者は非常に満足していた。学校や幼稚園のなかでも話題となった。少ない常任スタッフの状況で、各会場となった地域のボランティアスタッフの果たす役割りは大きかった。			今後の課題	今回、おとなも子どもも信頼関係を築くことができたことは、非常に成果のあったことだと考える。今後、この地域の関係を継続していくために、交流のきっかけとなる日常的な小さなあつまりなど、地域の人材が自主的に企画する事業継続を考える必要があると思う。			



都道府県名	福岡県、熊本県、長崎県	市区町村名	福岡市、田川市、田川郡、熊本市、熊本	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	北部九州ブロック実行委員会			須本 恭雄					
事業名	北部九州「学びあい支えあい」地域活性化推進事業			代表者所属団体名					
実施地域総数	12地域			特定非営利活動法人 子どもNPOセンター福岡					
事業の目的	地域に存在する問題に対して、場をつくることで、住民自身が気付く機会を作り、場に集うことで、さまざまな立場や世代の人たちが、自然と相互に助け合うような町になるようにする。								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
続々と新しく越してくる中流の核家族と、昔からある家庭、そして飲食+歓楽街を中心に流入出を繰り返している外国籍の人々、高齢化に悩む日雇い労働者地域など、いろいろな地域が混在して、巨大な街を形成しているがために、お互いが交わることが難しく、孤立化していく傾向もある。その中で福祉、子育て、教育、まちづくりなどの問題をアートというツールを通して顕在化し、人々を交わらせ、自主的に相互支援のできる状況に変えていこうという取り組みをしてきた。				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				289	2231	253	1838	252	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	422	2145	3140						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	6,443,400	円	事業 予算金額	6,443,400	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	5	回	実行委員会 会議 予定回数	5	回	100.0	%	
	活動 実施回数	229	回	活動 実施予定回数	195	回	117.4	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	5,071	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	5,572	人	91.0	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	584	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	621	人	94.0	%	
	ボランティア参加 延べ数	431	人	ボランティア参加 延べ予定数	432	人	99.8	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10	予算通り支出できた					
2	実行委員会 会議 実施回数	100.0	10	予定通り開催した					
3	活動 実施回数	117.4	10	活動内容が深まり、予定以上に実施した地域もあった					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	91.0	9	ほとんどの地域で、広報の問題や他の事業との重なりから、安定した参加者が確保できなかった					
5	常任スタッフ参加 延べ数	94.0	9	2つの地域で他の事業との重なりから、予定を下回る参加となった					
6	ボランティア参加 延べ数	99.8	9	ほぼ予定どおりの参加者だった					
7	プログラムの充実度		9	多様なプログラムで地域の特徴を生かしたプログラムも組めた					
8	参加者の満足度		9	概ね満足度が高かったが、リピーターが少ない地域もあった					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	福岡市東区東箱崎	9 点	地域の様々な団体と協力して取り組むことで、内容の深さにつながりが強まった。団体の責任者が多く、スケジュールが合わないことも多かった。						
2	福岡市博多区	9 点	実施回数も多くなり、ほとんど予定通りだが、スタッフ以外の参加人数が予定を下回った。地域各団体との協力関係をもっとつくる必要がある。						
3	福岡市南区	9 点	ほぼ予定通りの実施だったが、スタッフ以外で団塊世代、成人の参加が伸び悩んだ。地域の公共施設との協力関係を強める必要がある。						
4	福岡市東区箱崎	9 点	ほぼ予定通りの実施だったが、広報不足で参加者が予定を下回った。						
5	福岡市東区筥松	9 点	地域の協力関係も出来、ボランティア参加も多くつながりが深まっていった。活動の初期が参加が少なく、地域への広がりに時間がかかった。						
6	福岡市早良区	9 点	予定以上の実施回数で、参加者も多く、地域に徐々に広がった。環境、食育、国際交流など幅広い活動を行い参加者の満足度も高かった。						
7	福岡市東区名島	10 点	小・中学校、地域の様々な団体含めてつながりが出来、地域の歴史も含めて自分たちの地域をよく知り、地域のつながりの輪が広がった。						
8	田川市・田川郡	10 点	予定通りの実施が出来、参加者も多かった。これからも継続を望む声が高い。						
9	熊本市	9 点	ほぼ予定通りの実施だったが、広報不足のため参加者が増えなかった。様々な生活体験活動を実施し参加者の満足度も高かった。						
10	長崎県壱岐市	9 点	ほぼ予定通りの実施だったが、プログラムによって参加者のばらつきがあり、予定に少し足りなかった。リピーターも少なくない要検討課題もある。						
	平均点	9 点							
実行委員会全体総括	初年度ということで、準備や体制づくりなどに時間が取られ、広報が十分でなく、スタッフ以外の参加者数が予定の9割程度と課題も残ったが、内容としては、それぞれの地域の特長を生かした豊かなプログラムとなった。参加者の満足度も高く、どの地域も継続事業が望まれている。また、参加者の層も大きく広がり、地域の自治協議会との協力、子ども会育成会との協力、小・中学校との協力など、ネットワークが広がっていった地域が多かった。地域のきずなづくりという目的に対しては、広がりのきっかけ作りとなった1年となった。			今後の課題	活動計画の具体化を早めに行い、計画的で迅速な広報活動を行う。男性の参加や子育て中の大人の参加を増やすように企画内容を検討する。地域の色々な役員の方達がスタッフとして入っている地域もあり、他の事業との重なりも多かったため、早めに内容を精選していく必要がある。				



都道府県名	佐賀県	市区町村名	三養基郡基山町・佐賀市・武雄市		実行委員会代表者氏名				
実行委員会名	さがを元気にする実行委員会				川副知子				
事業名					代表者所属団体名				
実施地域総数	3地域				特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構				
事業の目的	<p>・地域住民が、それぞれの地域課題を地域住民で認識し合い、互いに協力して支えあう地域環境作りに多くの人々が参加し、役割分担をして実動することが求められている。それぞれが継続活動ができる体制をつくる。</p>								
地域性と事業の全体的特徴					参加者延べ人数内訳				
<p>・基山町は福岡市への通勤圏内にあり人口増。いわゆる新住民が旧住民を越え、地域力も低下。両親が働く家庭も増え学童保育の充実や子育てがしやすい環境づくりが必要。この現状を住民が互いに協力し支えあう地域環境作りが求められる。</p> <p>・佐賀市の鶴見校区は佐賀中心商店街を抱え、その商店街の衰退に伴い様々な問題を抱えた地域でもある。校区の住民が安心して心豊かに暮らすため、課題を見つけ、役割分担し、継続活動ができる体制づくりを進める。</p> <p>・武雄市は約1年前に合併して大きくなった市。温泉地として発達した所だが、近年中心温泉街も含めてまちに元気がなく、祭りを行っても今ひとつ盛り上がりせず、高齢化が進む。</p>					未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代
					0	97	64	128	362
					高齢者	男性のみ	女性のみ	その他	
	219	444	426						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	1,106,744	円	事業 予算金額	1,325,704	円	83.5	%	
	実行委員会 会議 実施回数	2	回	実行委員会 会議 予定回数	4	回	50.0	%	
	活動 実施回数	12	回	活動 実施予定回数	12	回	100.0	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	582	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	1,120	人	52.0	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	12	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	16	人	75.0	%	
	ボランティア参加 延べ数	42	人	ボランティア参加 延べ予定数	52	人	80.8	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	83.5	10	予算内で実施することができた。					
2	実行委員会 会議 実施回数	50.0	7	忙しい方々が委員となったので、日程調整がうまく取れなかった。					
3	活動 実施回数	100.0	10	各実施先で確実に実施することができた。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	52.0	7	多数の方に参加を呼びかけたが、関心度合いが低かった。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	75.0	8	運営するスタッフとしては確実に実施できた。					
6	ボランティア参加 延べ数	80.8	8	運営を支援する地域のスタッフに恵まれた。					
7	プログラムの充実度		10	各地域で今後につなげれる事業となった。					
8	参加者の満足度		10	地域資源や人材、組織のネットワークができた。					
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	佐賀	8 点	地域の資源を次世代に繋ぐネットワークができた。						
2	武雄	8 点	集まる世代が片寄ってしまった、参加者が少なかった。						
3	基山	8 点	新住民と旧住民、市民活動団体とのネットワークができた						
	平均点	8 点							
実行委員会全体総括	参加者数は当初予定していた数より少なかったが、中身の濃い講師・内容だったので、今回の事業を通して、自ら立ち上がって運営していけるものと確信しています。				今後の課題	興味を引く内容と地域の課題をどう風に乗せて、参加できる仕組みが必要。			

都道府県名	宮崎県・鹿児島県	市区町村名	宮崎市・宮崎郡・児湯郡・都城市・鹿児島市	実行委員会代表者氏名					
実行委員会名	南部九州実行委員会			片野坂 千恵					
事業名				代表者所属団体名					
実施地域総数	10地域			NPO法人みやぎき子ども文化センター					
事業の目的	<p>宮崎市や鹿児島市の中心部では、マンションや団地が多く建ち並び住民同士のコミュニケーション不足が問題となっている。また、山村部では、過疎化が進み世代間の交流もままならない。そのような状況の中で、スポーツや環境を通して、また地域の歴史や文化を知ること、地域の方を誘い出すきっかけ作りとなり、交流がしやすくなる。また、高齢者や障がい者が参加することにより人とのつながりの再構築ができ、お互いの必要性、関係性を見出すことができる。</p>								
地域性と事業の全体的特徴				参加者延べ人数内訳					
<p>鹿児島では、総合的スポーツが盛んであり、比較的どの世代も参加がしやすいと思われる。一緒にスポーツをするということで、連帯感も生まれ、「人とのつながり、地域とのつながり」という点では、意識せず培われていくのではないかと。また、その土地の歴史や文化を知るといふ点では、地域の方の力が不可欠であり、行政や地域の公民館等も巻き込みながら実施していきけることが新しいつながりを作ることができる。都会に比べてまだ地域の方との密着度は高いと思うが、年々薄れてはきていると思う。それに歯止めをかけるいいきっかけ作りになると思う。</p>				未就学児	青少年	青年	成人一般	団塊世代	
				464	4478	41	3981	843	
				高齢者	男性のみ	女性のみ	その他		
	224	3878	4827						
事業実施データ	実績(2008年1月末時点の実績に、終了までの見込みを加えて記入)			事業申請時の予定数			達成度		
	事業支出金額	5,676,915	円	事業 予算金額	5,676,915	円	100.0	%	
	実行委員会 会議 実施回数	3	回	実行委員会 会議 予定回数	6	回	50.0	%	
	活動 実施回数	328	回	活動 実施予定回数	366	回	89.6	%	
	スタッフ以外の参加者 延べ数	10,613	人	スタッフ以外の参加者 延べ予定数	9,794	人	108.4	%	
	常任スタッフ参加 延べ数	473	人	常任スタッフ参加 延べ予定数	519	人	91.1	%	
	ボランティア参加 延べ数	714	人	ボランティア参加 延べ予定数	196	人	364.3	%	
事業実績の自己評価									
	実績項目	達成度	自己評価点						
1	事業支出金額	100.0	10						
2	実行委員会 会議 実施回数	50.0	7	実行委員全員が出席できないこともあったが、予定よりも少ない回数で情報交換はできたと思う。					
3	活動 実施回数	89.6	7	事業開始が遅れたため回数は減だが、半年間でこれだけ実施できたのは良かったと思う。					
4	スタッフ以外の参加者 延べ数	108.4	10	予定を上回ったことで驚いている。					
5	常任スタッフ参加 延べ数	91.1	8						
6	ボランティア参加 延べ数	364.3	9						
7	プログラムの充実度		10						
8	参加者の満足度		10						
Total	総合的な評価点		9						
個別地域ごとの事業実施に関する実行委員会としての自己評価									
	地域名	自己評価点	自己評価の根拠・理由						
1	鹿児島市	8点	団塊の世代や高齢者が地域に参加するきっかけを作れたと思う。						
2	鹿児島市与次郎地区他	9点	スポーツを通してうまく高齢者や障がい者を取り入れることができ、地域をつなげていった。						
3	宮崎県都城市	9点	地域の方に講師になってもらうことで生きがいができ、ネットワークも広がった。また行政とのつながりが密になった。						
4	宮崎県都城市横市町	8点	今まで取れていなかった保育園や自治会との連携がとれるようになった。						
5	宮崎市大塚・東大宮地区他	8点	普段つながりのない子育て支援者と子育て中の方がうまく交流することができ、お互いを知るきっかけとなった。						
6	宮崎市田野町	7点	地域の資源となる人材に掘り起こしと連携が取れるようになった。						
7	宮崎県 清武町	8点	環境、防災を通して人とのつながりの大切さを学ぶことができた。						
8	宮崎県 木城町	8点	地域の方だけでなく、町外からの参加により交流の場となり、地域の良さを再発見できた。						
9		点							
10		点							
11		点							
12		点							
13		点							
	平均点	8点							
実行委員会全体総括	<p>この事業を通して、今まで連携できなかった自治体や団体とつながることができ、今後の活動に幅が広がった。また、地域の方がとても協力的で、率先して参加していただき、講師も喜んで引き受けてくださった。この事業を知らない行政や団体もあり、当初実施するのは難しかったが、徐々に広まっていき、いくつかの地域より問い合わせがあり、次年度実施したいという声があった。 「地域の力」の強さ、必要性を改めて感じさせられた事業であった。今回培われたこのつながりを絶やさぬよう、さらに広められたらと思う。</p>			今後の課題	<p>地域によっては、年齢層のバラつきがあるので、なるべく広い範囲で参加できるような企画を実施できたと思う。 また、効果のあった地域に関しては、新しい企画の考案や第2段階へのステップが、効果が足りなかったところは、企画の充実・考案が必要であり、また広報を大々的に行なうことも必須である。</p>				

文部科学省平成19年度委託事業「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

## 全国子どもNPO運営協議会 構成団体

実行委員会名	事業件数	都道府県
0101 北海道実行委員会(5)	5	北海道
0102「すてきな村 すてきなあなた」実行委員会(1)	1	北海道
0401 アクティブルーム伊達っ子実行委員会(9)	9	宮城県
0501 大館ネットワーク実行委員会(1)	1	秋田県
0901 学びあいうつのみや食育体験実行委員会(1)	1	栃木県
1001「フィールドワーク桐生」実行委員会(1)	1	群馬県
1101 ちょっと教えて実行委員会(2)	2	埼玉県
1102 さいたま子ども劇場実行委員会(3)	3	埼玉県
1103 地域の宝を育てる会実行委員会(1)	1	埼玉県
1104 地域コミュニケーションプロジェクト実行委員会(6)	6	埼玉県
1105 健康広場実行委員会(1)	1	埼玉県
1106 みんな元気会実行委員会(1)	1	埼玉県
1107 ケンサッカーファミリー実行委員会(3)	3	東京都
1201 千葉まなびい実行委員会(5)	5	千葉県
1201 千葉中央実行委員会(9)	9	千葉県
1202 野田実行委員会(1)	1	千葉県
1202 野田西部地区実行委員会(1)	1	千葉県
1203 千葉西部実行委員会(9)	9	千葉県
1204 千葉北部実行委員会(5)	5	千葉県
1301 桜が丘大人の会実行委員会(1)	1	東京都
1302JAPAN SPORTS REVOLUTION 実行委員会(1)	1	東京都
1302 八王子物づくり体験実行委員会(1)	1	東京都
1303 ライフステージ歌舞伎実行委員会(1)	1	東京都
1304 新教連・親と子の学びあい教室実行委員会(2)	2	東京都
1305 西東京子どもドラマ塾実行委員会(1)	1	東京都
1306 特定非営利活動法人クレール実行委員会(2)	2	東京都
1307 和泉自由学校学びあい実行委員会(3)	3	東京都
1308 三世代のきずなを太くする実行委員会(1)	1	東京都
1401(財)新教育者連盟神奈川支部実行委員会(2)	2	神奈川県
1402「祭りの音」プロジェクト・横浜中央実行委員会(10)	10	神奈川県
1403 アプテックスナッツ実行委員会(3)	3	東京都
1404「祭りの音」プロジェクト・横浜金沢地区実行委員会(11)	11	神奈川県
1405 みんなのひろば実行委員会(1)	1	神奈川県
1406 よこはまアートコミュ実行委員会(7)	7	神奈川県
1501 北信越実行委員会(13)	13	新潟県
2001 あさま子ども教室実行委員会(2)	2	長野県
2002 清水の郷実行委員会(2)	2	長野県
2301 学びあい支えあい愛知実行委員会(13)	13	愛知県

2302 社会人のちよっと伝統芸能実行委員会(1)	1	愛知県
2303「祭りの音」プロジェクト・愛知尾張地区実行委員会(6)	6	愛知県
2601 京都子ども NPO 実行委員会(5)	5	京都府
2601 京都福祉 NPO 実行委員会(2)	2	京都府
2701 子どもNPO大阪府実行委員会(3)	3	大阪府
2801 兵庫実行委員会(6)	6	兵庫県
2802(財)新教育者連盟・大阪実行委員会(2)	2	兵庫県
2901 奈良東部子どもNPO実行委員会(11)	11	奈良県
2902 奈良西部子どもNPO実行委員会(10)	10	奈良県
2903 奈良南部子どもNPO実行委員会(10)	10	奈良県
3001 和歌山県実行委員会(2)	2	和歌山県
3101 地域学びあい支えあい鳥取実行委員会(1)	1	鳥取県
3301「学びあい、支えあい」岡山実行委員会(7)	7	岡山県
3401 中四国子どもNPO実行委員会(9)	9	広島県
3501 あっちこっち de アート実行委員会(1)	1	山口県
4001 北部九州ブロック実行委員会(12)	12	福岡県
4002 里山をまもる実行委員会(3)	3	福岡県
4101 さがを元気にする実行委員会(3)	3	佐賀県
4501 南部九州実行委員会(10)	10	宮崎県
4701 沖縄実行委員会(10)	10	沖縄県
4702 金融知力普及協会実行委員会(1)	1	沖縄県
59 実行委員会	257	

運営協議会構成員

No	氏名	所属・役職等
1	高比良 正司	(特)子ども劇場全国センター代表理事
2	藤原 市子	(特)子どもコムステーションいしかり代表
3	阿部 寛行	アクティブルーム伊達っ子実行委員会代表
4	中村 雪江	(特)子ども劇場千葉県センター専務理事
5	吉原 廣	(特)市川市民ネットワーク代表
6	名越 修一	(特)NPO 推進ネット事務局長
7	浅野 理恵子	(特)八王子子ども劇場代表理事
8	柳 弘紀	子ども劇場新潟県センター
9	山口 君子	(特)名古屋おやこセンター専務理事
10	竹内 香織	(特)京都子どもセンター代表
11	岡本 瑞子	(特)子ども NPO 和歌山県センター理事長
12	仲川 元庸	(特)奈良 NPO センター事務局長
13	米川 綾子	(特)兵庫県子ども文化振興会専務理事
14	糸山 嘉彦	(特)子ども劇場岡山県センター事務局長
15	毛利 葉	(特)子どもコミュニティネットひろしま専務理事
16	三好 美喜子	(特)子ども劇場山口県センター理事長
17	宮本 智子	(特)子ども NPO センター福岡事務局長
18	片野坂 千恵	(特)宮崎子ども文化センター事務局
19	下山 久	あしびなー自主事業実行委員会プロデューサー
20	福田 房枝	(特)子ども劇場全国センター理事
21	竹内 延彦	(特)子ども劇場全国センター理事
22	稲垣 秀一	(特)子ども劇場全国センター理事
23	真田 知幸	(特)NPO 推進ネット事務局



文部科学省平成19年度委託事業

「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業  
民間団体に取り組む「学びあい、支えあい」  
地域活性化推進事業に関する成果調査

Vol. 1

発行

全国子ども NPO 運営協議会

発行日

2008年3月

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-29-5 グランドメゾン新宿東902号

TEL : 03-5369-3611 FAX : 03-5369-3612

Eメール : manabiai@npo-suishin.net